

令和4年度「全学FDの日」実施

【期 日】令和4年9月14日(水) 9:00～12:00

【場 所】オンライン開催（+オンデマンド配信）

【テーマ】ブレンディッド・ラーニングの実践 × ルーブリックの導入

～ 学習成果の可視化を目指して ～

=====

令和2年度第3次補正予算「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」において、本学事業「ブレンディッド・ラーニングの推進と多面的評価による自律的学修者の育成 ～ LMSと連携したe-ポートフォリオの活用を通じて～」が採択され、この事業の一環として、まず、昨年度、教務ポータル、LMS、UU Career Naviなどのシステムが統一的に利用できるように整備されました。また、本年度からは、ブレンディッド・ラーニング（反転授業）が本格的に全学で導入され、今後は、ルーブリック評価により、学力を多面的かつ客観的に評価するとともに、学修成果を可視化していくこととなっています。

このような状況の下、本年の「全学FDの日」においては、学生にとって納得感が得られる学修成果の可視化を実現するために、ルーブリックをどのように活用し、学生の多様な学びを多面的かつ客観的に評価するのが望ましいかということについて、基礎的な理解を得ることとします。さらに、こうした理解をもとに、ブレンディッド・ラーニングにおけるルーブリック評価の可能性についても、参加者とともに議論を深めていく機会とします。

そこで、全学シンポジウムでは、まず、関西大学の岩崎千晶先生よりご講演いただきます。岩崎先生は、教育工学をご専門とし、「学びを育む学習環境のデザイン」をテーマにご研究を行うとともに、『ルーブリックの活用ガイド（教員用・学生用）』、『ルーブリックを片手に学びの航海をしよう(2018)』の作成やFDワークショップ、併設校のルーブリック策定への関わりなどを通じて、関西大学学園全体におけるルーブリック活用促進にも取り組んでおられます。これらのご経験をもとに、ルーブリックを活用した学習評価の重要性についてご講演いただきます。

次に、本学におけるブレンディッド・ラーニングとルーブリック評価の試行について紹介することで、学修成果の可視化に向けた道筋について全教職員で検討を行いたいと思います。

=====

【全学シンポジウム】

9:00 ～ 9:10 学長挨拶（10分）

9:10 ～ 9:15 趣旨説明・講師紹介（5分）

9:15 ～ 10:45 外部講師講演（90分）（質疑応答を含む）

関西大学 教育推進部 教授

岩崎 千晶 氏

「ルーブリックを活用した学習評価（仮題）」

10:45 ～ 11:00 休憩

11:00 ～ 11:30 実技科目におけるブレンディッド・ラーニングとルーブリック評価の試行と課題（30分）（質疑応答を含む）

共同教育学部

松浦 佑希 助教

11:30 ～ 12:00 本学におけるルーブリック試行について（30分）（質疑応答を含む）

PLUS-DX 推進チーム

酒井 一博 教授

【ベストレクチャー賞発表ならびに受賞者報告】

→ ベストレクチャー賞について見直しを行うため、現行のベストレクチャー賞は廃止とする。

【学部等の取組】 → 例年どおり同日午後を実施する。（テーマは自由）

（各学部の取組計画は別紙のとおり）

(別紙)

令和4年度「全学FDの日」個別FD活動企画

○地域デザイン科学部

日 時

コミュニティデザイン学科	9月27日(火)	10:30~12:00
建築都市デザイン学科	9月14日(水)	13:00~15:00
社会基盤デザイン学科	9月20日(火)	13:00~15:00

場 所 各学科会議室

テーマ ブレンディッド・ラーニングの効果を高めるために

内 容

地域デザイン科学部における授業改善は、授業参観を核としたPDCAサイクルによって行ってきた。今後は、ブレンディッド・ラーニングが全面的に導入されるため、授業参観のやり方に見直しが必要になっている。ブレンディッド・ラーニングの効果を高めるために、どのように授業参観を改善するかを、今年度のテーマとした。

日程の都合から学科単位で行うこととし、先行事例の紹介なども交えて、上記テーマについて意見交換を行う。前年度の検討結果として、授業の導入部においていかに参加意識を高めるかを今年度の重点課題とした。この課題に各人が取り組むためには授業参観にどのような工夫が必要か、後期での授業参観の本格実施に向けて検討を行う。

○国際学部

日 時 令和4年9月14日(水) 13:30~15:00

場 所 オンライン開催 (Zoom)

テーマ 国際学部としての基盤・高度教養科目の構築

内 容

令和5年度に基盤教育は大きく変わります。初期導入科目、リテラシー科目、留学生日本語科目は基本的に維持されますが、専門導入科目は学部の専門教育科目に移行し、新たな教養科目が設置されるからです。具体的には、人文・社会・自然・総合・初習外国語系の各教養科目群に基盤キャリア教育科目を加えたものを「リベラルアーツ科目」として大きくくり化します。そして、新たに1年次に知の統合(学際的内容)と知の活用(課題解決型の内容)を試みる「基盤教養科目」2単位必修と、3(4)年次に異なる専門知識・技能を獲得しつつある者と対話する力を身につける「高度教養科目」1単位必修が設置され、どちらもルーブリック評価を実施して、それぞれの時点における宇大スタンダードの獲得状況を可視化します。

令和4年度の国際学部個別FDでは、こうした基盤教育改革に備えて、「国際学部としての基盤・高度教養科目の構築」をテーマとする活動を行います。まず、松金基盤教育センター長より基盤教育改革についてご説明いただき、それを受けて参加者で「基盤教養科目」と「高度教養科目」の授業内容や担当体制をめぐって議論します。

○共同教育学部

日 時 令和4年10月25日(火) 16:00~17:30 (教授会後のため、若干の変動あり)

場 所 8号館E棟1階 8E11 教室

テーマ 学生の教職志向につなげる授業・教育の展開
ー高大接続から採用試験支援までを視野に入れてー

内 容

共同教育学部では「教員就職」という目標があり、他学部と異なる免許科目等の授業展開に加え、令和2年度から始まった共同学部化にあたっては大学間の授業の斉一性なども問われている。これらの様々な面に対する教員の工夫や努力と学生の教員就職とが繋がるのが学部としての喫緊の課題である。しかし、進路調査等のデータを見ると学生の教職志向に必ずしもつながっていない現状も垣間見られる。

各教員が個々の授業で教職志向を高める不断の取り組みことを意識すると同時に、学生のライフステージを考慮したときに、入口としての入試(高大接続)や出口としての教員採用試験の支援まで一貫した流れを見据えた中での授業・教育を考えていく必要もある。

今回の学部FDにおいては、上記の問題意識について以下の3名方から話題提供をしていただき、3つの観点からディスカッションを行う予定である。

- 話題A 入試のあり方おとび入学前学習支援等について
松村啓子教授(入試改善WG座長)
- 話題B 学部教育について
赤塚朋子教授(教育実践専門委員長)
- 話題C 教員採用試験(採用セミナー受講の段階から)について
株田昌彦准教授(就職支援委員長)

○工学部

日 時 令和4年9月27日(火) 13:30~14:30

場 所 アカデミアホール(対面) *コロナの感染状況によってはオンライン

テーマ 完成年度を迎えた基盤工学科における学生の学修状況について

内 容

各コースの4年生担任に光領域教員を加えた5名の教員をパネラーとして、表記テーマについてパネルディスカッションを行う。

- 1) まず、5名のパネラーについて話題提供をしてもらう。(5-10程度=30-50分を予定)
 - ・最初に、光領域教員*から見た研究室配属になった改組前後の学生の気質の変化などについて話題提供してもらう。
 - ・次に、各コースの4年生担任から各コースの研究室配属状況(留年)に対する改組前後の変化などについて、話題提供してもらう。

話題提供の視点として、1) 基盤工学科への改組は目的を達成したのか、2) 改組されたカリキュラムにうまく機能しているのか、カリキュラムを改正する必要があるのか、3) 基盤工学科をより良くしていくには、何が必要なのか、が挙げられる。

2) 提供された話題について、パネラー同士の議論だけでなく、フロアからの意見も積極的に受け、活発な議論を行う。(20-30分を予定)

*) 光領域の教員は、各コースに所属する一方、光工学Ⅰ(必修)、光工学Ⅱ(選択)などの授工学部全学生に対する教育に携っているのに加え、所属コースで研究室配属された学生以外に他コースの研究室学生と触れ合う機会も多いことから、近年の工学部学生の気質を網羅的に把握し、コースの縛りを超えて比較的客観的かつ敏感にその変化を感じ取れるものと期待される。

○農学部

日 時 令和4年9月14日(水) 13:30~15:30(予定)

場 所 オンライン会議(Teams)

テーマ PBL(Project Based Learning) 報告会

～地域課題解決に資する人材養成の拡充に向けて～

内 容

学部改組に伴うカリキュラムの見直しや基盤教育改革に伴う高度教養科目の実施を見据えて、農学部ミッション2022-2027の教育領域では、「PBL活動の充実による地域課題解決に資する人材養成の拡充」が戦略として掲げられている。また、同ミッションの令和4年度計画では「PBL活動の掌握と実施拡大への取り組み」、「PBLのFDや報告会を開催」、「農業関連機関講義を実施」とある。そこで、各学科や研究室のPBL活動の実施状況を報告し、取り組み内容や実施方法を共有する。また、今年度初めて実施した農業関連機関講義について紹介し、今後の継続実施について意見交換する。

次第(予定)

13:30~13:35 学部長挨拶

13:35~14:50 学科・研究室におけるPBL活動報告
(各学科15分程度、質疑応答含む)

14:50~15:05 農業関連機関講義の報告(秋山先生、質疑応答含む)

15:05~15:25 総合討議

15:25~15:30 閉会

宇都宮大学様

ブレンディッド・ラーニングの実践 × ルーブリックの導入 ～ 学習成果の可視化を目指して～



関西大学 教育推進部
岩崎千晶

ciwasaki@kansai-u.ac.jp

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~ciwasaki/>

© 2022 Chiaki Iwasaki.

今回のテーマ

- 目指すべきところ：学習成果の可視化
- 教育方法：ブレンディッドラーニング
- 評価方法：ルーブリック

- ①学習成果の可視化を実施することの意義について考えつつ、②ブレンディッドラーニングの授業設計や効果的な教育方法をさらりと触れつつ、③その評価方法になるルーブリックの活用方法をメインに取り上げる

- ルーブリックの活用はブレンディッドラーニングに絞らず対面授業も含める

Copyright © Chiaki Iwasaki All Rights Reserved.

1

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ブレンド型授業における授業設計（目標・方法・評価）のバランスをふりかえることができる
4. ルーブリックについて説明できる
5. ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる
6. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…

- ・簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- ・簡単な課題ルーブリックを作成できる

2

まずは…ルーブリックとは？

- 学習目標の達成度を判断するため、評価の観点(規準)と観点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した評価の基準から構成される評価ツール

- Rubrica 朱書き 重要な点を強調する宗教用語

- ルーブリックの活用ガイド(教員版)をご覧ください

© 2022 Chiaki Iwasaki.

3

レポートの評価 ルーブリック

評価の観点	評価の観点の説明	1	2	3	4
① 教員の課題意図の理解	教員の課題意図を理解し、それに沿った記述内容になっているか。	課題意図を理解できておらず、レポートの記述内容が課題に沿っていない。	課題意図を理解しているが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない箇所がある。	課題意図を理解しており、レポートの記述内容が課題の要件をおおむね満たしている。	課題意図を十分に理解しており、レポートの記述内容が課題の要件を過不足なく満たしている。
② 資料の取り扱い	資料に関して、その内容を適切に把握し、十分な検討をまとめてられているか。	資料に関する記述がない。	資料に関する記述があるが、その内容が適切でない。	資料に関する記述があり、その内容が適切である。	資料に関して、その内容を適切に把握でき、論に沿ってまとめられている。
③ 自分の立場・意見	自分の立場や意見が、説得力のある論拠とともに明確に提示されているか。	自分の立場・意見が提示されていない。	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている。かつオリジナリティがある。
④ 全体の構成	文章全体の構成について、序論・本論・結論、PREP等の形式になっているかどうか。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成ができていない。	序論・本論・結論、PREP等に沿った記述はみられるが、形式的に欠けている部分がある。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている。かつ内容的にも一貫している。
⑤ 学術的な作法	用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか。	満たしている項目が、1項目以下である。	満たしている項目が、2～3項目である。	満たしている項目が、4項目である。	満たしている項目が、5項目である。
⑥ 日本語の	日本語の文章として、表現・表記が適切であるか。	満たしている項目が、2項目以下である。	満たしている項目が、3～5項目である。	満たしている項目が、6～8項目である。	満たしている項目が、9項目以上である。

評価の尺度

評価の観点 = 授業目標

関西大学ライティングラボ 初年次教育用ルーブリック 4

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ブレンド型授業における授業設計（目標・方法・評価）のバランスをふりかえることができる
4. ルーブリックについて説明できる
5. ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる
6. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…

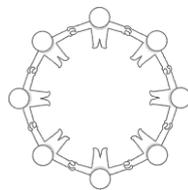
- ・簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- ・簡単な課題ルーブリックを作成できる

5

大学が置かれている現状

- 社会の変容（知識基盤社会・リスク社会）
- 求められる能力の変容（前に踏み出す力、チームで働く力等）
- 大学生の変容（18歳人口の減少、多様な入試制度等）

BIG DATA



© 2022 Chiaki Iwasaki.

6

中央教育審議会の動向

- 2013年8月に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学～」
- 2018年11月に公表された中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」
 - 学士課程教育におけるアクティブラーニングの導入
 - 教育の質保証：学習成果の可視化、把握

7

2013年8月に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学～」

学長を中心として、副学長・学長補佐、学部長及び専門的な支援スタッフ等がチームを構成し、当該大学の学位授与の方針の下で、学生に求められる能力をプログラムとしての学士課程教育を通じていかに育成するかを明示すること、プログラムの中で個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的な教育を展開すること、プログラム共通の考え方や尺度（アセスメント・ポリシー）に則った成果の評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化という一連の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立を図る。学長を中心とするチームは、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針（※）、学修の成果に係る評価等の基準について、改革サイクルの確立という観点から相互に関連付けた情報発信に努める。特に、成果の評価に当たっては、学修時間の把握といった学修行動調査やアセスメント・テスト（学修到達度調査）（※）、ルーブリック（※）、学修ポートフォリオ等、どのような具体的な測定手法を用いたかを併せて明確にする。

8

2018年11月に公表された中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」

- 基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材を養成
- 高等教育が「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」に転換
- 「何を教えたか」から、「何を学び、身に付けることができたのか」への転換

9

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）

- カリキュラム全体の構成や、学修者の知的習熟過程等を考慮し、単に個々の教員が教えたい内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容
- 時間と場所の制約を受けにくい教育研究環境へのニーズに対応するとともに、生涯学び続ける力や主体性を涵養するため、大規模教室での授業ではなく、少人数のアクティブ・ラーニングや情報通信技術（ICT）を活用した新たな手法の導入
- 学修の評価についても、学年ごとの期末試験での評価で、学生が一斉に進級・卒業・修了するという学年主義的・形式的なシステムではなく、個々人の学修の達成状況がより可視化されることが必要となる。

10

学習成果の可視化が必要な理由

- 中央教育審議会，大学
- 新しい能力の育成
- レポート・プレゼン等，パフォーマンス課題への対応
- **大切なことは…自律的な学習者を育成する**
- 学生が自分で「できている・できていない」「わかっている・わかっていない」ことを認識する必要性

© 2022 Chiaki Iwasaki

11

「わかる」ってどういうこと？「わかる」への誘い

- 「わかる」は非可逆的である
 - わかったものが元へ戻らないのは、それが真理として認識されるから、それを自分の経験や理由を通して信じるに至っているからである。
- 「わかる」とは、「わからないところがわかる」ことである。
 - わかるというのは、意味との対応が付くだけでなく、その未知なる部分もわかる。その意味で、わからない部分にいきあたると、疑問がわく
- 「わかる」とは、「絶えざる問いかけを行う」ことでもある
 - さらに、その概念を考えていると、ある概念と結びついていき、関連づいてくることもある。「わかる」とは「無関係であった者同士が」関連づいてくることでもある。

佐伯胖（1985）「学びの構造」東洋館出版社 p61

12

わからないことがわかると自立的に学んでいくきっかけにつながる

- 「自己調整は、人々が自分の資質、すなわち思考（たとえば有能さに関する概念）や情動（たとえば興味）、行動（たとえば、学習活動に取り組むこと）、社会的文脈的な環境（たとえば、勉強するために静かで心地よい場所を選ぶこと）を将来の望ましい状態に調整させていく中で、体系的に管理するプロセスである（p.6）」
- 教室外の学習、仲間との共同学習の場面で自己指導を進め、教師や仲間頻りに効果的援助を要請
- 自律性支援：学習者の視点に立ち、学習者自身の選択や自発性を補うことである。その対極には、特定の行動をとるようプレッシャーを与える統制が想定されている（Deci and Ryan 1987）

自己調整学習研究会（2012）「自己調整学習：理論と実践の新たな展開へ」北大図書

© 2022 Chiaki Iwasaki

13

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ルーブリックについて説明できる
4. ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる
5. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…

- 簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- 簡単な課題ルーブリックを作成できる

© 2022 Chiaki Iwasaki

14

教育の質保証：学習成果の可視化、把握

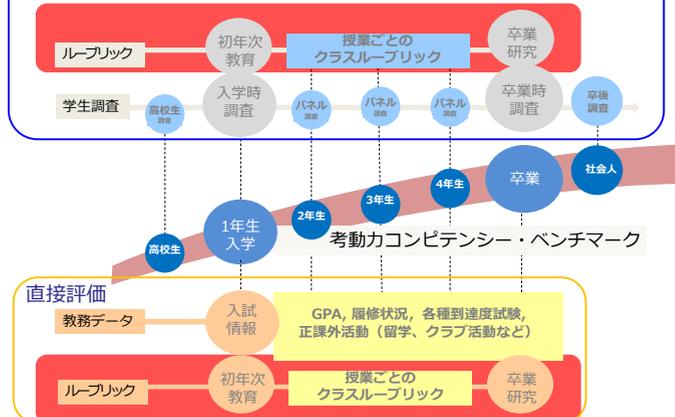
- **アセスメント・ポリシー**
 - ディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）などの plan の明示化
 - プログラムの効果検証
 - 個々の授業の成績評価
- **例**
 - 学修行動調査（学習時間の把握）
 - 学修到達度調査（育まれた能力の把握）
 - **ルーブリック**
 - ポートフォリオ

© 2022 Chiaki Iwasaki

15

アセスメント・プラン

間接評価：学生自身が評価する



岩崎千晶・多田泰敏 (2019) 今、あらためて学修成果とは何かを問う：関西大学事例報告資料より

KANSAI UNIVERSITY

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ブレンド型授業における授業設計 (目標・方法・評価)のバランスをふりかえることができる
4. ルーブリックについて説明できる
5. ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる
6. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…

- ・簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- ・簡単な課題ルーブリックを作成できる

17

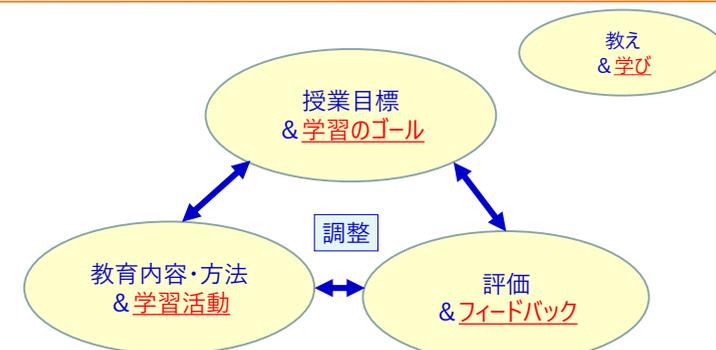
宇都宮大学

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」資料より

- ブレンディッド・ラーニング…
 - 複数の授業形式を組み合わせた授業形態全般を指し、LMSと対面での学習を組み合わせた授業形態を意味する
- その一種である反転授業では…
 - 基本的な知識の習得を事前学習として課す (講義動画やPDF資料等)
 - その後の対面授業では、事前学習における知識の習得を前提とした応用的なテーマや問題に学生同士で協働して取り組む (グループワーク, フィールドワーク, ディスカッション等)
 - より深い理解を導き出すことをねらいとしている

18

対面・ブレンド型の授業設計の基本は同じ

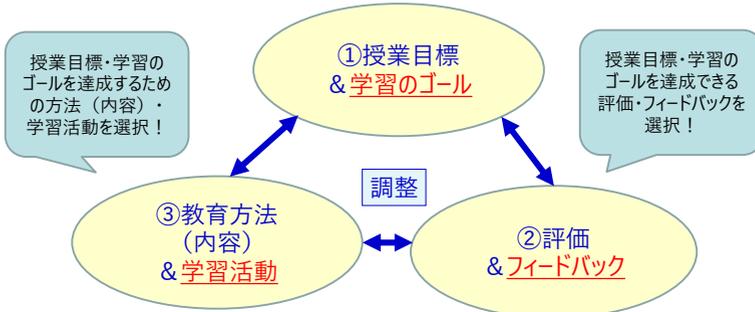


Online Learning Consortium, the Association of Public and Land-grant Universities, and Every Learner Everywhere (2020)
Delivering High-Quality Instruction Online in Response to COVID-19 Faculty Playbook, p.15,
[https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19\(2021.01.07\)](https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19(2021.01.07))

© 2022 Chiaki Inasaki

19

目標の達成をするための教育方法・評価を選択する

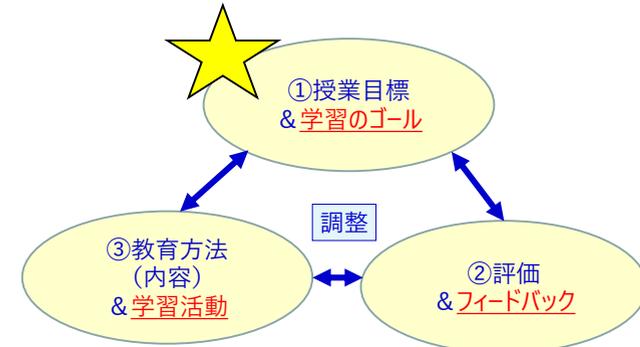


Online Learning Consortium, the Association of Public and Land-grant Universities, and Every Learner Everywhere (2020)
 Delivering High-Quality Instruction Online in Response to COVID-19 Faculty Playbook, p.15,
[https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/\(2021.01.07\)](https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/(2021.01.07))

© 2022 Chiaki Iwasaki

20

まずは目標・学習のゴールを設定する

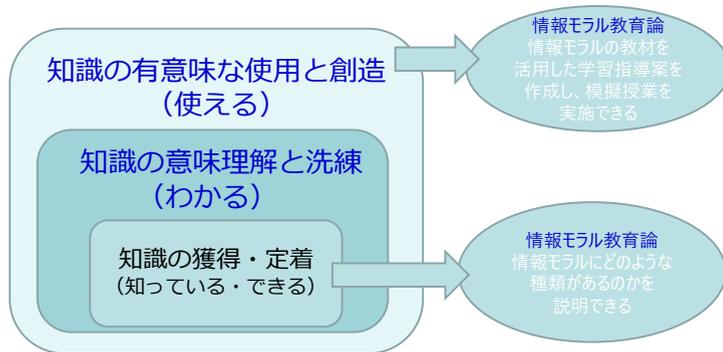


Online Learning Consortium, the Association of Public and Land-grant Universities, and Every Learner Everywhere (2020)
 Delivering High-Quality Instruction Online in Response to COVID-19 Faculty Playbook, p.15,
[https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/\(2021.01.07\)](https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/(2021.01.07))

© 2022 Chiaki Iwasaki

21

能力は階層性なので、どの能力を育むのかを整理

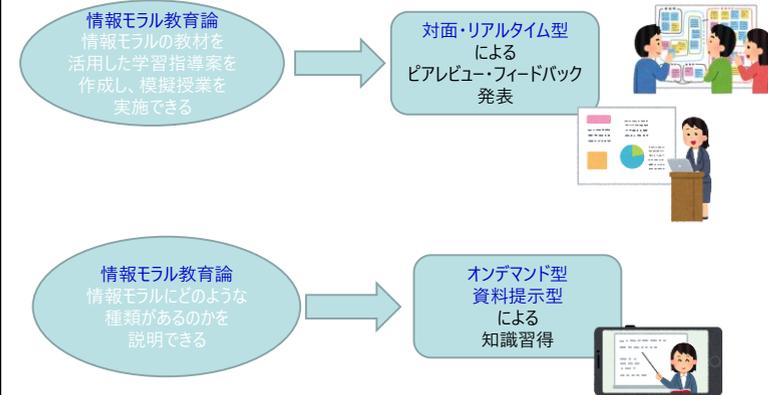


石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは—コンピテンシーベースのカリキュラムの光と影』日本標準。文部科学省(2015) p19より一部抜粋して著者により再構成
https://www.mext.go.jp/b_menu/shing/chukyos/chukyos3/053/siryu/_icsFiles/afieldfile/2015/08/2/1361102_2_4.pdf

© 2022 Chiaki Iwasaki

22

育みたい能力に合わせた教育方法を選択

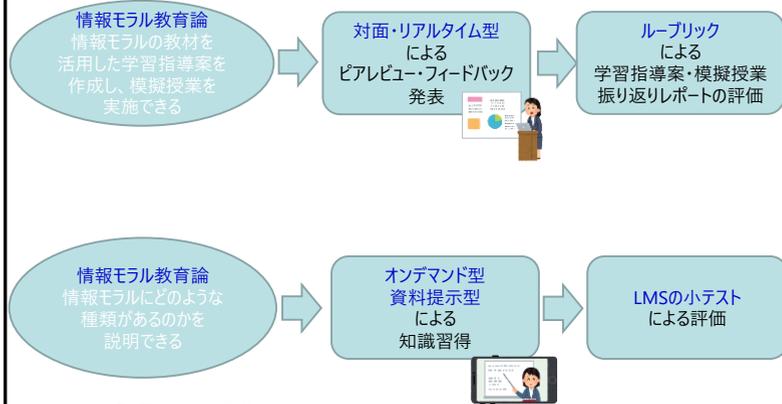


実際にある科目とは関係ありません

© 2022 Chiaki Iwasaki

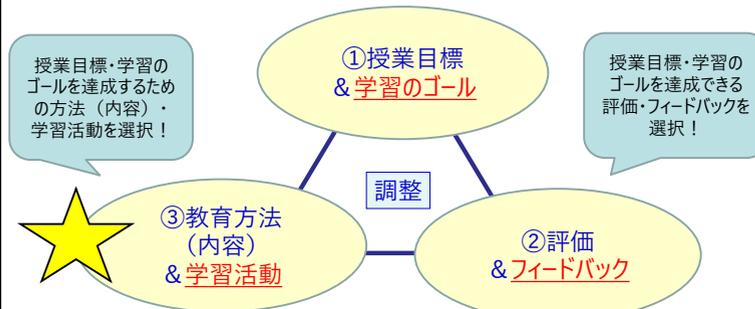
23

育みたい能力に合わせた評価方法を選択



実際にある科目とは関係ありません

目標達成をするための教育方法・学習活動を選択する



Online Learning Consortium, the Association of Public and Land-grant Universities, and Every Learner Everywhere, with support from the Bill & Melinda Gates Foundation (2020) *Delivering High-Quality Instruction Online in Response to COVID-19 Faculty Playbook*, p.15, <https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/2021.01.07>

反転で動画視聴後、対面授業でグループで意見交換

- アイスブレイクの実施
- 学習ガイド、司会、書記、発表、質問係等の役割分担の提示 (各自が何をするのかを明示)
- 活動の可視化
 - Office365のPPT共有機能
 - グループの進捗状況の把握



反転授業の動画制作

- 講義映像を配信+ **学習活動**



- 反転の映像視聴と1コマ (90分) が終わったときに各段階でどういう力が身につけばよいのかを明らかにする

- 映像は必要に応じて短めに分ける
 - 長さは20分程度。途中で一時停止して学習活動を挟むことも!

レクチャー系 YouTube...10分以内が多め
テレ 10~15分

- 映像を視聴するモチベーションをあげるための工夫

動画で配慮する点

- ①映像の中で、問いを投げかけてみる
- ②視聴前に、何を考えながら、どこに注意して視聴すればよいのかを提示する

情報モラル教育論：次の点に気を付けて視聴しよう！
 どんな危険性がある？
 中学生への指導のポイントはどこにありそうか？
- ③関連する学習活動を提示するなど、視聴後に何ができていればよいのかを提示する

情報モラル教育論：動画「本当にあったセキュリティの話」を見て、中学校の授業でどのように活用できそうかについてあなたの意見を記載してください
- ④ノートをとるように伝える。ノートを撮影して提出する

反転授業で資料を提供する

● 授業構成を確認

- 事前：スライドを確認+小テスト・BBS記入
- 対面：フィードバック(5分)、講義(20分)、意見交換&ワークシート記入等(15分)+フィードバック(5分) x2回

3-1. 期待理論 (expectancy theory)

Topic 6 : フォームの期待理論 (Vroom, V. H., 1964)

予測式の適用例 考えてみよう!

【問題】
X社の営業チームに、ある製品を各自が月に10台販売するという目標が課せられた。自分自身が努力すればこの目標を達成できる見込みを、課員のAさんは9割 (E=0.9)、Bさんは7割 (E=0.7) と見込んでいる。ところで、この仕事 (第一次結果) を通じては、さまざまな結果 (第二次結果 (二次的結果)) が得られると思われる。ここでは次者の実現度、それぞれが感じる魅力の度合い (誘惑性) と、目標を達成することでその結果が得られる見込み (道具性) について二人の認知を比較してみよう。

さて、AさんとBさん。どちらのモチベーションが大きいかな？

3-1. 期待理論 (expectancy theory)

Topic 6 : フォームの期待理論 (Vroom, V. H., 1964)

予測式の適用例 考えてみよう!

【問題】
X社の営業チームに、ある製品を各自が月に10台販売するという目標が課せられた。自分自身が努力すればこの目標を達成できる見込みを、課員のAさんは9割 (E=0.9)、Bさんは7割 (E=0.7) と見込んでいる。ところで、この仕事 (第一次結果) を通じては、さまざまな結果 (第二次結果 (二次的結果)) が得られると思われる。ここでは次者の実現度、それぞれが感じる魅力の度合い (誘惑性) と、目標を達成することでその結果が得られる見込み (道具性) について二人の認知を比較してみよう。

さて、AさんとBさん。どちらのモチベーションが大きいかな？

関西大学社会学部「産業・組織心理学」池内裕美教授 導入

- 導入・展開・まとめで学習できるように配慮
- 目標を達成できているかを確認する振り返り課題 + フィードバックが重要

皆さん、こんにちは!

前回もうまく受講できましたか？

ボクたちの残留と一緒に喜んでくれて、本当に嬉しかったニヤ。これからもわかりやすい説明、心がけるニヤ。でも今回も、前回同様“理論祭り”なんだ…

しかも、過程理論は内容理論以上に難しいって聞くワン！心配だワン…。

1-3. 内容理論と過程理論 ※ここが大事なポイント!

1) **内容理論 (content theory)**
 動機づけに関する理論のうち、人の行動を引き起こす動機の内容に注目する理論の総称 (何が人の行動を引き起こすのか) = **What**

2) **過程理論 (process theory)**
 行動を引き起こされる過程としての動機づけに焦点を当てる理論の総称。動機づけのメカニズムの理解を目指す。(モチベーションはどのように生まれ、変化するのか。どのように人は動機づけられるのか) = **How**

勉強中ニヤ まずはこの違いだけでも、きちんと頭の中で整理してね!

● 導入・テーマ

● 前回とのつながり

展開

3-1. 期待理論 (expectancy theory)

Topic 6 : フォームの期待理論 (Vroom, V. H., 1964)

予測式の適用例 考えてみよう!

【問題】
X社の営業チームに、ある製品を各自が月に10台販売するという目標が課せられた。自分自身が努力すればこの目標を達成できる見込みを、課員のAさんは9割 (E=0.9)、Bさんは7割 (E=0.7) と見込んでいる。ところで、この仕事 (第一次結果) を通じては、さまざまな結果 (第二次結果 (二次的結果)) が得られると思われる。ここでは次者の実現度、それぞれが感じる魅力の度合い (誘惑性) と、目標を達成することでその結果が得られる見込み (道具性) について二人の認知を比較してみよう。

さて、AさんとBさん。どちらのモチベーションが大きいかな？

3-1. 期待理論 (expectancy theory)

Topic 6 : フォームの期待理論 (Vroom, V. H., 1964)

予測式の適用例 考えてみよう!

【問題】
X社の営業チームに、ある製品を各自が月に10台販売するという目標が課せられた。自分自身が努力すればこの目標を達成できる見込みを、課員のAさんは9割 (E=0.9)、Bさんは7割 (E=0.7) と見込んでいる。ところで、この仕事 (第一次結果) を通じては、さまざまな結果 (第二次結果 (二次的結果)) が得られると思われる。ここでは次者の実現度、それぞれが感じる魅力の度合い (誘惑性) と、目標を達成することでその結果が得られる見込み (道具性) について二人の認知を比較してみよう。

さて、AさんとBさん。どちらのモチベーションが大きいかな？

● 新しい事柄の学習

● 練習問題
 ● 学生が自分で理解度を確認できる

まとめ

今日も理論が多い上に難しく大変だったニヤ。でも、途中で切るわけにもいなくて申し訳なかったニヤ...

そうだワン！頭がバンクしそうだワン！過理論も内容理論みたいなまとめが欲しいワン!!

うーん。確かに前回、「まとめがあつて良かった！」といった声が多かったニヤ。でも、今回は横の関連性があまりないから、各自で整理して貰うと助かるニヤ。ごめんニヤさい。

その代わり、全体像をもう一度図示化しておくので、内容理論も含めて復習してみてね。あと今回は適切な動画が無かったので、動画紹介は休みとするニヤ。

モチベーション理論のまとめ

- マズローの欲求階級説
- アンダーソンの成長理論
- マズローの達成動機理論
- マズローの欠損理論
- ハーズバーグの豊饒説
- ワルシュの期待理論
- ボウリングハウスの期待理論
- ロジャースの自己決定理論
- アズマの公正理論

今日はここまで！
 忘れないように「小テスト」と「感想」も入力してね。
 パスワードは「」です！
 今日は数式が多くて大変だったワン。でも頑張ったワン！次回も一緒に授業受けようね！

フィードバック見てね。

- 学生の気持ちを代弁
- 共感→安心
- まとめで整理
- 小テストで理解度の確認
- 感想で学生の声を引き出す

© 2022 Chiaki Iwasaki. 32

質の高いブレンド型授業を行うポイントは… 「教え」から「学び」へのパラダイムシフト

教え & 学び

授業目標 & 学習のゴール

調整

教育方法 (内容) & 学習活動

評価 & フィードバック

Online Learning Consortium, the Association of Public and Land-grant Universities, and Every Learner Everywhere (2020)
 Delivering High-Quality Instruction Online in Response to COVID-19 Faculty Playbook, p.15,
[https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19\(2021.01.07\)](https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19(2021.01.07))

© 2022 Chiaki Iwasaki. 33

事例1：ミニツッパーパーを利用されている場合

授業の前半…

授業の後半…
LMS掲示板の活用
多くの学生の意見共有

© 2022 Chiaki Iwasaki. 34

メディア教育論の例：デジタル教科書を活用することで各科目でどのような教育が展開できそうか？

1] (2019-20555)
 第三回授業についての意見交換1]
 さんがログイン中

掲示板メニュー

- ▶ トップ
- ▶ 管理者モード
- ▶ 投稿件数一覧

記事の検索

検索

会議室を開じる

小学校教科書のICT活用

小学校4年理科「月と星」
 「カサオペア室は、午後7時から9時にはどの位置へ移動しているか」という課題についてグループで考えを出し合い、予想を立てる。課題の確かめとして天文シミュレーションソフトを使い、午後7時から9時の天体図を見て、カサオペア室がどのように動いたかを確かめる。シミュレーションソフトで実際の月や星の動きを動画として見ることで、動きのきまりを理解することができる。
 しかし、実際に子ども自身が自分の目で夜空を眺め、天体観測することも自然に慣れることとして大切であるため、その機会損失につながる可能性もある。

この記事に返信する

© 2022 Chiaki Iwasaki. 35

掲示板のテーマ例

- 授業内容の振り返り
 - 授業を振り返って、学んだこと考えたことを書きましょう
 - 授業で取り上げたテーマについて、PCで調べ、その結果を書きましょう
- 次の授業への動機づけ
 - 授業までに教科書XX頁を読み、その感想を書きましょう
- 授業への参加意識の向上
 - 意見交換の内容を授業でも取り上げる
- 学生同士による知の再構成を促進
 - (…) に関する問題作成、 (…) に関するノート作成

事例2：小テストを実施している場合…

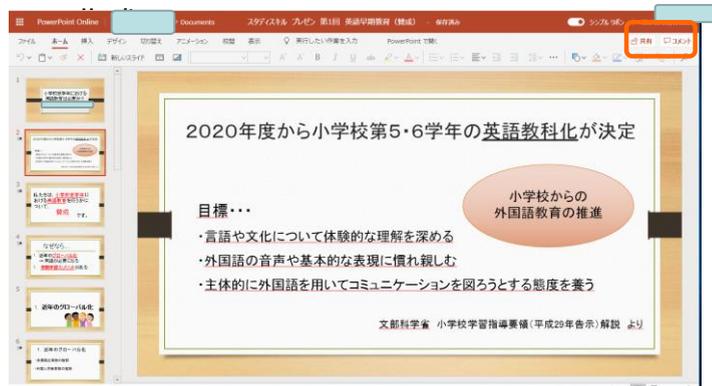
- 小テストの結果をもとに学習者の理解度を把握する
- 間違いの多い項目について解説をする

→即時のフィードバック



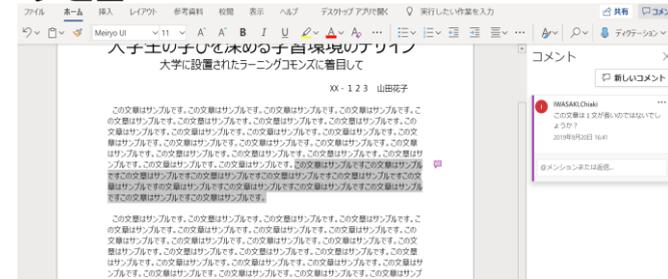
事例3：グループプレゼンをしている場合…

- Office365によるグループプレゼン資料の共有



事例4：初年次教育で書き方を教えている場合…

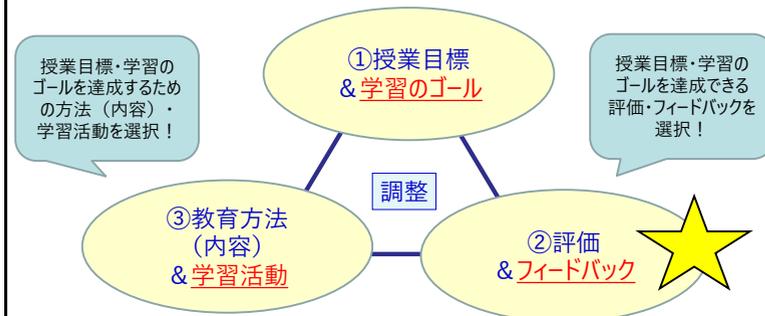
- レポートの書き方についての説明をeラーニングで視聴、授業で紹介
- Office365 Wordを使ってレポート作成・ピアレビュー



学習支援組織が提供する学習教材を活用：アカデミック日本語ライティング

© 2022 Chiaki Iwasaki. 40

目標達成のための評価・フィードバック方法を選択する



Online Learning Consortium, the Association of Public and Land-grant Universities, and Every Learner Everywhere, with support from the Bill & Melinda Gates Foundation (2020) *Delivering High-Quality Instruction Online in Response to COVID-19 Faculty Playbook*, p.15. [https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/\(2021.01.07\)](https://www.everylearnereverywhere.org/resources/delivering-high-quality-instruction-online-in-response-to-covid-19/(2021.01.07))

© 2022 Chiaki Iwasaki.

41

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ブレンド型授業における授業設計 (目標・方法・評価)のバランスをふりかえることができる
4. ルーブリックについて説明できる
5. ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる
6. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…

- ・簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- ・簡単な課題ルーブリックを作成できる

© 2022 Chiaki Iwasaki.

42

まずは…ルーブリックとは？

- 学習目標の達成度を判断するため、評価の観点(規準)と観点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した評価の基準から構成される評価ツール
- Rubrica 朱書き 重要な点を強調する宗教用語
- ルーブリックの活用ガイド(教員版)をご覧ください

© 2022 Chiaki Iwasaki.

43

レポートの評価 ルーブリック

評価の観点	評価の観点の説明	1	2	3	4
① 教員の課題意図の理解	教員の課題意図を理解し、それに沿った記述内容になっているか。	課題意図を理解できておらず、レポートの記述内容が課題に沿っていない。	課題意図を理解しているが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない箇所がある。	課題意図を理解しており、レポートの記述内容が課題の要件をおおむね満たしている。	課題意図を十分に理解しており、レポートの記述内容が課題の要件を過不足なく満たしている。
② 資料の取り扱い	資料に関して、その内容を適切に把握し、十分な検討をしてまとめられているか。	資料に関する記述がない。	資料に関する記述があるが、その内容が適切でない。	資料に関する記述があり、その内容が適切である。	資料に関して、その内容を適切に把握しており、論に沿ってまとめられている。
③ 自分の立場・意見	自分の立場や意見が、説得力のある論拠とともに明確に提示されているか。	自分の立場・意見が提示されていない。	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示されている。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できており、かつオリジナリティがある。
④ 全体の構成	文章全体の構成について、序論・本論・結論、PREP等の形式になっているかどうか。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成ができていない。	序論・本論・結論、PREP等に沿った記述はみられるが、形式的に欠けている部分がある。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできており、かつ内容的にも一貫している。
⑤ 学術的な作法	用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか。	満たしている項目が、1項目以下である。	満たしている項目が、2～3項目である。	満たしている項目が、4項目である。	満たしている項目が、5項目である。
⑥ 日本語の	日本語の文章として、表現・表記が適切であるか。	満たしている項目が、2項目以下である。	満たしている項目が、3～5項目である。	満たしている項目が、6～8項目である。	満たしている項目が、9項目以上である。

評価の尺度

評価の観点 = 授業目標

関西大学ライティングラボ 初年次教育用ルーブリック 44

どんな利用方法がありそうでしょうか？

- 1年生向けの授業

【種類】

- レポート
- プレゼンテーション
- ディベート …

レポート課題での利用 (例)

1	イントロダクション
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	レポート課題提示
11	レポート作成
12	
13	
14	
15	まとめ・課題提出

1. 教員がレポート課題を出す際に、学生にルーブリックを配付する。
2. 学生は、ルーブリックを参照しながら、レポート作成を行う。
3. 学生は、完成した課題を教員に提出する。提出の際に、学生は、自己評価を行ったルーブリックを添付する。

プレゼンテーション課題での利用 (例)

1	イントロダクション
2	
3	
4	
5	
6	中間プレゼンテーション
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	最終プレゼンテーション
15	

1. 教員がプレゼンを実施する前に、学生にルーブリックを配付する。
2. 学生は、自身のプレゼンに対して自己評価をし、オーディエンスはルーブリックを基に他の学生のプレゼンを評価する。
3. 上記 1～2 と同様

初年次教育の場合

A. 共通のルーブリックを改変せずに使用

B. ルーブリックを一部改変して使用

- B1. 項目の修正及び追加・削除
- B2. 記述語の修正

C. ルーブリックを見本とした上で、新たに独自に作成

D. ルーブリックを見本とした上で、学生に作成させて使用

48

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ブレンド型授業における授業設計（目標・方法・評価）のバランスをふりかえることができる
4. ルーブリックについて説明できる
5. [ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる](#)
6. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…

- ・簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- ・簡単な課題ルーブリックを作成できる

49

ルーブリック活用の意義

1. パフォーマンスを評価するために有効
2. 学生が学習活動における方向性を理解し、授業目標を達成できたのかを確認するために有効
3. 学生(同志) のリフレクションの力を伸ばす際に有効
4. 複数人数で担当する教科において教育・評価の質を保つために有効

© 2022 Chiaki Iwasaki.

50

ルーブリック活用の意義

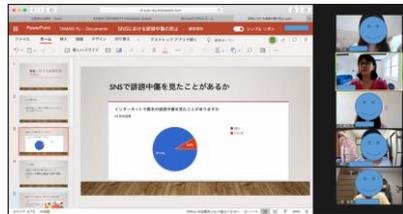
1. [パフォーマンスを評価するために有効](#)
2. 学生が学習活動における方向性を理解し、授業目標を達成できたのかを確認するために有効
3. 学生(同志) のリフレクションの力を伸ばす際に有効
4. 複数人数で担当する教科において教育・評価の質を保つために有効

© 2022 Chiaki Iwasaki.

51

パフォーマンスの評価が必要になる活動

- レポート
- ディスカッション
- プレゼンテーション



「スタディスキルゼミ グループプレゼンテーションの振り返りレポート」

学籍番号: B2XX-XXXX 氏名: 田中ひろみ

わたしたちは今回、死刑制度の廃止について賛成というテーマでプレゼンテーションをした。そこで学んだグループで輪廻型のプレゼンテーションを行う際に配慮すべきことは、資料はかみやくシンプルにし、紙や白紙にすること、アニメーションを強調したい部分につけること、説明するときの言葉は分かりやすい言葉を使うこと、下を見ず聞き手の顔を見て反応を確かめながら話を進める。信頼できるサイトの的確な情報を載せることだ。私たちの話は、上記のことに関して自信しながら資料作りを出来たと思う。発表まで授業の時間だけでは足りず、全員で集まる時間を作り協力し合うことができた。各人自身が自分の意見を言い合い議論しながら進めていくことができたと思う。また、多くの情報を調べて載せることができていたことがよかったと思う。

私の反省点としては、練習不足で説明しながらスライドを押すのを忘れてしまっている場面が多く見られたので各自もう少し練習する必要があると思う。個人の反省点としては、説明する内容あまり見だされなかったためメモを見ながら話して聞き手の顔が見れずどんな反応していたのかが分からなかったこと、話さずしてしまっていた部分も少なくないことだ。また身振り手振りをつけて話せばもっと伝わりやすくなると思った。他の組のプレゼンを見て、聞き手みんなの表情を見ながら話していたりスライドに工夫して聞き手を飽きさせないように話し言葉も工夫していたり自分にはできていなかったこと話さずして話して聞いてもらうのがいい。発表後の振り返りも大切だ。



ルーブリック活用の意義

1. パフォーマンスを評価するために有効
2. 学生が学習活動における方向性を理解し、授業目標を達成できたのかを確認するために有効
3. 学生(同志) のリフレクションの力を伸ばす際に有効
4. 複数人数で担当する教科において教育・評価の質を保つために有効

学期後ではなく、学期中に到達目標を確認する機会を設ける

- レポートやプレゼンの評価の観点を提示し、たどりついたのかを知る機会やどうやってそこへ行けばいいのかをサポートする
- Where am I going? (どこへ行くのか?)
- How do I know when I get there?(たどりついたかどうかをどうやって知るのか?)
- How do I get there?(どうやってそこへ行くのか?)

メージャー・R.F著、産業行動研究所訳(1974)『教育目標と最終行動—行動の変化はどのようにして確認されるか—』産業行動研究所、p.5.
鈴木克明(2014)『2014年度 日本教育工学会 FD特別委員会大学教員のためのFD研修会ワークブック』

ルーブリック活用の意義

1. パフォーマンスを評価するために有効
2. 学生が学習活動における方向性を理解し、授業目標を達成できたのかを確認するために有効
3. 学生(同志) のリフレクションの力を伸ばす際に有効
4. 複数人数で担当する教科において教育・評価の質を保つために有効

プレゼンテーション大会、初年次教育等

- グループプレゼンやスピーチの評価をする際
 - 学生が自分でルーブリックを活用して活動をふりかえる
 - 学生同士でルーブリックを活用してコメントをしい、その結果をもとに活動をふりかえる
- 初年次教育は同じ内容を複数の教員で教えることが多いため、教育・評価の質を保つ
 - 学際的なことを扱う学部
 - 非常勤講師

© 2022 Chiaki Iwasaki.

56

学生の躰きや理解度が分かることで
学生は支援を求め、教員はケアができる

- レポートのルーブリックをもとに、教員は学習者の理解度を把握し、翌週の授業で補足をする
- 学生の躰きを把握する必要性（石井2020）
 - やり方：課題は出たけれど、何するの？
 - 内容：授業で扱っている内容がわからない
 - 学び方：課題は出たけれどどう取り組み、すすめるの？
 - 意欲：課題は出たけど、やる気が…ない

石井英真 (2020) 「子どもたちの『学びを保障する』とはどういうことか」『教職研修』編集部 (編集)、岩瀬直樹・西郷孝彦・石川晋・中原淳・藤原和博・秋田真代美・赤沢早人・石井英真・赤須正裕・田村学・溝上慎一・堀垣忠・平井聡一郎・平川理恵・梶谷真司・新保元康・木村奈子・山本宏樹・住田昌治・妹尾昌俊・市川力・小高美恵子「ポスト・コロナの学校を描く(教職研修総合特集 701号)」pp.62-70. 教育開発研究所.

© 2022 Chiaki Iwasaki.

57

ルーブリックは有効…でも評価の方法は様々

- **ルーブリック**
- テスト
- 小テスト
- レポート
- 口頭発表
- プロジェクト・実験
- ポートフォリオ
- 観察
- 出席状況・参加度・課題 など

ジョンソン, D.W. ジョンソン, R.T (2016) 「協同学習を支えるアセスメント評価」ナカニシヤ出版

© 2022 Chiaki Iwasaki.

58

ルーブリックの種類



1. ミクロ
- 課題・科目
2. ミドル
- カリキュラム
3. マクロ
- 全学, 大学レベル
4. 大学間で共有

© 2022 Chiaki Iwasaki.

59

ルーブリックを活用したレポートの評価

評価の観点	評価の観点の説明	1	2	3	4
① 教員の課題意図の理解	教員の課題意図を理解しそれに沿って書く内容になっているか。	課題意図を理解できておらず、レポートの記述内容が課題に沿っていない	課題意図を理解しているが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない箇所がある	課題意図を理解しておりレポートの記述内容が課題の要件をおおむね満たしている	課題意図を十分に理解しており、レポートの記述内容が課題の要件を満たしている。
② 資料の取り扱い	資料に関して、その内容を適切に把握し、十分な検討をまとめてもらっているか。	資料に関しての記述がない	資料に関する記述はあるが、その内容を把握できていない	資料に関して、その内容を把握できており、まとめられている	資料に関して、その内容を把握できており、論に沿ってまとめられている
③ 自分の立場・意見	自分の立場や意見が、説得力のある論拠とともに明確に提示されているか。	自分の立場・意見が提示されていない	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できており、かつオリジナリティがある
④ 全体の構成	文章全体の構成について序論・本論・結論、PREP等の形式になっているかどうか。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成ができていない	序論・本論・結論、PREP等に沿った記述はみられるが、形式的に欠けている部分がある	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にも貫いている
⑤ 学術的な作法	用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか。	満たしている項目が、1項目以下である	満たしている項目が、2～3項目である	満たしている項目が、4項目である	満たしている項目が、5項目である
⑥ 日本語の表現	日本語の文章として、表現・表記が適切であるか。	満たしている項目が、2項目以下である	満たしている項目が、3～5項目である	満たしている項目が、6～8項目である	満たしている項目が、9項目以上である

関西大学ライティングラボ 初年次教育用ルーブリック 60

⑤学術的な作法

- 1 表題、所属（学籍番号、学部、学年等）、氏名の基本的な情報が記されている。
- 2 出典を明示しており、自分の意見と他者の意見を区別している。
- 3 本文中の引用方法について、ルールに従って表記されている。
- 4 巻末の文献表があり、分野ごとのルールに沿って表記されている。
- 5 専門用語の定義付けや使い方が適切である。

⑥日本語の表現

- 1 誤字脱字がない。
- 2 文法の間違いが無い。
- 3 一文の長さが適切である。
- 4 文体が統一されている。
- 5 主語・述語が呼応している。
- 6 句読点の使い方が適切である。
- 7 段落の作り方（一字下げ、行替え、長さ）が適切である。
- 8 重複表現（接続詞、文末）がない。
- 9 論文では避けたい表現（隠語、俗語、口語表現）がない。
- 10 ページのレイアウト（行数・文字数、余白、ページ数の付与）が適切である。

61 © 2022 Chako Iwasaki

西洋史 教員O

【 】レポート・ルーブリック

課題：アメリカ植民地がイギリスから独立することでアメリカ合衆国という国が誕生したことを考察し、その国際情勢との関わりを中心として、イギリスやフランスの植民地と対比しながら400字程度で述べなさい。

参考

●当てはまる欄に○をつけて自分のレポートをチェックしてみましょう。

評価の観点	評価の観点の説明	4	3	2	1
A 課題の理解	与えられた課題の内容を把握し、その内容をテーマとしているか。	与えられた課題の内容を十分に把握し、その内容をテーマとしている	与えられた課題の内容を把握し、その内容をテーマとしている	与えられた課題の内容を把握し、その内容をテーマとしている	与えられた課題の内容を把握し、その内容をテーマとしている
B 資料の把握	与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理しているか。	与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している	与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している	与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している	与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している
C 情報の収集	課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出しているか。	課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している	課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している	課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している	課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している
D 自分の意見	課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べているか。	課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている	課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている	課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている	課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている

※信頼できるデータや先行研究とは、大学・公共機関、新聞など公共性・信頼性の高い情報源を指します。

チェックリスト【A】 課題・資料

- 課題文（問い）を正確に読み取っている
- 文体が「できる体」で統一している
- 一文が一行以上になる長さになっている
- 段落の構成は「序論・本論・結論」になっている
- 段落の長さが適切である
- 誤字・脱字がない
- 句読点の使い方を適切にしている
- 用語の定義を適切にしている
- 用語の表記を統一している（例：「イギリス」か「イギリス」か）

チェックリスト【B】 整理・構成

- 課題文・問いの構成（問い・整理・解答）が適切になっている
- 序論・本論・結論の構成が適切になっている

□ テキスト・配布プリント・教科書等を参考とする場合は、丸書きではなく内容を転記したうえで自分の言葉で表現する

□ インターネット上の情報を引用する場合は、URL、引用日時を明記している

メモ:

62

ルーブリックサンプル

期末レポートに関するルーブリック(想定する文章: 論議型レポート、2000 字程度、対象: 1・2 年生) © 関西大学ライティングラボ(吉田由紀, 毛利真樹, 小林美穂, 西澤真智子) 2019 年度 第 24 回 調査書

評価の観点	評価の観点の説明	がんばろう!	もう少し頑張ろう	優秀
① 課題の理解	自分の課題を正しく理解しているか。	資料に関する記述がない	資料が少し不足している	自分の課題に関連する資料が十分に提示されている
② 資料の把握	与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理しているか。	資料が不足している	資料が少し不足している	自分の課題に関連する資料が十分に提示されている
③ 情報の収集	課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出しているか。	自分の意見が提示されていない	自分の意見が提示されていない	自分の意見が提示されている
④ 自分の意見	課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べているか。	自分の意見が提示されていない	自分の意見が提示されていない	自分の意見が提示されている
⑤ 全体の構成	文章全体の構成が適切であるか。	文章全体の構成が適切でない	文章全体の構成が適切でない	文章全体の構成が適切である
⑥ 学術的な作法	用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか。	1-4 の項目が満たされていない	1-4 の項目が満たされていない	1-4 の項目が満たされている
⑦ 日本語の表現	日本語の文章として、表現・表記が適切であるか。	1-3 の項目が満たされていない	1-3 の項目が満たされていない	1-3 の項目が満たされている

- ① 課題の理解
 - 1 課題文(問い)を正確に読み取っている
 - 2 課題文(問い)を正確に読み取っている
 - 3 課題文(問い)を正確に読み取っている
 - 4 課題文(問い)を正確に読み取っている
- ② 資料の把握
 - 1 与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している
 - 2 与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している
 - 3 与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している
 - 4 与えられた課題のポイントを把握し、テーマに沿って適切な文字数で整理している
- ③ 情報の収集
 - 1 課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している
 - 2 課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している
 - 3 課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している
 - 4 課題の解決に必要な資料を、信頼できるデータや先行研究から十分に探し出している
- ④ 自分の意見
 - 1 課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている
 - 2 課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている
 - 3 課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている
 - 4 課題の解決に必要な資料を用いたうえで、自分の意見を述べている
- ⑤ 全体の構成
 - 1 文章全体の構成が適切である
 - 2 文章全体の構成が適切である
 - 3 文章全体の構成が適切である
 - 4 文章全体の構成が適切である
- ⑥ 学術的な作法
 - 1 用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られている
 - 2 用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られている
 - 3 用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られている
 - 4 用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られている
- ⑦ 日本語の表現
 - 1 誤字脱字がない
 - 2 文法の間違いが無い
 - 3 一文の長さが適切である
 - 4 文体が統一されている
 - 5 主語・述語が呼応している
 - 6 句読点の使い方が適切である
 - 7 段落の作り方(一字下げ、行替え、長さ)が適切である
 - 8 重複表現(接続詞、文末)がない
 - 9 論文では避けたい表現(隠語、俗語、口語表現)がない
 - 10 ページのレイアウト(行数・文字数、余白、ページ数の付与)が適切である

本ルーブリックは、2019年度版「文科系論文書式」を改訂したものである。改訂された内容は、本ルーブリックの「優秀」欄に示されている。

63

ルーブリックサンプル

ライティングセンタールーブリック

© 関西大学ライティングセンター (小林美穂, 毛利美穂, 西崎真貴子)
 関西大学ライティングセンター (大阪電子, 藤野真美)
 2016年10月5日改定

書いた文章の有様	1 (1-2ステップ)	2 (3ステップ)	3 (4ステップ)	4 (5ステップ)	5 (6ステップ)	評価者	評価日	年	月	日	評価理由	
目的	1 (1-2ステップ)	2 (3ステップ)	3 (4ステップ)	4 (5ステップ)	5 (6ステップ)	評価者	評価日	年	月	日	評価理由	
① 目的性	・目的が明確で、何をしようとしているのかが分かる	・ライティングのプロセスがわかる。情報収集や分析、整理などが考慮されている	・課題に対して、よい問いが投げられている	・課題に対して、よい問いが投げられている	・課題に対して、よい問いが投げられている							
② 学術的正確性	・課題に関する情報が正確である	・課題に関する情報が正確である	・課題に関する情報が正確である	・課題に関する情報が正確である	・課題に関する情報が正確である							
③ 課題理解力	・課題について、何を問われているのかがよくわかる	・文章全体をよんで何が言いたいのかよくわかる	・文章全体をよんで何が言いたいのかよくわかる	・文章全体をよんで何が言いたいのかよくわかる	・文章全体をよんで何が言いたいのかよくわかる							
④ 情報収集・分析力	・課題に関する資料を探していない	・課題に関する資料を探しているが、その内容について整理ができていない	・課題に関する資料を探しているが、その内容について整理ができていない	・課題に関する資料を探しているが、その内容について整理ができていない	・課題に関する資料を探しているが、その内容について整理ができていない							
⑤ 論理的思考力	・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠がない	・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠があるが、多量で整理ができていない	・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠があるが、多量で整理ができていない	・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠があるが、多量で整理ができていない	・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠があるが、多量で整理ができていない							
⑥ 表現・発力力	・誤字・脱字・文法の統一など、表現にわたる問題が多量にある	・誤字・脱字・文法の統一など、表現にわたる問題がある	・誤字・脱字・文法の統一など、表現にわたる問題がある	・誤字・脱字・文法の統一など、表現にわたる問題がある	・誤字・脱字・文法の統一など、表現にわたる問題がある							

本ルーブリックは、2012 (平成24) 年度開始 文部科学省 大学設置・学務部 教育課程推進事業 (教育、表現、発達の力を伸ばすライティング/キッキング) で作成されたものです

愛媛大学教育学研究科 ルーブリック

領域	評価項目	A	B	C	D	評価理由
① 現代の教育課題への意識	現代社会の急激な変化における教育の課題を認識し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	現代社会の急激な変化における教育の課題を認識し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	現代社会の急激な変化における教育の課題を認識し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	現代社会の急激な変化における教育の課題を認識し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	現代社会の急激な変化における教育の課題を認識し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	
② 倫理観	教育活動における倫理観を重視し、その実践を通じて、児童・生徒の健全な成長を促している	教育活動における倫理観を重視し、その実践を通じて、児童・生徒の健全な成長を促している	教育活動における倫理観を重視し、その実践を通じて、児童・生徒の健全な成長を促している	教育活動における倫理観を重視し、その実践を通じて、児童・生徒の健全な成長を促している	教育活動における倫理観を重視し、その実践を通じて、児童・生徒の健全な成長を促している	
③ 研究力	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	
④ 実践力	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	教育現場の問題を研究テーマとして設定し、その解決のために必要な知識やスキルを習得している	

関西大学文学部 年次達成目標

1年次達成目標	2年次達成目標	3年次達成目標	4年次達成目標
積極的な学びの習慣を身に付ける	専門分野の学びに積極的に取り組む	専門分野の学びを深める	指導教員の指導を受け、積極的・主体的に論文執筆に取り組む
文章力を鍛えるとともに、レポートの基本をマスターする	専門分野の文章表現や、レポート・論文の書き方をマスターする	卒論を書くために必要なテクニックを身に付ける	きちんとした文章と形式の論文を執筆する
自分の学びたい分野を見つけるとともに、意見を明確に表明できるようにする	専門分野の広い学びを通じて、自分の関心を明確にする	専門分野の学びを深め、卒論で取り組みたい問題を明確にする	論旨が明確で独自性のある卒論を目指す

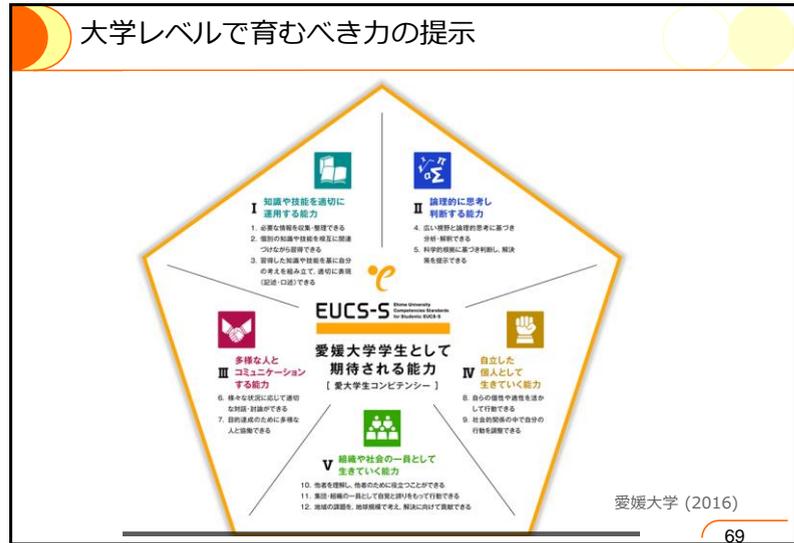
静岡県立大学国際関係学部 卒業研究ルーブリック ver1

評価項目	評価基準			
	十分に満足	満足	標準	努力を要する
論文の基本的事項	表紙、要旨、目次、引用文献リスト、必要の資料が揃っており、論文としての正しい体裁が整っている。	一部修正が必要な点があるが、論文としての正しい体裁が整っている。	論文の基本構成や文章の表記形式に問題がある。	論文として求められる基本的な構成や表記形式が整っていない。
内容の表裏	必要の要素が揃っており、説明が正確で、本文が理解しやすい。	必要の要素が揃っており、説明が正確であるが、若干の修正が必要である。	必要の要素が揃っており、説明が正確であるが、若干の修正が必要である。	必要の要素が揃っていない。
文脈の表裏	文脈の表裏や、本文中の引用と参考文献の引用と参考文献の分け方など、全てが正しく表記されている。	文脈の表裏や、本文中の引用と参考文献の引用と参考文献の分け方など、全てが正しく表記されている。	文脈の表裏や、本文中の引用と参考文献の引用と参考文献の分け方など、全てが正しく表記されている。	文脈の表裏や、本文中の引用と参考文献の引用と参考文献の分け方など、全てが正しく表記されていない。
調査・実験から得られた論文の場合	研究テーマの背景や、先行研究の紹介が適切で、データの整理が丁寧である。	研究テーマの背景や、先行研究の紹介が適切で、データの整理が丁寧である。	研究テーマの背景や、先行研究の紹介が適切で、データの整理が丁寧である。	研究テーマの背景や、先行研究の紹介が適切で、データの整理が丁寧でない。
問題の把握・整理	問題の把握・整理が適切で、自分の主張が明確に述べられている。	問題の把握・整理が適切で、自分の主張が明確に述べられている。	問題の把握・整理が適切で、自分の主張が明確に述べられている。	問題の把握・整理が適切でない。
考察・まとめ	研究で明らかになったことや、論文の結論が適切に述べられている。	研究で明らかになったことや、論文の結論が適切に述べられている。	研究で明らかになったことや、論文の結論が適切に述べられている。	研究で明らかになったことや、論文の結論が適切に述べられていない。

評価項目	十分に満足	満足	標準	努力を要する	相当に努力を要する
【調査・実験による論文の場合】					
研究背景、研究目的	研究テーマの背景や、先行研究の紹介と批判的検討が、データや根拠を示しながら、十分にその目的・研究の意義が記述される。本研究の目的が研究の意義が明確に述べられている。また、目的に沿った仮説が明確に記述されている。	研究テーマの背景や、先行研究の紹介が述べられており、本研究の目的が記述されている。また、研究の目的について、意義を簡明に記述されている。	研究背景や研究目的が説明ができていない。また、研究の目的が記述されていない。	研究背景や研究目的が説明ができていない。また、研究の目的が記述されていない。	研究背景や研究目的が説明ができていない。また、研究の目的が記述されていない。
研究方法	研究の具体的な方法(調査・実験の手順や内容等)について、適切に記述できている。	研究の方法について、基本的な記述ができており、やや不十分である。	研究の方法について、基本的な記述ができていない。	研究の方法について、基本的な記述ができていない。	研究の方法について、基本的な記述ができていない。
研究結果	調査や実験結果を、研究目的に沿って、結果的・数量的・質的・分析的に整理し、客観的事実を記述し、解釈し、要約して記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。また、必要に応じて、図表を用いて記述している。	調査や実験結果を、研究目的に沿って、結果的・数量的・質的・分析的に整理し、客観的事実を記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	調査や実験結果を、研究目的に沿って、結果的・数量的・質的・分析的に整理し、客観的事実を記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	調査や実験結果を、研究目的に沿って、結果的・数量的・質的・分析的に整理し、客観的事実を記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	調査や実験結果を、研究目的に沿って、結果的・数量的・質的・分析的に整理し、客観的事実を記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。
考察	結果の解釈や意味を、他の研究との比較など、根拠を示しながら、客観的・理論的に考察し、解釈し、要約して記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	結果の解釈や意味を、他の研究との比較など、根拠を示しながら、客観的・理論的に考察し、解釈し、要約して記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	結果の解釈や意味を、他の研究との比較など、根拠を示しながら、客観的・理論的に考察し、解釈し、要約して記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	結果の解釈や意味を、他の研究との比較など、根拠を示しながら、客観的・理論的に考察し、解釈し、要約して記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。	結果の解釈や意味を、他の研究との比較など、根拠を示しながら、客観的・理論的に考察し、解釈し、要約して記述している。必要に応じて、図表を用いて記述している。

【資料検討・使いかたガイド】

- ・指導教員の資料に添削を合わせて、適宜、文章を修正してお使いください。
- ・2021・2022年度は試行期間です。使用する方が多く、使用する場合は各教員にお任せします。2022年度中に使用ルールを作り、2023年度から正式運用とします。
- ・使いかたの一例：卒業研究の開始時、指導教員はゼミ生にルーブリックを配布し、卒業研究に期待することを明確化します。前期終了時に学生に自己評価用ルーブリックに記入してもらい進捗を確認します。卒業研究進捗後、指導教員は指導教員が記入したルーブリックを参照し、卒業研究の進捗について、卒業研究指導で期待したルーブリックに記入します。指導教員は指導教員が記入したルーブリックを参照し、卒業研究の進捗について、卒業研究指導で期待したルーブリックに記入します。
- ・ルーブリックの使いかたについて、お気づきの点があれば、質保証委員会（事務局）にお知らせください。
- （2021年11月）



愛媛大学学生として期待される能力～愛媛大学コンピテンシー～

5つの能力	12の具体的な力
I. 知識や技能を適切に運用する能力	1. 必要な情報を収集・整理できる 2. 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる 3. 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現(記述・口述)できる
II. 論理的に思考し判断する能力	4. 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる(例:クリティカル・シンキング/創造的思考) 5. 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる(例:意思決定・判断力/課題探求・発見・解決力)
III. 多様な人とコミュニケーションする能力	6. 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる(例:ダイアログ/ディスカッション/プレゼンテーション) 7. 目的達成のために多様な人と協働できる(例:協働性/チームワーク/リーダーシップ)
IV. 自立した個人として生きていく能力	8. 自らの個性や適性を活かして行動できる(例:自己理解/自己決断/リフレクション) 9. 社会的関係の中で自分の行動を調整できる(例:順応性/セルフマネジメント/規範遵守)
V. 組織や社会の一員として生きていく能力	10. 他者を理解し、他者のために役立つことができる(例:「お接待」の心/ホスピタリティ) 11. 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる(例:責任感/連帯感/帰属意識/愛校心) 12. 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる(例:社会貢献/グローバルマインド)

松本(2013)

横浜国立大学の事例

横浜国立大学授業設計と成績評価ガイドライン
<http://www.yap.ynu.ac.jp/topic/2015guideline.pdf>

評価基準	内容
期待している以上である	授業の範囲を超える内容までを自主的な学習で修得していることが認められる。
十分に満足できる	履修目標の水準をほぼ修得している。授業の内容をほぼ修得したことが認められる。
やや努力を要する	履修目標と到達目標の中間に位置しており、努力することを勧める。
努力を要する	到達目標の水準をほぼ修得している。まだ努力が必要だと示唆している。
相当の努力を要する	到達目標に達しておらず、授業のねらいの水準に達するには相当の学習が必要である。

講義型授業における、ルーブリックの例を紹介します。

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
理解度 (35%)	授業内容を踏まえ自主的な学習が認められる。	授業内容をほぼ100%理解しているが、授業内容に不足がある。	到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。	到達目標に達していることが認められる。	到達目標に達していない。
課題解決能力 (35%)	解決方法が分からない。他人にアドバイスを求めることができる。	何も参照せずに独自の力で課題を解決することができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがなくても自発的に課題を解決することができる。
調査能力 (予習) (30%)	自ら進んで予習範囲を超えて調べている。	指示された範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示された範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。	指示された範囲は予習が不十分である。

VALUE Rubrics (Valid Assessment of Learning in Undergraduate Education by Association of American Colleges and Universities)

○知的・実践スキル (Intellectual and Practical Skills)

- ・探求と分析力 (Inquiry and analysis)
- ・批判的思考力 (Critical thinking)
- ・創造的思考力 (Creative thinking)
- ・文章作成力 (Written communication)
- ・口頭伝達力 (Oral communication)
- ・読解力 (Reading)
- ・量的分析リテラシー (Quantitative literacy)
- ・情報リテラシー (Information literacy)
- ・チームワーク (Teamwork)
- ・問題解決力 (Problem solving)

○個人的社会的責任感 (Personal and Social Responsibility)

- ・市民としての知識と責務 (Civic knowledge and engagement---local and global)
- ・異文化間の知識と能力 (Intercultural knowledge and competence)
- ・倫理的思考力 (Ethical thinking)
- ・生涯学習に対する基礎と能力 (Foundations and skills for lifelong learning)

○学習の統合 (Integrative Learning)

- ・学習の統合 (Integrative Learning)

吉田 (2011)

72

Value Rubrics

文章作成力 (Written communication)

	キャブストーン 4	マイルストーン 3	マイルストーン 2	ベンチマーク 1
文章作成の文脈と目的	文脈・読者・目的について完璧な理解を示し、それによって、与えられた課題に適切に、作品のあらゆる要素に焦点を当てている。	文脈・読者・目的について適切な理解を示し、与えられた課題 (例えば、読者・目的、文脈を結びつけること) に明確に焦点を当てている。	文脈・読者・目的や与えられた課題 (例えば、読者としての読者や自己の期待) に対し最低限の注意を示している。	文脈・読者・目的や与えられた課題 (例えば、読者としての読者や自己の期待) に対し最低限の注意を示している。
内容の展開	適切に関連性があり説得力に富む内容を用いることによって、自らの習得ぶりを示すとともに、書き手の理解したことを伝え、作品全体を形づけている。	適切に関連性があり説得力に富む内容を用いることによって、学問分野の文脈の中でアイデアを探求し、作品全体を形づけている。	適切に関連性のある内容を用いることによって、作品の大半を通じて、アイデアを展開・探究している。	適切に関連性のある内容を用いることによって、作品の何か所で、シンプルなアイデアを展開している。
ジャンルと学問分野の約束	特定の学問分野や文章作成課題に関連する重要な約束 (構成、内容、提示、書式、文体選択を含む) に対し、細かい注意を向けようとしている。	特定の学問分野や文章作成課題に関連する重要な約束 (構成、内容、提示、書式、文体選択を含む) を一貫性をもって使っている。	特定の学問分野や文章作成課題にふさわしいものとして、期待されることから (基本的構成、内容、提示など) に従っている。	基本的構成や提示のしかたについて一貫した体系を使おうとしている。
資料 (ソース) と証拠 (エビデンス)	当該の学問分野やジャンルにふさわしいアイデアを展開するために、質が高く、信頼でき、関連性のある資料をうまく使っている。	当該の学問分野やジャンルの中に位置づくアイデアを裏づけるために、信頼でき、関連性のある資料を一貫して使っている。	当該の学問分野やジャンルにふさわしいアイデアを裏づけるために、信頼できる (もしくは関連性がある) 資料を使おうとしている。	アイデアを裏づけるために、資料を使おうとしている。
構文と技法を操ること	読み手に明確かつ正確に意味を伝えることができる格調ある言葉遣いをしていて、ほとんど全く誤りがない。	読み手に意味を伝える意図的な言葉遣いをしていて、誤多し誤りがない。	文章に数小誤りを含むが、明確に意味が届けられるような言葉遣いをしていて、誤りがない。	用語法に誤りがあるために、意味の伝達が妨げられるような言葉遣いをしていて、誤りがない。

(注) 訳出は筆者による。

各大学が適したものに修正して利用!

学士課程4年間をカバーする長期的ルーブリック

現在15項目のルーブリックが開発されている

松下佳代 (2012) パフォーマンス評価による学習の質の評価: 学習評価の構造的な分析に基づいて『京都大学高等教育研究』第18号、103頁。

73

ルーブリックの前提条件①

- ・評価の観点に関しては、暗黙知を形式知化できること
- ・十分、かなり→なるべく具体的に
→学生が評価観点・基準は実感としてイメージできるか?
- ・すべての観点を評価できるわけではない →自由なコメントも欲しい!
- ・作成したのを見直し、より良いものを作っていく
- ・複数の目でルーブリックを確認できるとよい(キャリアレーション: 調整)

© 2022 Chikii Iwasaki

74

ルーブリックの前提条件②

- ・評価と評定は異なる

総括的評価
＜学習後＞

事後テスト
最終レポート

形成的評価
＜学習中＞

小テスト
中間レポート
ノート確認

診断的評価
＜学習前・導入＞

事前テスト
レディネスの
確認

75

目標行動：学習者が授業後に何ができるようになっているか

- 学習者がねらいを達成できているかを行動として判断できるか
- 教員の視点、学習過程について述べるのではなく、アウトカムに着目する
- 学生が理解できる文章にする
- 理解する、気づく →判断しがたい
- 説明できる、選択できる→行動を判断できる

© 2022 Chikii Iwazaki

76

科目ルーブリック

目標行動として到達目標を提示する

例：メディアリテラシー論

- メディア・リテラシーの概念を説明できる
- メディア・リテラシーを育成するための教育方法を提案することができる
- 学習者が自ら到達目標を達成できたのかどうかを判断しやすい
- 教員も学習者が到達できているのかを判断(評価)しやすい

© 2022 Chikii Iwazaki

77

目標行動として到達目標を提示する際の動詞例

- 説明できる、指摘できる、記述できる、表現できる
- 比較できる、分析できる、分類できる
- 選択できる、判断できる
- 例示できる、模擬的に示すことができる
- 実施できる、測定できる、参加できる
- 一般化できる、適応できる、構築できる

78

評価の観点として・・・改善点はどこ？

1. 国内外におけるeラーニングの実施方法について説明をする。(メディア教育論)
2. 文書作成の基本を学ぶ。(文章力を磨く)
3. 他者と協同して学ぶワークを通じて、グループで活躍できる人を目指す。(キャリア演習)

© 2022 Chikii Iwazaki

79

大学における3つのポリシー

- ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
- カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）
- 3つのポリシーを明確にし、それぞれを連携させることが重要（文科省中教審『学士課程教育の構築に向けて』答申（2008年12月））

© 2022 Chalk Iwazaki

本日の目標

1. 学習成果の可視化が必要な理由について説明できる
2. 学習成果の可視化の方法について1つ2つ事例を挙げて説明できる
3. ブレンド型授業における授業設計（目標・方法・評価）のバランスをふりかえることができる
4. ルーブリックについて説明できる
5. ルーブリックを評価に利用する際における効果と課題を説明できる
6. ルーブリックを試行的に試してみようという意欲を同僚に伝えることができる

もっと学びたい先生のために…レポートの書き方ガイドをご活用ください！

- ・簡単な課題ルーブリックを使ってレポートを評価できる
- ・簡単な課題ルーブリックを作成できる

81

ルーブリックの使い方ガイド

ルーブリックとは

ルーブリックとは学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点(規準)】と、観
点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した【評価の基準】から構成される評価
ツールを指します。

評価の基準

評価の
観点

観点	説明	4+	4	3	2	1
A 主張・論点 の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
B 視覚情報・ 資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
C プレゼン テーション 全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
D 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。

表1:プレゼンテーションに関するルーブリック

目次

- ルーブリックとは
- ルーブリック活用の意義
- ルーブリックの種類
- ルーブリック活用のタイミング
- ルーブリック活用の前提
- ルーブリックサンプルのダウンロード
- 例1) 初年次教育におけるレポートルーブリック
- 例2) 論証型のレポートルーブリック
- 例3) 理工系実験レポートに関するルーブリック

ルーブリック活用の意義

■パフォーマンスを評価するために有効です。

授業には、○、×だけで授業の目標を評価できない学習課題があります。たとえばレポートやプレゼンテーションなどです。これらの課題はこれまで学んだ知識やスキルを統合して使うことが求められる複雑な課題であり、パフォーマンス課題ともよばれています(西岡他2015)。学習者のパフォーマンスを評価するためにルーブリックは適しています。

■学生が学習活動における方向性を理解し、授業目標を達成できたのかを判断するために有効です。

【評価の観点】や【評価の基準】を提示することで、学生はレポートやプレゼンテーションにおいて何が求められているのかを具体的に把握できます。目指すべき方向性が明らかになると、学生が現在の自分のレベルを確認でき、より高い目標を達成するために何が必要になるのかを考えることもできます。結果として、成果物がより優れたものになる可能性も高まります。

実際にルーブリックを活用する際には、学生がルーブリックの内容を理解することが大切です。具体的な説明、触れるべき点や完成の程度などを記述し、どういう条件で評価するのかを明示することで、学生は何に配慮すべきかを確認した上で、活動できます。

■学生のリフレクション能力をのばす際に有効です。

学生が自らの評価と教員による評価の違いを知ること、学習目標が達成できている部分とそうでない部分を具体的に把握できます。学生がルーブリックをもとに自らの活動を反省的にふりかえることは、学習を次のステップへとつなげていくためのきっかけになります。

■複数人数で担当する教科において評価の質を保つために有効です。

大学には初年次教育や情報処理演習などある科目を複数の教員で担当する授業があります。

ルーブリックを活用することで、ある一定の評価の観点と基準に基づいた評価を行うことができます。

ルーブリックの種類

ルーブリックにはいくつかの種類があります。まずは課題ルーブリックです。これは授業内で提示するレポートやプレゼン等の課題に対して活用できるルーブリックを指します。

次に科目ルーブリックです。これは授業科目の目標をルーブリックで示したものです。最後にカリキュラムルーブリックです。これはカリキュラム全体に対して作成したルーブリックです。

カリキュラムルーブリック

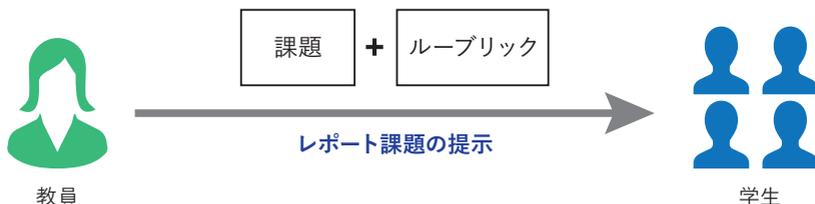
科目ルーブリック

課題ルーブリック

ルーブリック活用のタイミング

■レポート評価に活用する場合

レポート課題を出す際に、学生にルーブリックを配付します。学生は、評価の観点や基準を参照することで、必ず執筆すべき点や完成の度合いを確認したうえでレポートを執筆できます。



■プレゼンテーション評価に活用する場合

プレゼンテーションをする前に、学生にルーブリックを配付します。学生は、プレゼンテーションで発表すべき点や配慮すべき点を確認できます。また聞き手は、ルーブリックをもとに発表学生のプレゼンテーションを評価できます。

■評価時の活用方法

評価者は、提出されたレポートに対して該当する部分を丸で囲みます。学生が自分で採点したルーブリックをレポートと共に提出することで、教員は学生の自己評価を確認できます。

商16-0000 関大太郎

観点	説明	4	3	2	1
A 適切なテーマ設定	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。
B 主張の明確化	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。
C 論理的な展開	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確に示している。

ルーブリック活用の前提

- ・評価の観点を具体的な文章で表現できることがルーブリック活用の前提条件となります。
- ・ルーブリックを適切に活用するためには、学生が評価の観点、評価の基準を十分に理解する必要があります。そのため、ルーブリックを利用する前に学習者に利用方法を説明する必要があります。
- ・本ガイドブックで例示しているルーブリックは、汎用性を持たせるために「十分な」「明確な」「効果的」といった表現を用いていますが、授業の目的に応じて学生が理解しやすい具体的な文言を用いるとより効果的です。各レベルに該当するレポートのサンプルを提示することも有効です。
- ・ルーブリックはあらかじめ設定した観点や尺度を評価するため、評価項目が限られてしまうという課題がありますのでご注意ください。学生のパフォーマンスが良すぎて、観点や尺度に収まりきれない場合もあります。

ルーブリックサンプルのダウンロード

現在、教育開発支援センターで提供しているのは課題ルーブリックです。ルーブリックの例をインフォメーションシステム「データ管理／文書ライブラリ (Webフォルダ)／ルーブリック (初年次教育)」に掲示しております。適宜ダウンロードしてご活用ください。

もっとも簡単な活用方法は、次ページ以降に示す①教育開発支援センターが開発したルーブリックをそのまま利用することです。そのほか、②教育開発支援センターが開発したルーブリックを適宜改変して使う、③授業科目に適したオリジナルのルーブリックを作成する方法もあります。先生方の授業目的に合ったルーブリックを選択(作成)いただくことが適切な評価をするために重要です。

例1) 初年次教育におけるレポートルーブリック

例1)のルーブリックでは、レベル4を超える優秀なレポートがあった際に直接コメントを述べる事ができる欄を設けています。また評価の観点以外の事柄も記述できるようにメモ欄を設けています。

観点	説明	4+	4	3	2	1
A 意見の提示	自分の意見を根拠とともに明確に提示しているか。		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
B 資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させているか。		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
C 文章全体の構成	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理しているか。		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
D 議論の展開	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開しているか。		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見をわかりやすく論理的かつ明確に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

メモ

表2: 初年次教育におけるレポートルーブリック

例2) 論証型のレポートルーブリック

例2)のルーブリックでは、ルーブリックの項目に加えて、チェックリストを設け学生が自己チェックをしたうえで、レポートの完成度を確認できるようにしています。また、特に重視してもらいたい箇所に下線を引くなどし、目立たせています。

観点	説明	4	3	2	1
A 適切な テーマ設定	課題に応じて適切なテーマ設定がなされているか。	課題に応じて適切なテーマ設定が <u>簡潔かつ明確</u> になされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じたテーマ設定がなされているが、 <u>切り口が安直である</u> 。	課題に相応しくないテーマ設定がなされている。
B 主張となる 根拠の成立	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出せているか。	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から <u>必要かつ十分な形</u> で探し出せている。	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出せている。	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出せているが、 <u>出典が明記されていないものがある</u> 。	データや先行研究にあらずに主張がなされている。
C 論理的な ストーリー	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に説得力があるか。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に <u>極めて十分な説得力</u> がある。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に説得力がある。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記しているが、 <u>論理に飛躍があるため十分な説得力をもたない</u> 。	理由を述べない形で主張が展開されている。

表3: 論証型のレポートルーブリック

チェックリスト(形式)

- 表紙にタイトル、学籍番号、氏名、科目名、担当教員など教員から指定された事柄を記載している。
- 口語表現(話し言葉)を使っていない。
- 文体を「である調」もしくは「ですます調」で統一している。
- 一文が三行以上にわたる長文はない。
- 段落の書き出しは一マスあけている。
- 段落の長さが適切である。
- 一文一義としている。
- 他人の意見と自分の意見を区別している。
- 参考・引用文献の出典を指示された形式(リスト)にして、文末に明記している。(指示がない場合でも文章内で統一している)
- 誤字・脱字がなく、声に出しても正確に文章を読み取れる。(音読することで、誤字脱字や一文の長さや構成に関する改善点に気づくことができる)

例3) 理工系実験レポートに関するルーブリック

観点	説明	4	3	2	1
A データの比較	課題に応じて適切なデータの比較がなされているか。	課題に応じて対照実験、予想との比較に加えて、計算値との比較がなされている。	課題に応じて対照実験との比較に加えて、予想との比較がなされている。	課題に応じて対照実験の結果との比較ができています。	課題に相応しくないデータの比較がなされている。
B 仮説の生成	実験データや先行研究から仮説を導き出せているか。	実験データや先行研究から順位付けをして仮説を何通りか立て、各仮説が成立する前提・条件を記述している。	実験データや先行研究から仮説を何通りか立て、その順位付けをしている。	実験データや先行研究から仮説を何通りか立てている。	データや先行研究にあらずに仮説の生成がなされている。
C 仮説の検証	実験データや先行研究から根拠を明記し、仮説の検証に説得力があるか。	実験データや先行研究から根拠を明記し、複数の仮説に対して優先順位を検討し、具体的な検証方法を提示して仮説を検証している。	実験データや先行研究から根拠を明記し、複数の仮説に対して優先順位を検討し、仮説を検証している。	実験データや先行研究から根拠を明記し、仮説の検証をしている。	実験データや先行研究から根拠を明記しておらず、仮説の検証に説得力がない。

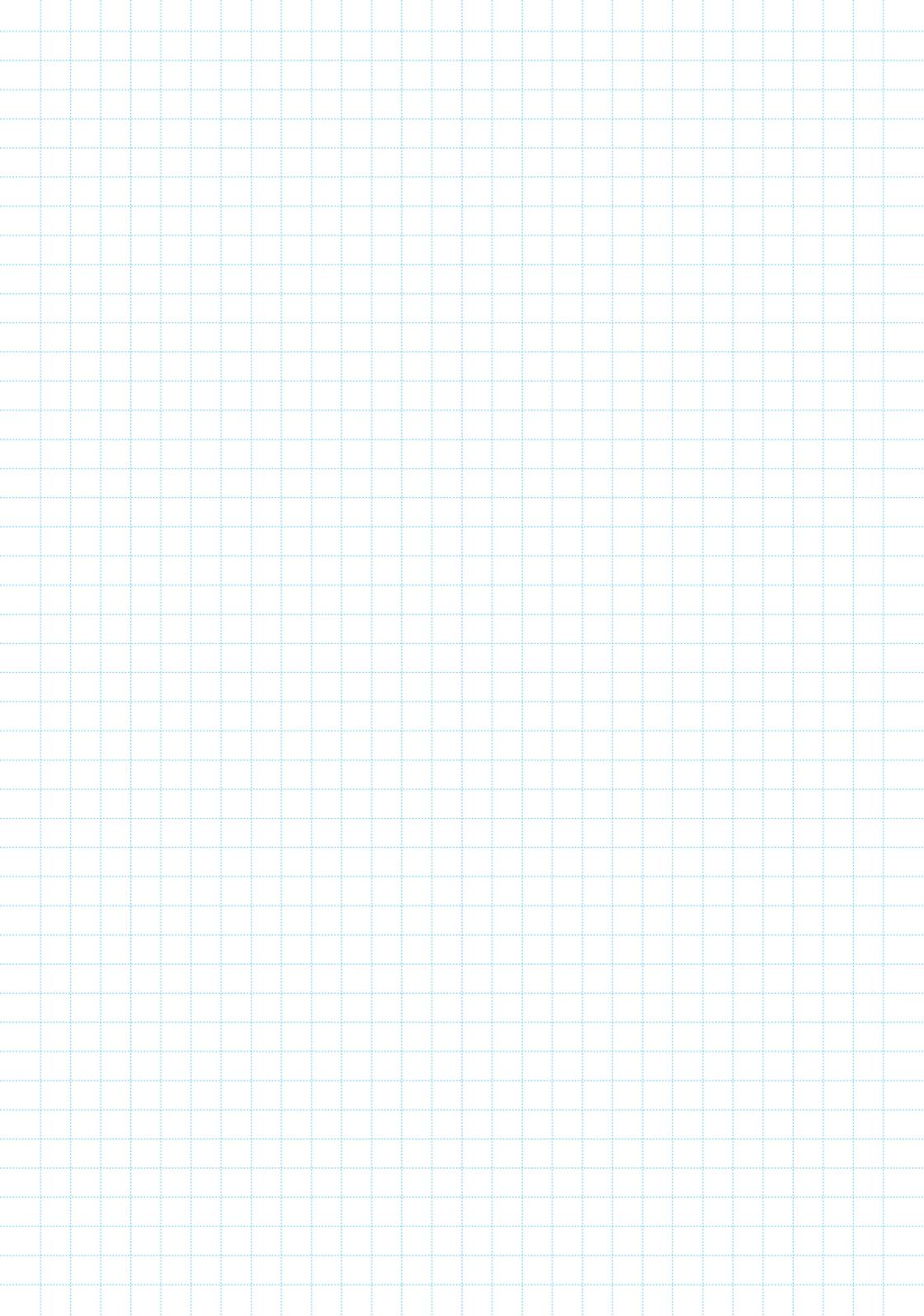
表4: 理工系実験レポートに関するルーブリック

チェックリスト(内容)

- 実験方法:第3者がレポートをみて、その行った実験を再現できる形で記述がなされている。
- 実験結果:実験によって得られた結果を文章で記述し、図表を活用して整理している。
- 実験の考察:実験で得られた値と予想される値(計算値や文献値)を比較し、考察している。
- 実験の考察:実験値の標準偏差を求めるなどして、実験の誤差を考慮している。
- 実験の考察:実験中に気づいた疑問点、新たに発見した点などについて、これまでの文献との関連を踏まえた上で、自分なりの結論を記述している。

チェックリスト(形式)

- 表紙にタイトル、学籍番号、氏名、科目名、担当教員、実験日など教員から指定された事柄を記載している。
- 口語表現(話し言葉)を使っていない。
- 文体を「である調」で統一している。
- 段落の書き出しは一マスあけている。
- 段落の長さが適切である。
- 一文一義としている。
- 先行研究の知見と自分の意見を区別している。
- 参考・引用文献の出典を指示された形式(リスト)にして、文末に明記している。(指示がない場合でも文章内で統一している)
- 誤字・脱字がなく、声に出しても正確に文章を読み取れる。(音読することで、誤字脱字や一文の長さや構成に関する改善点に気づくことができる)
- 元素記号や用語を正確に書いており(例:pH→○、PH→×)、略語を使う場合は説明をしている。
- グラフや表を作成した際、通し番号・表題をつけており、レポートの記述では番号と記述を対応させている。
- グラフの選び方(棒グラフ・折れ線グラフ等)が適切で、グラフに軸名称や単位が書かれている。



参考文献:西岡加名恵、石井英真、田中耕治(2015)、『あたらしい教育評価入門』、有斐閣コンパクト
執筆者:岩崎千晶(教育推進部 教育開発支援センター 准教授)



平成26年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択
21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成

関西大学 教育推進部

教育開発支援センター (CTL: Center for Teaching and Learning)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

千里山キャンパス 第2学舎1号館1階

E-mail ap-info@ml.kandai.jp

教育開発支援センター <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/>

AP取組Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/>

発行日／2016年11月15日 編集・発行／関西大学 教育推進部 教育開発支援センター

Copyright © Kansai University. All Rights Reserved.

関西大学の先生は自由にご利用ください。

ルーズブリックの使い方ガイド

観点	説明	4	3	2	1
A 適切な テーマ設定	課題に対して適切なテーマ設定がなされているか。	課題に対して適切なテーマ設定が 必要かつ明確 になされている。	課題に対して適切なテーマ設定がなされている。	課題に対して適切なテーマ設定がなされているが、 箱の入り口が変更である 。	課題に相応しくないテーマ設定がなされている。
B 主張となる 根拠の提示	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探しているか。	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から 必要かつ十分な 形で探し出している。	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出している。	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出しているが、 出典が不明である 。	データや先行研究にあたる資料が提示されていない。
C 論理的な ストーリー	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に照りあわせているか。	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に照りあわせて 十分な 説得力がある。	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に照りあわせている。	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記しているが、 論理に飛躍があるため十分な 説得力をもちない。	理由を述べない形で主張を展開されている。





Contents

- ルーブリックってなに??
- ルーブリックの仕組みと使い方
- ルーブリック活用のタイミング
- ルーブリックの評価方法
- ルーブリックの種類
- ルーブリックを使うメリット
- ルーブリックの作り方
- Let's Try! ルーブリック体験



ルーブリックってなに??

ルーブリックとは、学生のみなさんが、授業やカリキュラムで求められる到達目標を、どの程度達成できているかを確認するための評価ツールです。【評価の観点(ポイント)】や【評価の基準】を提示することで、○×だけでは測れないレポートやプレゼンテーション、実習などの複雑な課題(パフォーマンス課題)を評価できます。

つまり、ルーブリックを用いてレポートやプレゼンテーションを評価することで、みなさんの目に見えにくい「努力」や「成果」が「見える化」されます。

本ガイドでは、ルーブリックを使う具体的なメリットと、有効な活用方法について紹介します。

ルーブリックの仕組みと使い方

ルーブリックは、評価対象である観点の達成度レベルを3～5段階にわけ、各段階の評価の基準を文章化した表の形で示されます。

下の例では、4つの評価の観点それぞれにレベル1～4までの評価の基準が示され、該当する箇所にチェック(○や✓など)を入れ、4を超えるものには4+の欄にコメントを記入できるようになっています。

評価の基準

		評価の基準				
観点	説明	4+	4	3	2	1
評価の観点	A 意見の提示		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
	B 資料の扱い		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
	C 文章全体の構成		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
	D 議論の展開		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

レポートルーブリックの例

評価ポイントが
はっきり分かるよ!

ルーブリック活用のタイミング

ルーブリックは課題作成中の以下のタイミングで活用できます。

課題
作成前

事前にルーブリックを確認し、課題で何が求められているかを把握する

課題
作成中

随時ルーブリックを確認しながら課題を作成する

課題
作成後

提出前に最終確認をし、ルーブリックにもとづき修正し、完成度を高める

課題
提出後

提出後に教員からのフィードバックを受けて、自分の改善点を知る

ルーブリックの評価方法

自己評価だけでなく、みなさん自身が他の人のレポートやプレゼンテーションの評価者となつて、ルーブリックを使う場合があります。例えば授業中にプレゼンテーションを行う場合は、以下のような手順でルーブリックを活用しましょう。

※担当教員の先生からルーブリックの使用について具体的な指示があった場合は、その指示に従いましょう。



ルーブリックを使った評価例

- 1) 配付されたルーブリックに目を通します。
- 2) ルーブリックの項目を意識しながら、プレゼンテーションをしっかりと聴きます。
- 3) 該当する部分を○で囲み、気になる点や特によかったポイントなどをルーブリックの欄外に書きとめます。
(「いいな!」と思う点や、「もう少し!」という点をルーブリックに書き込もう!)

ルーブリックの種類

ルーブリックにはいくつかの種類があります。

まずは課題ルーブリックです。これは授業内で掲示するレポートやプレゼン等の課題に対して活用できるルーブリックを指します。次に科目ルーブリックです。これは授業科目の目標をルーブリックで示したものです。最後にカリキュラムルーブリックです。これはカリキュラム全体に対して作成したルーブリックです。

カリキュラムルーブリック

科目ルーブリック

課題ルーブリック

ルーブリックを使うメリット

ルーブリックを使うことで、学生のみなさんにとって次のようなメリットがあります。

- ✔ 「教員が学生にできるようにしてもらいたいこと」を知ることができる
- ✔ 複数の評価者が評価しても同じ結果が得られる（＝公平な評価を得られる）
- ✔ 自分自身で改善すべき点を知ることができる
- ✔ 第三者（教員や受講生）から分かりやすいフィードバックを受けることができる

ルーブリックの作り方

授業によっては、みなさんがルーブリックを作成する機会があります。評価の観点や基準を自分たちで設定することができるので、意欲的に取り組みましょう。

ルーブリックの作り方の例

- 1) 評価の観点を考えて、付箋（メモ紙）に書き出す
- 2) 各自の付箋（メモ紙）を共有し、観点を選ぶ
- 3) 評価の基準を検討し、基準ごとに書き出し、基準を決める

ルーブリックはサークル活動にも使えるよ！

No.1 ルーブリックで、レポートをチェックしてみよう!

(1) 次のレポートを、右ページのルーブリックでチェックしてみよう!

サマータイム制度の導入について

〇〇学部1年 学籍番号〇〇〇 氏名 〇〇〇〇

1. サマータイム制度とは

サマータイム(夏時間)制度とは、一年のうちで日照時間が比較的長い期間(通常は4月から10月までの約7ヶ月間)、時計の針を1時間進める制度である。この制度を導入すると、学校、会社、役所などのすべての活動が、これまでより1時間早く始まり、1時間早く終わる。夏は日の出が早いので、朝の明るい時間を無駄にせずに活動し、早く活動を終えて、夕方の明るい時間を有効に活用しようというのが、そのねらいである。

サマータイム制度は、アメリカやヨーロッパ諸国、中東などの多くの国ですでに導入されており、現在ではその数は70カ国を超える。日本でも、北海道で2004年から3年間、試行的にサマータイムを実施する実験がおこなわれるなど、サマータイム制度導入に向けた動きがあり、国会に法案が提出されるなどしているが、反対の声も大きく、いまだ実現には至っていないのが現状である。

このレポートでは、サマータイム制度を日本で導入することのメリットとデメリットをまとめたあと、サマータイム制度の是非に関する自分なりの意見を述べたい。

2. サマータイム制度導入のメリット

サマータイム制度導入の賛成派は、次のようなメリットを指摘する。第1は省エネ効果である。それによれば、サマータイム制度の導入は、省エネルギーに大きく寄与する。なぜなら、朝の涼しいうちに活動を始め、日が暮れる前に活動を終わることで、クーラーの使用や、夜間の照明時間を抑えることができるからである。「生活構造改革フォーラム」の試算では、その省エネ効果として、原油換算で約93万キロ・リットル、温室効果ガス約40万トンの削減が見込めるという。

第2に、サマータイム制度導入によって、多大な経済波及効果が見込まれている。夕方の明るい時間を自由に使えるようになるので、同フォーラムの試算では、観光・レジャー産業を中心に、約9,700億円の経済波及効果があるということである。この他、夕方の時間帯を利用した新たなビジネスチャンスが生まれることで、この制度の導入がもたらす経済的効果は大きなものになると予想される。

第3のメリットとして、市民のライフスタイルが変化することによって、たくさんのよい効果が生まれると期待できる。まず、健康上の問題である。早く起床し、夜更かししないライフスタイルが身につくことで、より健康的な生活を送ることができる。また、帰宅や買い物の時間帯が明るくなるので、交通事故や犯罪の減少も期待できる。

3. サマータイム制度導入のデメリット

以上のように、実施した場合に期待されるメリットの大きいサマータイム制度であるが、逆に大きなデメリットも指摘されている。

第1に、最も深刻なデメリットは、労働時間が増大する危険性があるということだ。残業が多い現在の日本の労働状況では、サマータイムは、かえって残業時間を増やしてしまい、労働の強化につながりかねない。早く仕事を終わらせて、そのあとを楽しむつもりが、単に労働開始時間が早まっただけという結果に終わる可能性が高い。

第2のデメリットとして、日本の風土をめぐる問題がある。そもそもサマータイム制度は冬の日照時間の少ない国で考案された制度であり、夏季にもっと太陽の光を浴びたいという健康上の理由から生まれている。日本の気候は、欧米とは異なり高温多湿である。夕方になっても涼しくならない日本の気候では、サマータイム制度を導入しても、あまり効果がないかもしれない。それどころか、夕方の活動時間帯が増えることで、逆に冷房コストが増大することにもなりかねない。

第3のデメリットとして、生活時間が変わることによる健康上の影響が挙げられる。サマータイムは、一方で人々をより健康にする可能性を持つとともに、逆に睡眠障害を引き起こしたり、生活のリズムを崩したりと、人々の健康に悪影響を及ぼす可能性も持っているのである。とりわけ4月は、日本では新学期の時期なので、この時期に時計の針をずらすことは、大きな問題を生む可能性がある。

4. まとめ

以上、サマータイム制度導入のメリットとデメリットを検討した。サマータイム制度導入は、期待されるメリットとデメリットが拮抗しており、新聞の世論調査の結果を見ても、賛成38%、反対39%と、賛否が分かれている(朝日新聞、2005年3月実施)。その導入には慎重な検討が必要である。導入するとしても、いきなり欧米と同様のかたちで実施すると、多くの問題が起こるであろう。北海道でおこなわれたような小規模な実験を各地でおこない、実際に生じる問題を具体的に明らかにして、日本の風土と文化に合ったサマータイム制度のあり方を、慎重に議論していくべきだと思う。

(本文1,924字)

参考文献

「どうするサマータイム」、朝日新聞、2005年4月8日、朝刊13ページ

「サマータイム推進議連 四苦八苦」、読売新聞、2005年6月12日、朝刊4ページ

財団法人省エネルギーセンター、「地球環境と夏時間を考える国民会議」報告書の概要、

<http://www.eccj.or.jp/Summe Time/conf/>、2006年4月1日確認

(出典：中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』くろしお出版、2008年、90～91頁。)

●レポートのルーブリック

評価の観点	評価の観点の説明	4+	4	3	2	1
A 意見の提示	自分の意見を根拠とともに明確に提示しているか。		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
B 資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させているか。		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
C 文章全体の構成	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理しているか。		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
D 議論の展開	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開しているか。		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見をわかりやすく論理的かつ明確に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

メモ

(2) 評価結果を、ペア同士で確認してみよう！(なぜその評価にしたのか、気になる点など)

.....

.....

.....

.....

No.2 ルーブリックで、プレゼンテーションをチェックしてみよう!

(1)以下のリンク先にあるプレゼンテーション動画をルーブリックでチェックしてみよう!

動画では、大学1年生が「大学生活を有意義に過ごすために必要な力とその力を育むことができる施設」について報告しています。

関西大学 講義収録・配信システム

<https://cm.itc.kansai-u.ac.jp/Gateway/contentPlayAction.do?contentId=201611183826&popup=yes>



●プレゼンテーションのルーブリック

評価の観点	評価の観点の説明	4+	4	3	2	1
A 主張・論点 の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
B 視覚情報・ 資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
C プレゼン テーション 全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
D 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。

メモ

(2)評価結果を、ペア同士で確認してみよう!(なぜその評価にしたのか、気になる点など)

.....

.....

.....

.....

.....

No.3 ルーブリックを作ってみよう!

(1) 次のテーマから一つ選び、グループで3段階のルーブリックを作ってみよう!

- レポート
- プレゼンテーション
- そのほか(自由にテーマを考えてみよう!)

 ルーブリックの作り方については、5ページを確認しよう!

ルーブリック

評価の観点	3	2	1

(2) 作成したルーブリックを、グループ同士で共有してみよう! (評価の観点・評価の基準など)

.....

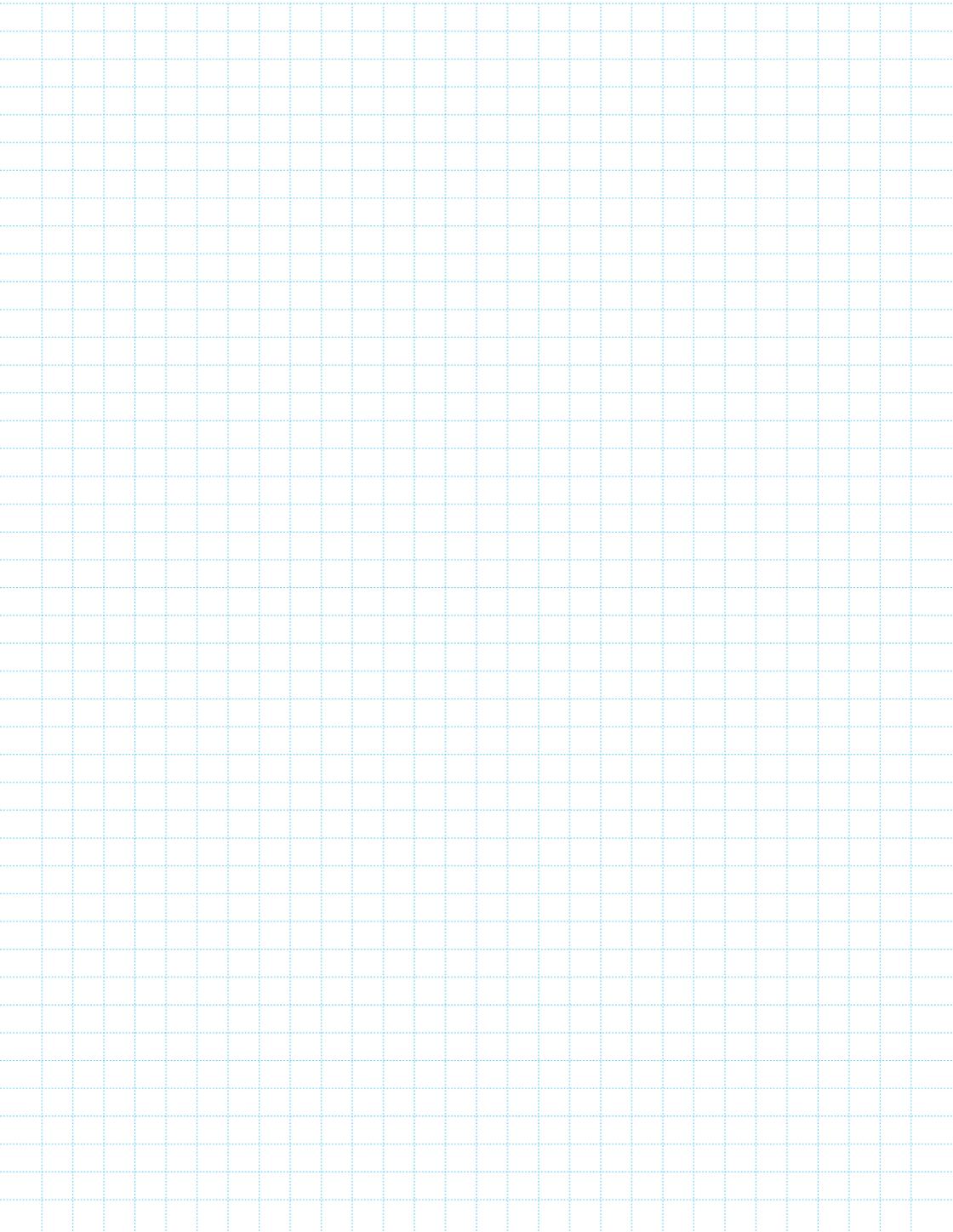
.....

.....

.....

.....

memo



主要参考文献:

- ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ(佐藤浩章監訳)(2014)『大学教員のためのルーブリック
評価入門』、玉川大学出版部
- 中澤務・森貴史・本村康哲編(2008年)『知のナビゲーター』、くろしお出版
- 西岡加名恵、石井英真、田中耕治(2015)『あたらしい教育評価入門』、有斐閣コンパクト

執筆者:千葉美保子(元教育推進部 特別任命助教、現甲南大学 共通教育センター 講師)
監修:岩崎千晶(教育推進部 教育開発支援センター 准教授)



平成26年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択
21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成

大学教育再生加速プログラム

関西大学 教育推進部

教育開発支援センター(CTL:Center for Teaching and Learning)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

千里山キャンパス 第2学舎1号館1階

E-mail ap-info@ml.kandai.jp

教育開発支援センター <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/>

AP取組Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/>

2016年11月15日 第1版第1刷発行

2018年 4月25日 第1版第2刷発行

編集・発行:関西大学 教育推進部 教育開発支援センター

Copyright © Kansai University. All Rights Reserved.

関西大学の先生は自由にご利用ください。

2022.9.14 (水)

全学FDの日 実践報告



実技科目における
ブレンディッド・ラーニングと
ルーブリック評価の試行と課題



共同教育学部 松浦 佑希

発表内容



①今年度器械運動の授業で実施した

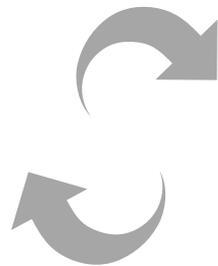
- ・ループリック評価（2パターン）

→それぞれについて内容と学生からのコメント



②昨年度までに実施した

ブレンディッド・ラーニングの内容の紹介と展望



ルーブリック評価 教員側として良かった点と課題

良かった点



- ・身に付けてほしい能力を明確にすることができた
- ・特に、技の練習では、段階を整理することができた
- ・学生の到達度が分かる 成績がつけやすい

課題に感じた点



- ・全科目での実施となった場合、
学生も教員も負担が大きいように感じた
- ・授業後に、振り返りを兼ねて自宅などで実施よりも、授業内かつアナログでの実施の方が今回は効果的に活用できた

器械運動での実践例



宇大スタンダード

し、でては授業に参加することができる。

表現力

感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力

👍 自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、技について自分なりに分析・評価し、自己の課題について説明することができる。さらに、お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる。

👍 自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる。

👍 自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことを伝えることができる。また、お互いの考えを伝え合うことができる。

👍 お互いの考えを伝え合うことができる。

表現力

協働力

チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力
多様な人々との繋がりや協働を生み出す力

👍 授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組み、授業のルールやマナーを守り、受講者の中での自分の役割を自覚し振る舞うことができるとともに、安全に授業が実施できる環境づくりを自ら作ることができる。また、受講生同士で積極的に関わり合い、授業の進行がスムーズに進むよう活動に協力的に取り組むことができる。

👍 授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組み、授業のルールやマナーを守り、安全に授業が実施できる環境づくりを自ら作ることができる。また、受講生同士で積極的に関わり合い、授業の進行がスムーズに進むよう活動に協力的に取り組むことができる。

👍 授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに取り組み、授業のルールやマナーを守ることができる。また、授業の進行がスムーズに進むよう活動に取り組むことができる。

👍 最低限の授業の準備や片付け、授業のルールやマナーを守ることができる。

協働力

課題解決力

多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力
課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取り組む力

👍 器械運動に積極的に取り組むとともに、技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。また、様々な視点から自己の課題を捉え、柔軟に課題を解決していくことができる。

👍 器械運動に積極的に取り組むとともに、技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。

👍 技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。

👍 技などにおける自己の課題を発見し、運動の取り組み方を工夫することができる。

課題解決力

実施のタイミング

当初：初回の授業後

中間：8回目の授業後

最終：15回目の授業後

設問.3

campus squareから回答してもらったループリック評価について、感想を教えてください。

回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	よかった		47.1%	8名
2	どちらともいえない		47.1%	8名
3	よくなかった		5.9%	1名

WordCloudで頻出語分析(Beta版)



宇大スタンダード		1	2	3	4
表現力	感情や思考などを伝達可能な形式に表し、印象的なものとして伝える力	自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、技について自分なりに分析・評価し、自分の経験について説明することができる。さらに、お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる。	自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる。	自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、お互いの考えを伝え合うことができる。	お互いの考えを伝え合うことができる。
協働性	チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力	授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組む。授業のルールやマナーを守り、受講者の中で自分の役割を自覚し担当することができるとともに、安全に授業が実施できる環境づくりを自ら考えることができる。また、受講生同士で積極的に助け合い、授業の進行スムーズに進むよう活動に協力的に取り組むことができる。	授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組む。授業のルールやマナーを守り、安全に授業が実施できる環境づくりを自ら考えることができる。また、受講生同士で積極的に助け合い、授業の進行スムーズに進むよう活動に協力的に取り組むことができる。	授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組む。授業のルールやマナーを守ることができる。また、授業の進めかたスムーズに進むよう活動に協力的に取り組むことができる。	最低限の授業の準備や片付け、授業のルールやマナーを守ることができる。
課題解決力	多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	積極運動に積極的に取り組むとともに、技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。また、様々な場面から自己の課題を捉え、柔軟に課題を解決していくことができる。	積極運動に積極的に取り組むとともに、技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。	様々な場面における自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。	様々な場面における自己の課題を発見し、運動の取り組み方を工夫することができる。

だいぶ微妙な回答...

ループリック評価 「どちらかともいえない・良くなかった」 と回答した学生からの感想

2 段階を踏んでできるという点がいいと思ったが、少し文章が多く、みづらいなと思ってしまった。

2 正直、そこまで手が回っていなかったなので、どのように学習と結びついてるのか実感がないです。

2 正直に言うと、気にしているタイミングが少なく、あってもなく

2 4段階評価しかなくて、形式的感が少しあるから…。(最初より最後の

2 段階的に自己評価及び学びの実態の振り返りができたことは良かったが、評価項目の言い回しがもう少し単純のものの方が、自分に当てはめて考えやすかったのではないかと感じたから。

2 あってもなくても変わらないような気がする。

2 ループリック評価の文章が長いのと、どの項目に値するのかあまりよく分からずに付けてしまった。

2 自分の器械体操を通しての成長が目に見えて分かったから。また、先生からの評価ももらえて見てもらえているということがわかり、モチベーションになったから。

3 教務ポータル自体をあまり開く機会がないのに加えて、C-LearningとLMSで課題に取り組んでいるのに三つ目のものとして行うものがやりづらい。

内容の整理と検討が必要

かなり正直な意見だなと感じた

ループリック評価 「よかった」と回答した学生からの感想

1 自分のレベルを認識することができたから。



1 自分の授業に取り組む前と後で何がどう変化したのか分かりやすかったから。



1 授業を受けて終わりではなく、事前の自己評価と事後の自己評価を見比べ、学びを実感することができた。



1 自分の気持ちや授業に対する意欲の変化が見れてよかった。回を追うごとに、技の完成度を高めたりグループでの演技を高めたいという気持ちが増していったのでそれを目に見える形で示すことができたのでよかったと思った。



1 事前や途中、終わりとそれぞれグラフを視覚化することで自己評価を確認しやすかったから。



1 自分がどのような姿までいくことができればいいのか具体的に分かるため、これからどうすればいいのか、どのように授業に参加していけばいいのか目標にしやすくなる。また参加できない中でもできることというのはたくさんあると分かったし、その中でもループリック評価というのはできない中でどう授業に参加すればいいのかを示してくれたと思う。



1 自己評価と他人からの評価を比較して、客観的に見直すことができたから。



1 授業開始時から終了時にかけてどのように自分が変化していったかを客観的に評価し視覚的に捉えられるため。



学習成果の可視化という点ではよかったと考えられる

マット運動の技の練習で活用したルーブリック



→授業中にアナログで実施

マット運動 チェックシート

学籍番号： _____

氏名： _____

確認項目	定義	基準4	基準3	基準2	基準1	自己評価		ピア評価	
		⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④	⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④	⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④	③ ② ①	当初	最終	当初	最終
前転	上達レベル 腰を高く上げながら、後頭部をつけて、首、背中、腰と順番にマットに接触させながらスムーズに回り、足の裏で立つ	【前転】 ・前転をするときの体の感覚とその"リズム"が分かる ・自分がやりやすい手を着く幅、足を振り上げて下す速度、回転速度がわかり、足の裏で立つことができる ・オノマトベなどで前転の感覚を説明できる	【色々な場所で前転】 ・後頭部を付けてから回転することができる ・自分が回転している時に、自分の重心（腰、おしりあたり）が転がっていく感覚を感じ取ることができる ・色々な場所で前転を試し、立つことができる	【ゆりかべ前転ver】 ・おへそを見たまま、背中を丸くして転がることができる ・自分の体がしっかりと丸まって、ボールのように転がる感覚を感じ取ることができる	①技を初めて見る ②どの様な技なのかを判別できる ③やり方が分からない、できそうな気がしない	基準2	基準4	基準2	基準4

前転系

使い方 挑戦・練習した技に対して、【上達レベル】と【練習段階】の2つの自己評価をします

上達レベルは、各技の練習段階（基準）ごとに○をつけます（自己評価のみ）

自己評価の欄には、自分は基準1~4の中で、その技に対してどの段階にいるのかを評価します

ペアの友達にも評価してもらいます

マット運動の技の練習で活用したルーブリック

	基準 1	自己評価		ピア評価	
		当初	最終	当初	最終
	③ ② ①				
と	①技を初めて見る	基	基	基	基
こう	②どの様な技なのかを判別できる	準	準	準	準
	③やり方が分からない、できそうな気がしない	2	4	2	4
		-	-	-	-
		⑧	⑧	⑦	⑨

その日の目標にしていた技について（個人で違う）

練習の開始時と練習後に自己評価と他者評価を行い練習成果を確認

その日の練習の開始と最後に、ペアで評価しあう

※練習は基本的にペアで行い、必要に応じて、他のペアとも協力しながら進めるという形式



マット運動の技の練習で活用したルーブリック

技名	定義	基準 4	基準 3	基準 2	基準 1	自己評価		ピア評価	
		⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④	⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④	⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④	③ ② ①	当初	最終	当初	最終
後転系	後転	<p>上達レベル</p> <p>⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④</p> <p>【後転】</p> <p>練習のポイントと目標が書かれている</p> <p>で押す動作と腰を開く動作を同調させて、頭を抜くように回転し足の裏で立つ</p> <p>丸め、おへそを見ることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分がやりやすい開始姿勢、手を着く位置、足を振り上げる速度、足を着く位置、手の押し方を見つけ、足の裏で立ることができる 	<p>【補助付き後転・色々な場所で後転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 背中がマットにつくときに、しっかりと背中を丸め、おへそを見ることができる 自分がやりやすい開始姿勢、手を着く位置、足を振り上げる速度、足を着く位置、手の押し方を見つけ、足の裏で立ることができる 	<p>【ゆりかご後転ver】</p> <ul style="list-style-type: none"> おへそを見たまま、背中を丸くして転がることができる 自分の体がしっかりと丸まって、ボールのように転がる感覚を感じ取ることができる 手のひらをマットに着くとき、自分の体重をしっかりと支えることができる 	<p>③ ② ①</p> <p>①技を初めて見る</p> <p>②どの様な技なのかを判別できる</p> <p>③やり方が分からない、できそうな気がしない</p>				
	開脚後転	<p>に倒しながら、足の振り上げをしっかりと行い、回転のスピードをつくる。腰を上へ持ち上げるように手でマットを押して、開脚して足をマットにつき、手でしっかりとマットを押して、開脚姿勢で立ち上がる</p> <ul style="list-style-type: none"> 開脚後転をするときの体の感覚とそのリズムが分かる 開脚後転をしている時に、“体が移動していく感覚とリズム”を感じとれる 自分がやりやすい開始姿勢、手を着く位置、足を振り上げる速度、足を着く位置、手の押し方がわかり、開脚姿勢で立ち上がることができる オノマトベなどで開脚後転の感覚を説明できる 	<p>【補助付き開脚後転・色々な場所で開脚後転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が回転している時に、自分の重心（腰、おしりあたり）が後ろに転がっていく感覚を感じることができる 色々なタイミングで開脚を試すことができる 色々な場所で後転を試すことができる 色々な終り方を試すことができる 色々な回転速度を試すことができる 	<p>【ゆりかご開脚後転ver】</p> <ul style="list-style-type: none"> おへそを見たまま、背中を丸くして転がることができる 自分の体がしっかりと丸まって、ボールのように転がる感覚を感じ取ることができる 足を開くタイミング（早く、普通、ゆっくり）、開脚の足幅（狭め、中間、広め）を色々試すことができる 	<p>③ ② ①</p> <p>①技を初めて見る</p> <p>②どの様な技なのかを判別できる</p> <p>③やり方が分からない、できそうな気がしない</p>				
	伸膝後転	<p>おへそを見て上体を後ろに倒しながら、足の振り上げをしっかりと行い、回転のスピードをつくり、手でしっかりとマットを押して、膝を伸ばした状態で立ち上がる</p> <ul style="list-style-type: none"> 伸膝後転をするときの体の感覚とそのリズムが分かる 伸膝後転をしている時に、“体が移動していく感覚とリズム”を感じとれる 自分がやりやすい開始姿勢、手を着く位置、足を振り上げる速度、足を着く位置、手の押し方を見つけ、伸膝姿勢で立ち上がることができる オノマトベなどで伸膝後転の感覚を説明できる 	<p>【補助付き伸膝後転・色々な場所で伸膝後転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分しりあること 色々な 色々な 色々な 	<p>【ゆりかご伸膝後転ver】</p> <ul style="list-style-type: none"> おへそを見たまま、背中を丸くして転がることができる 自分の体がしっかりと丸まって、ボールのように転がる感覚を感じ取ることができる 	<p>③ ② ①</p> <p>①技を初めて見る</p>				

各基準での技の完成度

自分で上達の程度を確認&自己評価しつつも
段階練習ができるようなシート



マット運動の技の練習で活用したルーブリック

上達レベル

ただ、技がなんとなくでき
ればOK!ではなく、
その出来栄もチェック
できるような仕組み

- | | |
|---|----------------------|
| ① | 技を初めて見る |
| ② | どの様な技なのかを判別できる |
| ③ | やり方が分からない、できそうな気がしない |
| ④ | やり方はわかる、できそうな気がしない |
| ⑤ | やり方は分かる、できそうな気がする |
| ⑥ | 欠点はあるが、初めてできる |
| ⑦ | 欠点はあるが、時々できる |
| ⑧ | 欠点はあるが、いつでもできる |
| ⑨ | 欠点のないさばきが、初めてできる |
| ⑩ | 欠点のないさばきが、時々できる |
| ⑪ | 欠点のないさばきが、いつでもできる |

粗形態

粗形態

粗形態

精形態

精形態

精形態

設問.4

マット運動の技の段階練習ノート（ループリック評価表）についての感想を教えてください。

回答

番号	回答内容	グラフ 📊	割合	回答数
1	よかった		70.6%	12名
2	どちらともいえない		29.4%	5名
3	よくなかった		0.0%	0名

WordCloudで頻出語分析(Beta版)



【1つ目との違い】

・授業内で、活動しながら使用

→活動との結びつきが明確

授業内で実施できるので、課題感や負担感が少ないと思う

・その場で紙に記入していくスタイル

→ログインの手間がない、いつでもすぐに見直せる

マット運動ルーブリック 学生からの感想

1 段階的な学習を可能にしている、自分の学習状況を簡単に見ることができて、よかった。また、パートナーと相互評価をすることで、客観性を取り入れることができた。

1 毎回と他都度の確認が出来るという点で活用できたので良かった。

1 評価が細かく分かれていて、自分が達成できたことが具体的に分かるから。進歩できたというのが目に見えてわかるから。

1 段階ごとに取り組み方が書いてあって参考にしながら取り組むことができた。

1 スモールステップで技を習得する方が効率的で効果的だと感じたから。

1 できない技をやってみるときに、気をつけるポイントやどこから始めてみるかなどを考えるのに役

立つ
知る
成度を
てるな

**評価というよりも、技を段階的に習得していくための
チェックシートというニュアンスが強かったことも影響**

どいいやすい指標になっていた。

1 技のポイントや練習方法が段階的に理解できる（イメージしやすい）から。

1 自分の現段階での能力や段階を理解した上で自分がやるべき運動や練習を的確に把握でき、効率的に練習に取り組めたため。

宇大スタンダード	
表現力 授業の進め方、話し方、書き方、発表の仕方など、表現の力を高めること。また、授業の進め方、話し方、書き方、発表の仕方など、表現の力を高めること。	協働力 チームの中で、互いに協力し、互いに助け合い、互いに励ましあうこと。また、チームの中で、互いに協力し、互いに助け合い、互いに励ましあうこと。
課題解決力 多岐にわたる課題を、自ら考え、自ら解決すること。また、多岐にわたる課題を、自ら考え、自ら解決すること。	

価値観 自己成長 レベル 評価 価値観 自己成長 レベル 評価 価値観 自己成長 レベル 評価

参加 良かった 気持ち 示す 先生

確認 開始 事後 教務 しまっ なる 事前 ループリック

追う 捉え 後で行う 振り返り 他人 加え 課題 良く 終了 考え 客観

授業 簡単 良かった 気持ち 示す 先生 確認 開始 事後 教務 しまっ なる 事前 ループリック

マット運動ルーブリック 学生からの感想

2 段階を踏んでできるという点はいいと思ったが、少し文章が多く、みづらいなと思ってしまった。

2 個人だけでなく、協同的な学びの大切さも実感できたので、有効的だという印象を受けたから。

2 評価を自分でできるように事細かく記載されており、かつ段階がわかりやすく分けられていたため、評価しやすかった。

授業中に配る資料、技の種類、段階の分かれ方など仕方ないことも多々あるが、字が小さくぎっしり書かれているため少し読みにくかった。

2 あってもなくても変わらない気がする。

2 評価があるのは良いが文章で読み取るより段階的な映像などの方がわかりやすい。



内容の整理と検討が必要

ルーブリック評価 反省と課題



- 内容を簡潔に示す必要性
 - 授業の内容とルーブリックの内容の結びつきの明確化
 - 学生に負担感を感じさせないような工夫
 - 学生たちがついつい評価したくなるような仕掛けみたいな
- ※全教科で実施となると、学生側も教員側も負担感を減らす工夫が必要



- 学生自身にマイルーブリック評価表を初回授業時などに作成させるのも、良いかも？（少し趣旨はずれるかもしれないけれど）
 - この授業の目標と学習者自身がこの授業で身に付けたいことを照らし合わせて、作成、実施させる→主体性・目標の明確化
 - 学習者は自身の能力に即した個人の目標設定が可能

発表内容



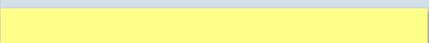
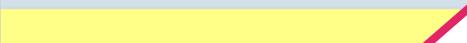
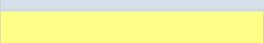
①今年度器械運動の授業で実施した

- ・ループリック評価（自宅での実施と授業内実施）
→それぞれについて内容と学生からのコメント

②昨年度までに実施した

ブレンディッド・ラーニングの内容の紹介と展望



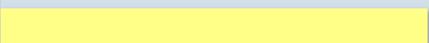
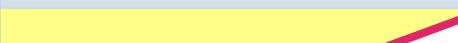
番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	演技発表を映像で共有すること		100.0%	17名
2	リフレクションシートを授業後に手書きではなく、C-Learning上で実施すること		65.5%	13名
3	事前に技や補助の動画を視聴できるようにすること		22.4%	14名
4	仲間が書いたワークシートをC-Learning上で共有すること		67.1%	8名

回答6 演技発表を映像で共有することが特に良かった。理由は、**発表をみんなが見ている前でやると緊張して上手くできないが、映像を共有することで一番いい演技をみんなに見てもらえることができるから**である。

回答7 演技発表を**映像で共有することで、自他のグループの長所や短所をよく観察できた。**

みんなの前で発表するという体験も大事だけど今の時代だからこそ、こういう発表形式もありかなと感じた。

(こういった工夫の積み重ねで、器械運動嫌いが減ってくれたらいいな…。笑)

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	演技発表を映像で共有すること		100.0%	17名
2	リフレクションシートを授業後に手書きではなく、C-Learning上で実施すること		76.5%	13名
3	事前に技や補助の動画を視聴できるようにすること		2.4%	14名
	仲間が書いたワークシートをC-Learning上で			

回答5 2.その場で振り返るのももちろん大切なのはわかるが、私自身考えたことや感じたことを言葉で表現してまとめなければならないものやレポートを書き上げるのに人より時間がかかるタイプなので、**家に帰って一人でじっくりと整理して取り組みたいと感じることができ、気持ち的に楽だったし、何より質の良い振り返りができたと感じている。**

回答10 ・授業後の手書きのリフレクションだと、次の授業や移動の関係もあって時間をかけることができないということが多かったのだが、C-learning上で行ったことでしっかりと振り返りながら記入することができたと思う。

意外にも、リフレクションシートを自宅等で実施させるのは、じっくりと振り返りができるとのことで好評でした。

3	事前に技や補助の動画を視聴できるようにすること		82.4%	14名
4	仲間が書いたワークシートをC-Learning上で共有すること		7.1%	8名

回答3 私個人の意見としては、事前に動画を見ることが出来るというのはイメージをもって授業に臨むことが出来るので非常に良かった。加えて何をやるかを大方理解することが出来ているため準備などその他の部分でもスムーズに行動することが出来るため、無駄な時間を少なくすることが出来た。

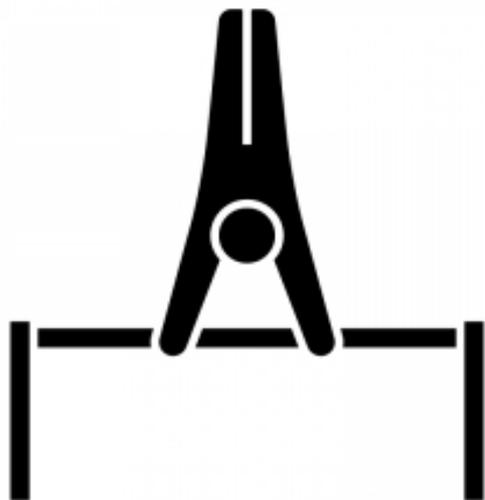
回答4 ・技は自分でイメージができていないと実際にやることは難しいから、動画でそのイメージが事前に自分でつかめるようになるのが良いと思った。また、授業中も適宜その動画を見て参考にできるのが良いと思った。
 ・他のグループがどんな演技をしていたかをちゃんと見たいし、後になってもみたいなって思うから、映像で共有できるのは良いと思った。

**全部で数分の授業に関連する技や補助の動画であっても
 少しでも事前にイメージを持たせることによって、
 活動に取り組みやすくなるかも**

混合型授業の実践例

実技科目の混合型授業（器械運動）

実施形態：オンデマンド授業→対面授業



鉄棒と跳び箱の実践例の紹介

オンラインの強み（オンデマンド）



- ・自分のペースで学習できる
- ・全員の回答や意見を知る機会がある
 - ←対面だと数人しかピックアップできない
- ・捉える視点を多様にする工夫がしやすい
(動画・図・文字・体験・ほかの領域)

→個人差に対応しやすい？

オンラインの弱み（オンデマンド）



- ・学習者の動機づけが下がりやすい・集中力が持たない
- ・コミュニケーションの取りづらい・実際に体験しづらい

混合型授業の実践例① (実技・器械運動)

授業全体の流れ

7回

オンデマンド：技術・指導に関する知識，考え方

8回

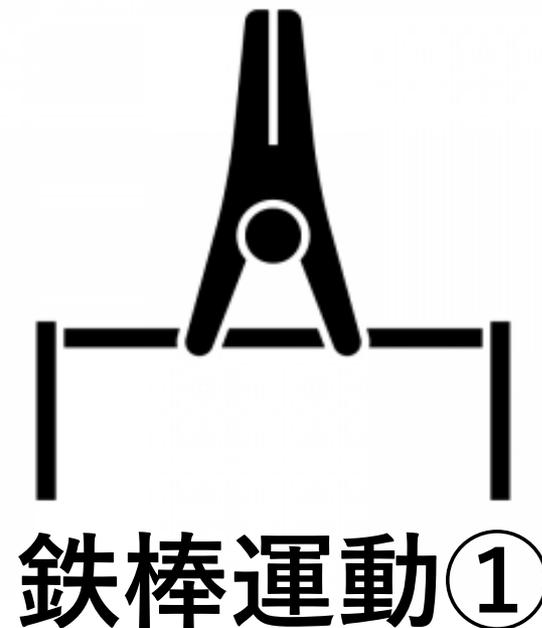
対面：オンデマンド授業の内容を復習しつつ
実際にどうなのか，自分の身体で実践
+ オンデマンド授業で扱えなかった内容

オンデマンド授業の基本的な実施形態

クイズ→解説のスタイル

学習者の動機づけを高めるための工夫

第4回 器械運動



鉄棒運動①

クイズの週



担当：松浦 佑希

問題その①

体育の鉄棒運動でも扱いましたが
逆上がりについてです。

01. 逆上がり（上がれない1）の動画を見て、
この人が逆上がれるようになるために
直すべき点はいくつか考えられると思いますが
その中で1番大事だと思うところはどこですか？

アンケートの選択肢から選んでください。

また、その理由について回答してください。

01. 逆上がり（上がれない1）の動画



動画…繰り返し見返すことができる



Top > 体操・器械運動 > アンケート > 第4回 器械運動 (鉄…

体操・器械運動 (前期) 0名 [S500005]

第4回 器械運動 (鉄棒運動①)

設問編集の終了

プレビュー

分岐

+ 冒頭文

+ 設問追加

+ コメントを追加

設問 1 (必須)

編集



01. 逆上がり (上がれない1) の動画を見て, この人が逆上がれるようになるため…

01. 逆上がり (上がれない1) の動画を見て, この人が逆上がれるようになるために, 直すべき点はいくつか考えられると思いますが, その中で特に1番大事だと思うところはどこですか? 1つ選んでください。

顎に関すること

脚の振り上げに関すること

腕に関すること

選択した理由を記入してください。 *

※テキスト入力形式

+ 設問追加

+ セクション分割

学生の回答（全員が見られる設定）

📖 体操・器械運動（前期） 🧑‍🎓25 [S500005]

第4回 器械運動（鉄棒運動①）

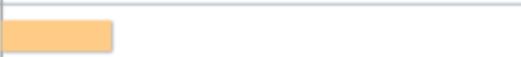
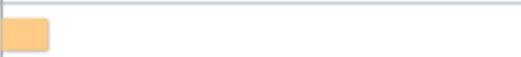
匿名回答：記名 対象学生：全員 学生：24/25

仲間の考えを共有できるように

設問.1

01. 逆上がり（上がれない1）の動画を見て、この人が逆上がれるようになるために、直すべき点はいくつか考えられると思いますが、その中で特に1番大事だと思うところはどこですか？ 1つ選んでください。

- 回答

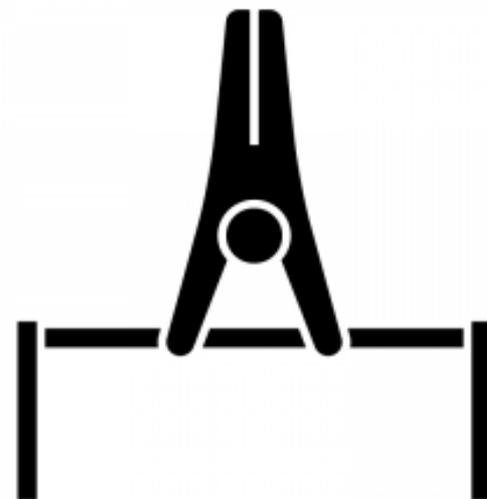
番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	顎に関すること		20.8%	5名
2	脚の振り上げに関すること		8.3%	2名
3	腕に関すること		70.8%	17名

選択した理由を記入してください。

- 1 顎に関すること 顎をひいていないため、回りにくくなっている。
- 3 腕に関すること 鉄棒から体が離れてるから
- 3 腕に関すること 腕が伸びていて、しっかりと鉄棒に体を引きつけられていないと考えた。
- 1 顎に関すること 顎が上がってしまっていて、体を引き付けられていないから。
- 3 腕に関すること 顎はしっかり引けていて脚も振り上げられているが、腕に関しては伸び切っちゃっていて、力が入らないから。
- 3 腕に関すること 脚の振り上げを意識して勢いを付けても、腕が伸びてしまって、引き付けていなかったら、回れないと思ったから。
- 3 腕に関すること 脚を踏みきって回る際に、すでに腕が伸び切っていて、回転の勢いが止まってしまっていると考えたから。
- 3 腕に関すること 腕が伸び切っている

第5回 器械運動

鉄棒運動②



解説の週



担当：松浦 佑希

問題その①

少しでもコミュニケーション

01. 逆上がり（上カ）

皆さんの回答一覧は、腕に関することが一番多かったですね！
私も意図的に肘を伸ばしました。

⇒鉄棒（回転の支点）から腰部（重心）が離れるため、
その重さによってさらに体が鉄棒から離されるため
上がることが困難になる ⇒ **重力と遠心力に負ける…**

回転運動は回転半径が大きくなれば、当然遠心力も大きくなる。
...回転するためのエネルギーもより多く必要になる。

⇒回れないわけではない。体操選手がやっているのを目にするかと思いますが、
大車輪はすべて伸びきった状態ですよ？

せっくなので、内村航平の鉄棒をどうぞ：<https://youtu.be/LJi2hmOxZOA>

問題その①

肘が伸びてしまうパターンでは、蹴る前に頭が先に回り反ってしまうような失敗例もあるかと思います。

先ほどの解説は理屈
これは写真でのイメージ



捉える視点を多様に
する工夫がしやすい

イメージとしてこんな感じ

問題⑤～⑦

顎を引いた方がい
まず顎が上がる。
頭が重いので、腕が伸び、そして鉄棒か

部屋の中でも
試せそうな内容

捉える視点を多様に
する工夫がしやすい

体験

あとは、力の入りやすさ

座ったままでいいので、上半身だけエアードンゴムシ
してみてください

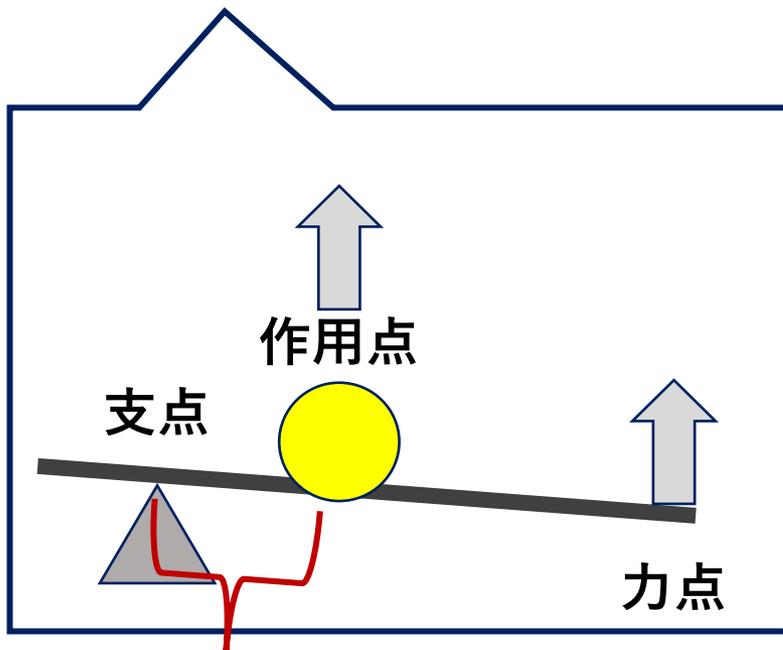
顎を引いた状態と顎を完全に上げた状態
比べると力の入りやすさが全然ちがいませんか？



一応てこの復習

(わかってる人は飛ばしてOK)

第2のてこ



短い方が効率よい

大事なのは作用点になっている
重心をいかに効率よく
鉄棒の高さまで持ち上げるか

…厳密には違う気もするけど。笑
イメージはこんな感じ



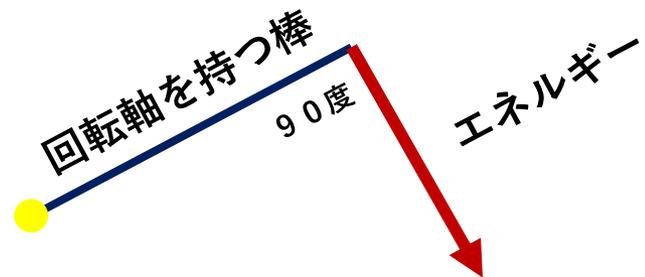
捉える視点を多様に
する工夫がしやすい

他の領域

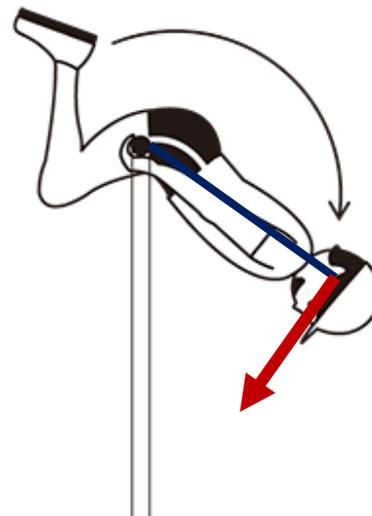
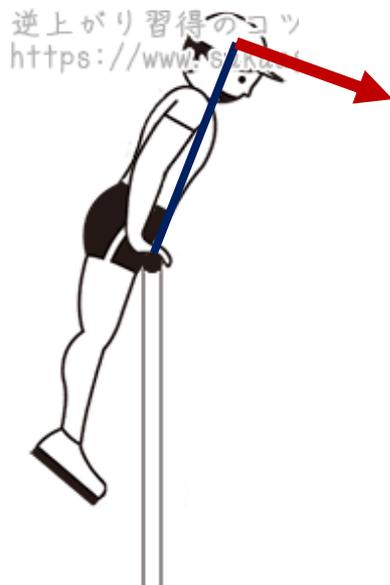
学生の回答「目線をまっすぐにする」「頭を遠く通す」

→これはなぜか説明できますか??

力のモーメント
を考えてみよう



作用する力が棒（体）に対して90度（垂直方向）が一番効率よい
…勢いつける方向（目線？）が決まる



跳び箱の実践例

・テレビ番組の動画を活用

→ 学生の動機づけ

→ 身近に感じる内容と器械運動の内容を結び付ける

学習者の動機づけを
高めるための工夫

捉える視点を多様に
する工夫がしやすい

身近に感じる内容



オンラインの強みを生かす視点で工夫していた点

オンラインの強み（オ

- ・自分のペースで学習で
- ・全員の回答や意見を知

←対面だと数人しかピックアップできない

- ・捉える視点を多様にする工夫がしやすい
(動画・図・文字・体験・ほかの領域)

→個人差に対応しやすい？

作成したオンデマンド教材は
学生が自由に選んで見れる
コンテンツみたいにしていたら
いいのかなと考えている

図が分かりやすい学生，映像が分かりやすい学生
文字媒体が分かりやすい学生，音声で分かりやすい学生，
体験することが分かりやすい学生など色々いると思うので，
色々な視点で解説するようにした

オンデマンド→対面の展望

- ・ **オンデマンド授業で知識・理解の側面を補う**
→多様なコンテンツを駆使することで、学生が理解するための選択肢を増やし、対面だけよりも理解が深められるかも？
- ・ **対面授業への動機づけを高められるかも？**
→事前情報や教材の提供の仕方、実際に取り組む前に動機づけを高められるかも？

**その上で対面授業に臨んでもらえば
より充実した授業を展開できそう**

ブレンディッド・ラーニングのまとめ

オンデマンドの強み ⇔ 課題：コミュニケーション

・ 動機づけ ・ 体験

・ 個人差 ・ 多角的な視点

→ 自分のペースで学習できる

→ いろいろな視点から教材を提供できる

→ いろいろな人の回答や意見を知る機会がある

INPUT

対面授業の強み ⇔ 課題：個人差への対応

・ コミュニケーション（仲間・教員など）

・ 実際に体験できる（実験・実技・実習）

OUTPUT

器械運動⑮リフレクションシート（7/22）

匿名回答：記名 対象学生：全員 学生：17/19 提出率：89% ゲスト：0 先生：0

設問.1 ※複数回答

C-Learningをはじめとするeラーニングシステムを多く活用して授業を実施しましたが、良かったと感じるものを選んでください。複数選択可能です。

- 回答 -

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	演技発表を映像で共有すること		100.0%	17名
2	リフレクションシートを授業後に手書きではなく、C-Learning上で実施すること		76.5%	13名
3	事前に技や補助の動画を視聴できるようにすること		82.4%	14名
4	仲間が書いたワークシートをC-Learning上で共有すること		47.1%	8名

設問.2

設問1で回答した内容について、特に良かったと感じた点について、具体的に教えてください（箇条書きで結構です）

- 回答 -

番号	回答内容
回答1	★ みんなの前で発表するというよりは動画の前で演技してみようという方がやりやすかったから。
回答2	★ ・映像での共有がやりやすく、見やすくなっているの便利であった。 ・手書きではないので、書きやすく、自分のタイミングで提出できるのでよかった。 ・他の人の意見を見て、自分との比較にも用いることができたので、よかった。
回答3	★ 私個人の意見としては、事前に動画を見ることが出来るというのはイメージをもって授業に臨むことが出来るので非常に良かった。加えて何をやるかを大分理解することが出来るため準備などその他の部分でもスムーズに行動することが出来るため、無駄な時間を少なくすることが出来た。
回答4	★ ・技は自分でイメージができていないと実際にやることは難しいから、動画でそのイメージが事前に自分でつかめるようになるのが良いと思った。また、授業中も適宜その動画を見て参考にできるのが良いと思った。 ・他のグループがどんな演技をしていたかをちゃんと見たいし、後になってもみたいなって思うから、映像で共有できるのは良いと思った。
回答5	★ 1.何度も見返すことができたり、再生速度も自由に変えられるので、より細かい部分へ気づきを得やすいと感じた。 2.その場で振り返るのももちろん大切なのはわかるが、私自身考えたことや感じたことを言葉で表現してまとめなければならないものやレポートを書き上げるのに人より時間がかかるタイプなので、家に帰って一人でじっくりと整理して取り組みたいと感じることで、気持ち的に楽だったし、何より質の良い振り返りができたと感じている。 3.授業で取り組むことを事前に知ることができるので、準備もスムーズだったし、ある程度頭の中で動きをイメージすることができたから。 4.自分とは違う視点で書かれた仲間のワークシートを読むことで、より自分の学びが豊かなものになったと感じている。
回答6	★ 演技発表を映像で共有することが特に良かった。理由は、発表をみんなが見ている前でやると緊張して上手くできないが、映像を共有することで一番いい演技をみんなに見てもらえることができるからである。
回答7	★ 演技発表を映像で共有することで、自他のグループの長所や短所をよく観察できた。
回答8	★ 演技発表を映像で共有すること 自分のグループと比較ができる。 全員の前で発表会をするよりも緊張感なく演技をすることができた。失敗したら何回でもやり直すことができたので、緊張で思うような動きができないようなことにはならなかった。
回答9	★ ・やったことない技や、想像できない技などを映像で見れたことで、イメージがしやすくなったり抑えるポイントが分かったりすることができたのでよかった。動画があることで、安全に行う事もできた。 ・他のグループの動画を何度も見れたので、自分達では考えられなかった演技構成や曲との組み合わせを見ることができたのでよかった。4グループあったのでそれぞれのグループを比較してみたりもできた。
回答10	★ ・授業後の手書きのリフレクションだと、次の授業や移動の関係もあって時間をかけることができないということが多かったのだが、C-learning上で行ったことでしっかりと振り返りながら記入することができたと思う。 ・映像で共有にしたことで他の班の発表を待つという時間が無くなり、技の練習などに時間をかけることができたと思う。

回答11	★ C-Learningで感想を出すことで、授業を時間ギリギリまで実施することができるためよかった。
回答12	★ ・発表を映像で共有することによってどのような演技をしているのかを見ることができた ・技の動画を視聴できると、どのようなポイントで行っていけば良いのか自分の技との違いは何かを考えながら練習を行うことができる。 ・他の人のワークシートを確認することによってどのような感じ方をしているのか、学んだことは何かなど、自分ではない視点を学ぶことができる。
回答13	★ ・演技発表を映像で共有することで、映像の撮り直しができるため失敗してもやり直せるという点で本来の技能を評価してもらえるところ。
回答14	★ 映像で共有することで他のグループの映像も自分のグループの映像もいつでも見ることができるし、このグループのここがよかった、自分のグループのここをこうしたかったなど他のグループのよさを細かく見つけることができたり、自分たちと比較してみても良かったなど次の活動への意欲が高められると思った。また映像を撮ることで自分たちを客観的に見ることもできて、良かった部分や悪かった部分などに気付くこともできるため、違うグループを取り入れることができたりもするのではないかと思った。取り入れることができれば全体でもっといい演技にしていこうとなっていくし、映像を撮ることはより授業への積極度などを上げるのではないかと感じた。
回答15	★ 映像を先に見れることによって動きをイメージしやすい
回答16	★ 演技発表を映像で共有すること。 自分達が納得いくまで取り組めるし、みんなの前で発表したり、失敗できないという緊張感がなく、リラックスして取り組めるから。
回答17	★ グループワークや個人での運動を動画として残して、共有することでみたいときにみれて、参考にしたりお互いに評価しあったり出来る点が良かったと感じる。

設問.3

campus squareから回答してもらったループリック評価について、感想を教えてください。

- 回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	よかった		47.1%	8名
2	どちらともいえない		47.1%	8名
3	よくなかった		5.9%	1名

選択した理由を簡単に記入してください。

- (2 どちらともい…) 段階を踏んでできるという点はいいと思ったが、少し文章が多く、みづらいなと思ってしまった。
- (2 どちらともい…) 正直、そこまで手が回っていなかったの、どのように学習と結びつけているのか実感がないです。
- (2 どちらともい…) 正直に言うと、気にしているタイミングが少なく、あってもなくてもどっちでもという感じだったから。
- (2 どちらともい…) 4段階評価しかなくて、形式的感が少しあるから…。(最初より最後の方が良くなるようにするか、みたいな)
- (2 どちらともい…) 段階的に自己評価及び学びの実態の振り返りができたことは良かったが、評価項目の言い回しがもう少し単純のものの方が、自分に当てはめて考えやすかったのではないかと感じたから。
- (1 よかった) 自分のレベルを認識することができたから。
- (1 よかった) 自分の授業に取り組む前と後で何がどう変化したのか分かりやすかったから。
- (1 よかった) 授業を受けて終わりではなく、事前の自己評価と事後の自己評価を見比べ、学びを実感することができた。
- (1 よかった) 自分の気持ちや授業に対する意欲の変化が見れてよかった。回を追うごとに、技の完成度を高めたりグループでの演技を高めたという気持ちが増えていったのでそれを目に見える形で示すことができたのでよかったと思った。
- (2 どちらともい…) あってもなくても変わらないような気がする。
- (1 よかった) 事前や途中、終わりそれぞれグラフを視覚化することで自己評価を確認しやすかったから。
- (2 どちらともい…) ループリック評価の文章が長いのと、どの項目に値するのかあまりよく分からずに付けてしまった。
- (2 どちらともい…) 自分の器械体操を通しての成長が目に見えて分かったから。また、先生からの評価ももらえて見られているということがわかり、モチベーションになったから。
- (1 よかった) 自分がどのような姿までいくなればいいのか具体的に分かるため、これからどうすればいいのか、どのように授業に参加していけばいいのか目標にしやすくなる。また参加できない中でもできることというのはたくさんあると分かったし、その中でもループリック評価というのはできない中でどう授業に参加すればいいのかを示してくれたと思う。
- (3 よくなかった) 教務ポータル自体をあまり開く機会がないのに加えて、C-LearningとLMSで課題に取り組んでいるのに三つ目のものとして行うものがやりづらい。

1 よかった 自己評価と他人からの評価を比較して、客観的に見直すことができたから。

1 よかった 授業開始時から終了時にかけてどのように自分が変化していったかを客観的に評価し視覚的に捉えられるため。

設問.4

マット運動の技の段階練習ノート（ループリック評価表）についての感想を教えてください。

- 回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	よかった		70.6%	12名
2	どちらともいえない		29.4%	5名
3	よくなかった		0.0%	0名

選択した理由を簡単に記入してください。

2 どちらともい… 段階を踏んでできるという点はいいと思ったが、少し文章が多く、みづらいなと思ってしまった。

1 よかった 段階的な学習を可能にしている、自分の学習状況を簡単に見ることができて、よかった。また、パートナーと相互評価をすることで、客観性を取り入れることができた。

1 よかった 毎回と他都度の確認が出来るという点で活用できたので良かった。

1 よかった 評価が細かく分かれていて、自分が達成できたことが具体的に分かるから。進歩できたというのが目に見えてわかるから。

2 どちらともい… 個人だけでなく、協同的な学びの大切さも実感できたので、有効的だという印象を受けたから。

1 よかった 段階ごとに取り組み方が書いてあって参考にしながら取り組むことができた。

1 よかった スモールステップで技を習得する方が効率的で効果的だと感じたから。

2 どちらともい… 評価を自分でできるように事細かく記載されており、かつ段階がわかりやすく分けられていたため、評価しやすかった。

授業中に配る資料、技の種類、段階の分け方など仕方がないことも多々あるが、字が小さくぎっしり書かれているため少し読みにくかった。

1 よかった できない技をやってみるときに、気をつけるポイントやどこから始めてみるかなどを考えるのに役立った。ペアで評価しあったりもして、他の人が自分の技を客観的に見てくれることで、技の完成度を知ることができてよかった。

2 どちらともい… あってもなくても変わらない気がする。

1 よかった 今自分がどの段階にいるのかを確認することができるため。

1 よかった どのようなところまでできたらどの段階になるのかが具体的に書かれていたので良かったと思う。

1 よかった 自分はどの段階で次にどのような練習や難易度に挑めば良いかがわかったから。

1 よかった これを参考にすることで段階的に連中に向かっていたし、見ている側からもここまでできてるなどいいやすい指標になっていた。

2 どちらともい… 評価があるのは良いが文章で読み取るより段階的な映像などがある方がわかりやすい。

1 よかった 技のポイントや練習方法が段階的に理解できる（イメージしやすい）から。

1 よかった 自分の現段階での能力や段階を理解した上で自分がやるべき運動や練習を的確に把握でき、効率的に練習に取り組めたため。

設問.5

授業全体を通しての感想を書いてください。

- 回答

番号	回答内容
回答1	★ いつもやったことないことや今までやったことのないことを挑戦できて今まで器械体操が授業の中で1番嫌いだったが、できるようになったり、ワクワクすることが多くて苦手意識が少し減った気がします。
回答2	★ 授業全体を通して、器械運動の技能向上や一つ一つの補助の仕方や準備の進め方などの指導方法の観点にも触れることができた。非日常的な動きの活動が多く、楽しく、主体的に活動することができた。そして、毎回の授業終わりには、自身の活動評価をCラーニングに書き込む活動は、自身の振り返りにつながり、次への活動の結び内容になった。最後に、コロナ禍で色々制限がある中、15回にも渡る器械運動を行うことができてよかった。 準備から片付けまで色々大変でしたが、15回の講義をありがとうございました。
回答3	★ 楽しく活動できたのが何よりもうれしかったし、意欲につながっていた。スポ心の授業を含め個人的に1番楽しみな曜日だった。誰とは言わないが、強い太陽光のもとひたすら体育座りをさせ自己満足説明プレイを展開する人もいる中で、軽い説明+自分で体験というテ

	<p>ンポの良い授業をしてくださったことが、授業に対する意欲を高める要因になっていたと考えている。また、友達とアドバイスし合いながらというのも良い経験だった。人に教えるには言語化する能力が必要であり、聞くにも理解力が必要である。これは教師はもちろんのこと社会人が持つべき能力であると考えている。この授業ではこの能力を知らず知らずのうちに伸ばすように構成されていたのだなと今になってそう思う。</p> <p>今後の保体科の生徒にも好影響を与え続けるのかどうかという点は私には分からないが、私たちの代にとっては非常に良い影響を与えてくれる授業だったと思う。</p> <p>ありがとうございました。</p>
回答4	<p>★ やったことのない色々なこと(ラート、平均台、吊り輪、平行棒など)ができてとても楽しかったし良い経験になりました。また、マット運動ではみんなと協力して一つの演技動画を作ることができたり、友達や先生にアドバイスしてもらって技が上達したり、できるようになったことが増えてとても嬉しく、達成感も得ることができました。</p> <p>とても楽しい授業でした!半期間、ありがとうございました!</p>
回答5	<p>★ 実際に動く活動で学んでいく時間がたっぷりと確保されていてすごく取り組みやすかった。特に、自由に楽しい雰囲気の中で授業に取り組むことができたのが一番良かったし、何より器械運動の楽しさをより実感しやすい授業空間だったと感じており、改めて学びの環境や仲間との信頼関係が学びに影響を与えることを痛感した。</p> <p>また、スマホで撮影する機会が多かったことを通して、実際に授業を展開していく時にも、そこまでICTに対して難しさを感じる必要はないのかもかもしれないと感じた。今までは体育実技の授業でICTの活用を図っていくことを考えると、いまいちどうしたらよいのか見当がつかず、どうしてもICTを使うことが目的になってしまうと悩んでいた。しかし、器械運動の授業内において気軽に自分の演技を撮影したり仲間と見せ合ったりと、私たちが日常で行っている使い方とあまり変わりはないことに気づかされた。もっと気軽に考えればいいのだと思ったり、授業で使うICTと自分たちが何気なく日常で使っている媒体と一別して考える必要がないのだということに、当たり前なことだが気づかされた。</p> <p>ただ一方で、この器械運動の授業ではほとんどが保健体育専攻の学生ということもあり、ある程度できる人が多く、技術向上のためにどうしようかと、さらに難しい技に挑戦しようといった活動がかなり多かった。しかし、実際の現場ではこんなにスムーズに行くことはほぼない。だからこそ、この授業での活動のスムーズさが当たり前でないことをきちんと念頭に置きつつ、ここで学んだ知識や技術、補助の仕方や様々な視点などを今後生かしていきたい。</p>
回答6	<p>★ 自分は器械運動が苦手な中で体育の授業の中では一番嫌いな領域なのでうまくできないことが多かったが、みんなが教えながら一緒に練習してくれたことで楽しく授業に取り組むことができた。吊り輪や平均台、ラートなど実際の教育現場ではあまり行われない競技にも触れることができ有意義な授業になったと思う。特にラートは回る感覚を体感できてとても面白かった。マット運動では、自分ができなくても補助の仕方を学んだり、技ができるようになるための場の工夫の仕方について学んだりすることができた。マット運動を行うにあたっては、安全管理がとても大切だと思った。無理をしてやっていると怪我に繋がるので自分のレベルにあった技をやるといことはとても大切だと思った。また、準備体操をしっかりと身体をほぐしてから行うことも大切なことだと感じた。授業全体を通してとても楽しく活動することができた。ありがとうございました。</p>
回答7	<p>★ 私はこの器械運動の授業を通して、様々な形で自分の体を動かす経験を経ることができ、多くの学びや気づきを得ることができた。器械運動では普段の生活の中では体験することのない動きを実践するため、馴染みのない筋肉が使われたり、関節の可動域が広がられたりと、自分の体と向き合う良い機会となった。こうした経験を経ることができたことによって、自分の体を自分で動かせる喜びやその難しさなどを実感することができ、この感覚をより多くの人に共感してもらいたいと感じた。本授業で培ったこの感性とスモールステップの技術を活かして、教育実習やその後の教員活動で充実した時間を過ごせるように努力したい。</p>
回答8	<p>★ 4年生1人の授業でしたが、グループや2組に分かれて活動できたことで、壁を感じることなく授業に参加することができました。私自身、器械運動は苦手ななかなかなと思うように技ができませんでした。こんな私が、小学校もしくは中学校体育で教えることになる不安はまだあります。しかし、授業ではできないと想定した補助、スモールステップの活動、ルーブリック評価法など、将来の授業に活かせるようなことをたくさん学ぶことができました。また、技の成功だけに捉われず、主体的で協働的な活動にすべくグループでの演技する活動も肌で学ぶことができました。松浦先生が授業を通しておっしゃっていた、非日常的な身体の動きができる喜びや楽しさを味わうことは、私自身もできたのではないかと思います。もし将来、器械運動を教える際には、忘れずに子供たちにも伝えていきたいです。おそらく私は今回が最後の松浦先生の授業になってしまいましたが、4年間お世話になりました。どうか、怪我や健康にお気をつけて、ラートの選手や大学の先生として益々のご活躍を応援申し上げます。</p>
回答9	<p>★ 器械運動の授業を通して、器械運動を苦手としている児童生徒にも工夫をすれば、非日常的な動きを楽しんでもらうことができると思った。技のテストをするだけの授業だと、器械運動が苦手な子どもは授業が嫌になってしまうと思う。しかし、最初できなかったものがどれだけできるようになったの練習の過程を見たり、友達と協力して一つの演技を完成させたりと、授業者が工夫してをすることで、楽しく身になる授業になると感じた。また、技を練習するための場を工夫したり、いろいろな種類を用意することで、より子どもが取り組みやすくすることも必要だと思った。段階練習表などと組み合わせれば、子どもが自分の課題に合わせた練習ができ、どんな練習をすればよいか明確になり、加えて色々な種類の場があることで自分で考えて練習もできると思う。</p> <p>子どもが主体となり楽しく、身になる授業が出来れば良いと思う。</p>
回答10	<p>★ 学生主体の授業が多く、とても楽しい授業であったと思う。ラートや平均台、吊り輪など通常の学校体育では体験することができないようなことも体験でき、貴重な体験ができたのがとても印象に残っている。また、いろいろな種目をやる中で自分の得意・不得意などにも気づくことができたり、自分の得意なことを伸ばすことができたりと自分の身体能力を高めることができたのではないかと感じている。</p> <p>今後は自分が教える側になるので、器械体操の授業で学んだ様々なことを忘れずに活かしていこうと思う。</p> <p>半年間ありがとうございました!</p>
回答11	<p>★ 授業を通して身体を自由に動かすことができ、楽しかった。恐怖心を正しい練習方法によって払拭することができたため、私が授業をする側の場合でも、場の工夫ができるのではないかと感じた。</p>

回答12	<p>★ 授業を通して自分がどのように指導していけば良いのか、補助の仕方、子供達で補助を行う際にどのように教えるのかなどを学ぶことができたと思う。自分ができないことが多く、苦手な子供達の気持ちをととてもよく感じる事ができた。一生懸命に教えてもらっているのにできないことからの自分への不甲斐なさ、情けなさを感じることは劣等感やその運動への苦手感を増進させてしまうのだと感じた。できない経験はできる経験に変えていくことが必要であると思うので、できるだけ補助をつけて練習を行うこと、何が問題なのか教師の視点で考えてアドバイスをを行うこと、肯定的な意見やアドバイスを絶えず行うことが重要であるのではないかと感じた。自分ができない経験を行えば行うほど苦手な生徒の気持ちを汲み取ることができ、より良いフィードバックや指導につなげることができると思う。今回できた経験を次に生かしていきたいと思う。また、様々な器械体操の種目を行わせていただいたことは学校で行うことができない種目を自分が生徒に説明できたり、他の方法で同じような体験を行わせることができ、より様々な運動を経験させることができるのではないかと感じた。</p>
回答13	<p>★ 協力して作品を完成させたりするのが楽しかった。自分としてもできるようになったことがたくさん増えてとても達成感のある授業であった。また、使ったことのない様々な道具や器具を使って活動できたのが楽しくて、型にはまらなくても良いのだということを感じた。</p>
回答14	<p>★ この授業を通して、自分が将来教師になったときどうするべきか、どうしなければいけないのか、またこれをどう自分なりに工夫して授業にしていくかなどたくさん考えることができたと思う。自分ができない状況にあるからこそ、他の人をよく見ることができ、どういところでつまづきやすいのか、そういうときはどう教えたり、補助をしりたいのか、どんなねらいがあって場を設定しているのかなどたくさん考えることができた。やりたいな、やってみたいなと感じることはよくあったけど、でもそれ以上に誰かができたときに嬉しくなったり、誰かができるように頑張っている姿を見て自分は何かできることはないかと考えたり、できない中でもできることというのはたくさんあるなと感じた。将来授業をするときも絶対にやむを得ず見学という子は多くいると思う。そうした子どもができないからやだなと感じるのではなく、できないときだからこそできることというのを考えたいと思った。それが考えればどんな状況にあっても全員が参加することができると思う。安全に配慮しながらも全員が積極的に参加できる授業というのを今回の学びを生かして考えていけたらと思う。</p>
回答15	<p>★ 基本的な器械体操の実践に加えて、ラートやスラッグラインなど特殊な器械体操も行えたためとても楽しく取り組むことができた。また、器械体操を教える上での補助の仕方などは実際の授業実践で必ず使うものであるため学ぶことができて良かった。</p>
回答16	<p>★ 授業全体を通して、とても楽しみながら積極的に取り組めたと思う。動画を撮ったり、仲間からアドバイスをもらったりするを通して、「こうしたらうまくいくかな?」「もっとこうしてみよう」と試行錯誤し、成功したときの達成感はなかなか味わえるものではないと感じた。児童生徒にも、自分が体験したような成功体験や器械運動の面白さ・楽しさを味わってほしいし、それを体験させてあげられるような教師になりたいと思った。この授業で学んだ補助の仕方や場の設定を活かして、児童生徒に楽しんでもらえる授業作りを行いたい。</p>
回答17	<p>★ 授業全体を通して自分の技能を高めるためにどのような練習をしてどのようなポイントに意識して練習すればよいかを常に考え取り組めたと感じる。また、自分の練習ばかりに意識を置くのではなく教育実習や教育の現場でどのように応用できるかを授業後に振り返る癖がついたと思う。とくにどの回、どの種目や運動においても段階的指導は教育の現場で取り入れていこうと強く意識を持った。このように思うようになったきっかけはマット運動の回での出来事である。わたしはマット運動が格別出来るという訳ではない(保健体育分野の中でみたらできない)ので、ハンドスプリングや三点倒立にチャレンジした際に、わたしはいきなりその技をやろうとしてしまっていた。そのため当然ながら出来るようになるビジョンは全くみえず、技にチャレンジしては失敗しまたチャレンジし、、、というようなことを繰り返していた。その中でメンタル的にも他の人はできているのに自分ではできないという暗い気持ちになってしまったのも事実である。その時に先生やメンバーが段階的に練習することをすすめてくれたり、授業の中でもある技に対して段階的な練習について紹介があったりした。段階的指導をすることによって、明らかに技ができるようになったという効果があったかというところとそうと自信を持って言うことはできないが(自分がチャレンジした技が完璧に出来るようになったわけではないがゆえに)、自分の現段階での状態や技の習熟度を知らずにその技をやろうとすると一向に上達を感じなかったが、その技に似た動作やその技に必要な動きなどからアプローチして、徐々にその技に近づけていくような段階的なアプローチをしたところ、部分部分ずつではあるがそれまでできなかつた動作や動きなどが出来るようになり、しかもそれを実感でき、技も徐々にできるようになっていくという事が身をもって理解できた出来事であった。教育現場に目を向けると得意な子が高く評価され、できない子は結果だけ見られ低く評価されることがよくあるとわたしは考えている。この評価に着目しても段階的指導は有効であるのではないかと感じる。結果だけを重視するのではなく、その児童生徒が段階的指導を経てどのような「変化」をしていったかでそれぞれを評価していく必要性やその可能性を見出した。しかし、教師が一人一人のその単元開始時期の能力や状態を正確に捉えていないといけなという課題があるがその課題を乗り越えれば評価をする際にも段階的指導の要素を活用する事もできると思う。</p> <p>このように段階的指導の良さを特にこの講義で学んだ。教育実習の際にも活用していきたいと思う。</p>

令和4年度「全学FDの日」【全学シンポジウム】
本学におけるルーブリック試行について

教務ポータル：Campus Square

「履修カルテ（自己評価シート）」入力事例

－ルーブリックによる多面的評価－

Plus-DX推進チーム

「Plus-DX推進チーム」の目的：

ブレンディッド・ラーニングの推進とルーブリックによる多面的評価の推進



自律的学修者の育成

具体的には：

教務ポータル上の履修カルテ（自己評価シート：ルーブリック）やLMS（C-learning）をプラットフォームとし、ブレンディッド・ラーニングの推進と指導教員や同僚学生とのコメントなどの往還



学びのコミュニティの創出

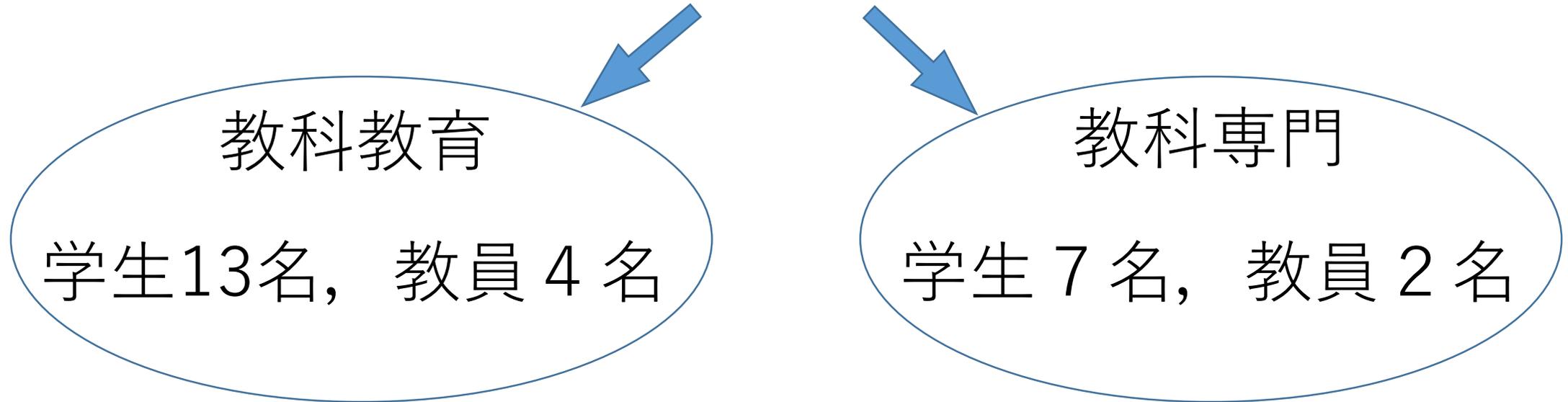


宇大スタンダードにある汎用的力量や部局での専門的力量（+汎用的力量）の涵養

学生が成長実感をもつことが可能となる学修成果可視化システムを構築

事例 1

共同教育学部 数学分野 「卒業研究」の事例



2種類のルーブリックを運用
(内容的に大きな違いはない：基準はほぼ同じ)

教科教育ルーブリック

宇大スタンダード	定義	基準 4	基準 3	基準 2	基準 1
論理的思考力	筋道を立てて論理的に物事を考える力。	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する多くの先行研究（書籍・論文など）に基づいて、意義ある研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 研究室の仲間や指導教員と議論を展開し、質の高い結論を論理的に導くことができる（研究遂行）。 得られた結果と論文の目的が整合し、結果を導く方法が妥当である（論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究（書籍・論文など）に基づいて、意義ある研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 研究室の仲間や指導教員と議論を基に、結論を論理的に導くことができる（研究遂行）。 得られた結果と論文の目的が整合し、結果を導く方法が妥当である（論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究（書籍・論文など）に基づき、自分なりの研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 研究室の仲間や指導教員と議論を展開することができる（研究遂行）。 自分なりの結果を得ることができる（論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験に基づき、自分なりの研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 自分なりの結果を得ることができる（論文作成）。
情報活用力	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力。	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについての先行研究（書籍、論文など）を自らも広く調査し、意義ある研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる（論文作成） 得られた結果を活用して、算数・数学教育について考察できる（論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについての先行研究（書籍、論文など）を自らも調査し、研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる（論文作成） 得られた結果を活用して、算数・数学教育について考察できる（論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員のアドバイスによって自ら先行研究（書籍、論文など）を調べ、そこで得た情報に基づいて研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる（論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員が指定した先行研究（書籍、論文など）で得た情報に基づいて研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 先行研究を基に、研究テーマについて調べることができる（論文作成）。
表現力	感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力。	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて指導教員や研究室の仲間に伝わるプレゼンテーションができる（口頭発表）。 研究目的との関係についても、効果的・印象的なプレゼンテーションができる（口頭発表）。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて指導教員や研究室の仲間に伝わるプレゼンテーションができる（口頭発表）。 研究目的との関係についても、効果的なプレゼンテーションができる（口頭発表）。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて、プレゼンテーションを作成でき、指導教員や研究室の仲間に、その内容が伝わるプレゼンテーションが作成できる（口頭発表）。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて、プレゼンテーションを作成できるが、その内容が伝わりづらいプレゼンテーションを作成している（口頭発表）。
学修力	一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする力。変化に対応し、自らを変えようとする力。	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する内容や研究方法に関する知識や理解を自ら進んで得ることができる（研究計画立案・研究遂行・論文作成）。 研究室の仲間の意見や指導教員のアドバイスに耳を傾け、必要に応じ研究方針や研究方法を柔軟にかつ適切に修正できる（研究遂行）。 研究成果の算数・数学教育上の意義について、指導教員の意見を踏まえて、自分の考えを改善することができる（研究遂行・論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する内容や研究方法に関する知識や理解を自ら進んで得ることができる（研究計画立案・研究遂行・論文作成）。 研究室の仲間の意見や指導教員のアドバイスに耳を傾け、研究方針や研究方法を修正する必要性に気付くことできる（研究遂行）。 研究成果の算数・数学教育上の意義について、自ら調べ、考察できる（研究遂行・論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員のアドバイスに従い、研究テーマに関する内容や研究方法に関する知識や理解を得ることができる（研究計画立案・研究遂行・論文作成）。 指導教員のアドバイスに従い、研究成果の算数・数学教育上の意義について調べ、考察できる（研究遂行・論文作成）。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員のアドバイスに従い、研究テーマに関する内容や研究方法に関して調べることができる（研究計画立案・研究遂行・論文作成）。 指導教員のアドバイスに従い、研究成果の算数・数学教育上の意義について、調べることができる（研究遂行・論文作成）。
協働力	チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力。多様な人々との繋がりや協働を生み出す力。	<ul style="list-style-type: none"> 研究室の仲間や指導教員と協働して研究を進めることができる（研究遂行）。 研究室の仲間との研究討論に積極的に介入し、仲間の研究推進に関わろうとする（研究遂行）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究室の仲間や指導教員と協働して研究を進めることができる（研究遂行）。 研究室の仲間との研究討論に介入し、仲間の研究推進に関心を持つことができる（研究遂行）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究室の仲間や指導教員と協働して研究を進めることができる（研究遂行）。 研究室の仲間との研究討論に参加できる（研究遂行）。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究室の仲間との研究討論に参加できないことがある（研究遂行）。
課題解決力	多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取組む力。	<ul style="list-style-type: none"> 算数・数学教育の現状について、理論と実践の両面から分析し、算数・数学教育上意義のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。 課題解決に向けて研究計画を自ら立案するとともに、それを評価・改善することができる（研究遂行）。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数・数学教育の現状について、理論と実践の両面から分析し、算数・数学教育上意義のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。 課題解決に向けて研究計画を自ら立案することができる（研究遂行）。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数・数学教育の現状について、理論あるいは実践の面から分析し、自分の関心のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。 課題解決に向けて研究計画を立案することができる（研究遂行）。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数・数学教育について、自分の関心のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。 課題解決に向けて、研究計画を立案することができない（研究遂行）。

← ルーブリックは「宇大スタンダード」に則した形式

教務ポータル画面 (新システム)

お知らせ&ニュース

お知らせはありません

メニュー ランキング 履歴

メニュー

新着情報

あなた宛の新着情報

新着のトピック

MYスケジュール

202

Sun	Mon	Tue
	1	2
7	8	9
14	15	16
21	22	23
28	29	30

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職履修カルテ
- 履修カルテ(教職課程以外)
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成
- 自己評価シート入力 (教職課程以外)

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

自己評価シート入力 (教職課程以外)

開講年度

2022

検索

基盤教育科目履修カルテ

対象データはありません

基幹科目履修カルテ

卒業研究 (数学分野_教科教育)

履修カルテ(教職課程以外)

自己評価シート入力 (教職課程以外)

2022/08/15

close

CAMPUSSQUARE

酒井 一博 ログアウト

パスワード 残り60分

メニュー ランキング 履歴

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職ルーブリック

履修カルテ(教職課程以外)

TOPページ お知らせはこちら >

自己評価シート作成 >

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

自己評価シート入力 (教職課程以外) / 担当学生一覧

教員所属	教育学部
教員コード	91958449
教員氏名	酒井 一博
年度・学期	2022 前期
シート	卒業研究 (数学分野_教科教育)

●一括登録する場合、評価種類、入力状態、CSVファイルを選択し、「取込実行」ボタンをクリックしてください。

評価種類 : 指標評価 小項目評価

入力状態 : 一時保存 完了

ファイルの選択 ファイルが選...れていません **取込実行**

●フォーマット出力をする場合、評価種類、評価期間を選択し、「フォーマット出力」ボタンをクリックしてください。

評価種類 : 指標評価 小項目評価

評価期間 : 当初 中間 最終

フォーマット出力

1件目 から 1件目の検索結果を表示しています (全部で 1件あります)

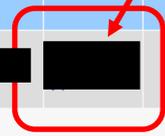
検索結果ページ: << 前へ 1 次へ >>

No.	開講年度	開講区分	時間割コード	開講科目名	学生所属	学籍番号	学生氏名	学年	ルーブリック評価					
									当初		中間		最終	
									教員	学生	教員	学生	教員	学生
1	2022	通年不定時	S333011	数学分野卒業論文 (教科教育)	教育学部学校教育教員養成課程教科理系 数学分野	■■■■■	■■■■■	4	完	完	未	未	未	未

研究室所属の学生リスト



学生の氏名をクリック



CAMPUSSQUARE

酒井 一博 ログアウト

パスワード 残り59分

メニュー ランキング 履歴

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職履修カルテ
- 履修カルテ(教職課程以外)
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

自己評価シート入力 (教職課程以外)

個人情報

所属	教育学部学校教育教員養成課程教科理系 数学分野		
学籍番号	学生身分	一般	
学生氏名	[Redacted]		
カナ氏名	[Redacted]		
入学年月日	2019年4月3日	要件年度	2019年度
現況区分	在学		
カルテ区分	基幹科目履修カルテ		
シート	卒業研究 (数学分野_教科教育)		
開講年度	2022	時間割コード	S333011
開講科目名	数学分野卒業論文 (教科教育)		

コメント数 0

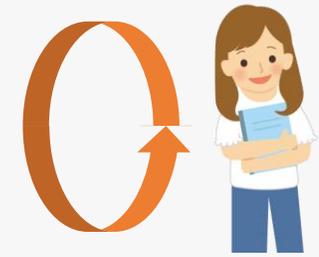
👍の数 0

コメントへの返信率 0%

評価

履修中

自己評価

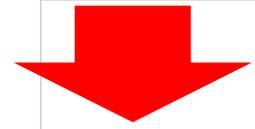


ループリック評価入力 EXCEL出力 キーワード検索

この授業での私の目標 学びのふり返り 課題の自己評価

学生が記載

この授業での私の目標



私はこの授業で・・・

CAMPUSSQUARE

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

自己評価シート入力 (教職課程以外) / ルーブリック評価入力

当初 中間 最終 評価者別レーダーチャート

この数値で作成

宇大スタンダード	説明	基準4	基準3	基準2	基準1
論理的思考力	筋道を立てて論理的に物事を考える力	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する多くの先行研究(書籍・論文など)に基づいて、意義ある研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 研究室の仲間や指導教員と議論を展開し、質の高い結論を論理的に導くことができる(研究遂行)。 得られた結果と論文の目的が整合し、結果を導く方法が妥当である(論文作成)。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究(書籍・論文など)に基づいて、意義ある研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 研究室の仲間や指導教員と議論を基に、結論を論理的に導くことができる(研究遂行)。 得られた結果と論文の目的が整合し、結果を導く方法が妥当である(論文作成)。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究(書籍・論文など)に基づき、自分なりの研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 研究室の仲間や指導教員と議論を展開することができる(研究遂行)。 自分なりの結果を得ることができる(論文作成)。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験に基づき、自分なりの研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 自分なりの結果を得ることができる(論文作成)。
情報活用力	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについての先行研究(書籍、論文など)を自らも広く調査し、意義ある研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる(論文作成)。 得られた結果を活用して、算数・数学教育について考察できる(論文作成)。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについての先行研究(書籍、論文など)を自らも調査し、研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる(論文作成)。 得られた結果を活用して、算数・数学教育について考察できる(論文作成)。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員のアドバイスによって自ら先行研究(書籍、論文など)を調べ、そこで得た情報に基づいて研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる(論文作成)。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員が指定した先行研究(書籍、論文など)で得た情報に基づいて研究テーマを設定できる(研究計画立案)。 先行研究を基に、研究テーマについて調べることができる(論文作成)。
表現力	感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて指導教員や研究室の仲間に伝えるプレゼンテーションができる 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて指導教員や研究室の仲間に伝えるプレゼンテーションができる 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて、プレゼンテーションを作成でき、指導教員や研究室の仲間 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて、プレゼンテーションを作成できるが、その内容が伝わりづ

ルーブリックは「宇大スタンダード」に則した形式

酒井 一博 ログアウト

パスワード 残り60分

メニュー ランキング 履歴

メニュー

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職履修カルテ
- 履修カルテ(教職課程以外)
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成

CAMPUSSQUARE

酒井 一博

ログアウト

パスワード

残り57分

メニュー

ランキング

履歴

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職履修カルテ
- 履修カルテ(教職課程以外)
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

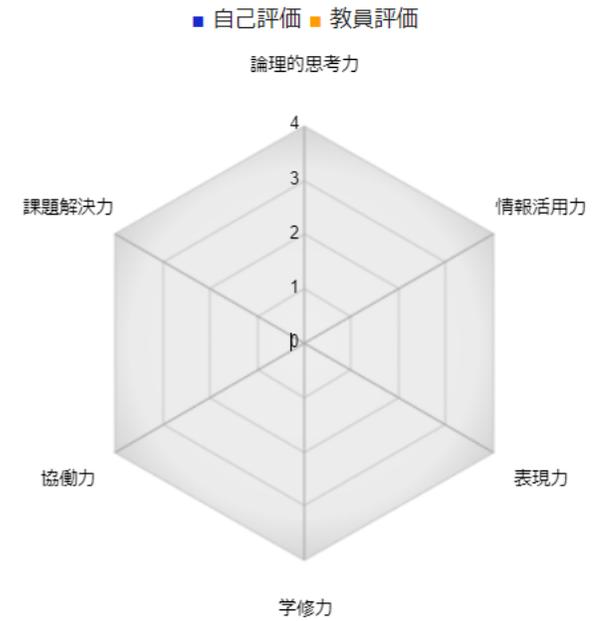
自己評価シート入力 (教職課程以外) / ルーブリック評価入力

<p>にりる力 課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取組む力</p>	<p>題を明らかにできる (研究計画立案)。 ・課題解決に向けて研究計画を自ら立案するとともに、それを評価・改善することができる (研究遂行)。</p>	<p>題を明らかにできる (研究計画立案)。 ・課題解決に向けて研究計画を自ら立案することができる (研究遂行)。</p>	<p>らかにできる (研究計画立案)。 ・課題解決に向けて研究計画を立案することができる (研究遂行)。</p>	<p>・課題解決に向け、研究計画を立案することができない (研究遂行)。</p>
---	--	---	--	--

自己評価 教員評価

未評価 評価無し もう少し グッド

評価結果をレーダーチャートで可視化



レーダーチャートは将来的にディプロマ・サプリメントに組み込む予定

●ルーブリック評価の入力が完了したら、「入力完了」を選択して「入力状態保存」ボタンをクリックしてください。

入力状態保存 一時保存 入力完了

CAMPUSSQUARE

酒井 一博 ログアウト

パスワード 残り59分

メニュー ランキング 履歴

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職履修カルテ
- 履修カルテ(教職課程以外)**
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

自己評価シート入力 (教職課程以外)

個人情報

所属	教育学部学校教育教員養成課程教科理系 数学分野		
学籍番号	学生身分	一般	
学生氏名	[Redacted]		
カナ氏名	[Redacted]		
入学年月日	2019年4月3日	要件年度	2019年度
現況区分	在学		
カルテ区分	基幹科目履修カルテ		
シート	卒業研究 (数学分野_教科教育)		
開講年度	2022	時間割コード	S333011
開講科目名	数学分野卒業論文 (教科教育)		

コメント数 への数

0 0

コメントへの返信率

0%

評価

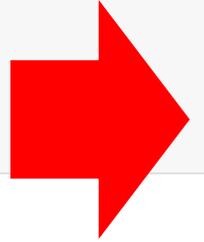
履修中

ループリック評価入力 EXCEL出力 キーワード検索

この授業での私の目標 学びのふり返り 課題の自己評価

この授業での私の目標

具体例





教員の評価

学生の
自己評価

宇大スタンダード	説明	基準4	基準3	基準2	基準1
論理的思考力	筋道を立てて論理的に物事を考える力	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する多くの先行研究（書籍・論文など）に基づいて、意義ある研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 研究室の仲間や指導教員と議論を展開し、質の高い結論を論理的に導くことができる（研究遂行）。 得られた結果と論文の目的が整合し、結果を導く方法が妥当である（論文作成）。 	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究（書籍・論文など）に基づいて、意義ある研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 研究室の仲間や指導教員と議論を基に、結論を論理的に導くことができる（研究遂行）。 得られた結果と論文の目的が整合し、結果を導く方法が妥当である（論文作成）。 	<p>👍</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究（書籍・論文など）に基づき、自分なりの研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 研究室の仲間や指導教員と議論を展開することができる（研究遂行）。 自分なりの結果を得ることができる（論文作成）。 	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の経験に基づき、自分なりの研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 自分なりの結果を得ることができる（論文作成）。
情報活用力	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについての先行研究（書籍、論文など）を自らも広く調査し、意義ある研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる（論文作成） 得られた結果を活用して、算数・数学教育について考察できる（論文作成）。 	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについての先行研究（書籍、論文など）を自らも調査し、研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる（論文作成） 得られた結果を活用して、算数・数学教育について考察できる（論文作成）。 	<p>👍</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員のアドバイスによって自ら先行研究（書籍、論文など）を調べ、そこで得た情報に基づいて研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 調べた情報を基に、研究テーマについて考察できる（論文作成）。 	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員が指定した先行研究（書籍、論文など）で得た情報に基づいて研究テーマを設定できる（研究計画立案）。 先行研究を基に、研究テーマについて調べることができる（論文作成）。
表現力	感情や思考などを伝達可能な形式に表	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて指導教員や研究室の仲間に伝わるプレ 	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて指導教員や研究室の仲間に伝わるプレ 	<p>👍</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて、プレゼンテーションを作成でき、指 	<p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことについて、プレゼンテーションを作成できる

から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力
課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取組む力

について、理論と実践の両面から分析し、算数・数学教育上意義のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。
・課題解決に向けて研究計画を自ら立案するとともに、それを評価・改善することができる（研究遂行）。

について、理論と実践の両面から分析し、算数・数学教育上意義のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。
・課題解決に向けて研究計画を自ら立案することができる（研究遂行）。

について、理論あるいは実践の面から分析し、自分の関心のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。
・課題解決に向けて研究計画を立案することができる（研究遂行）。

て、自分の関心のある課題を明らかにできる（研究計画立案）。
・課題解決に向けて、研究計画を立案することができない（研究遂行）。

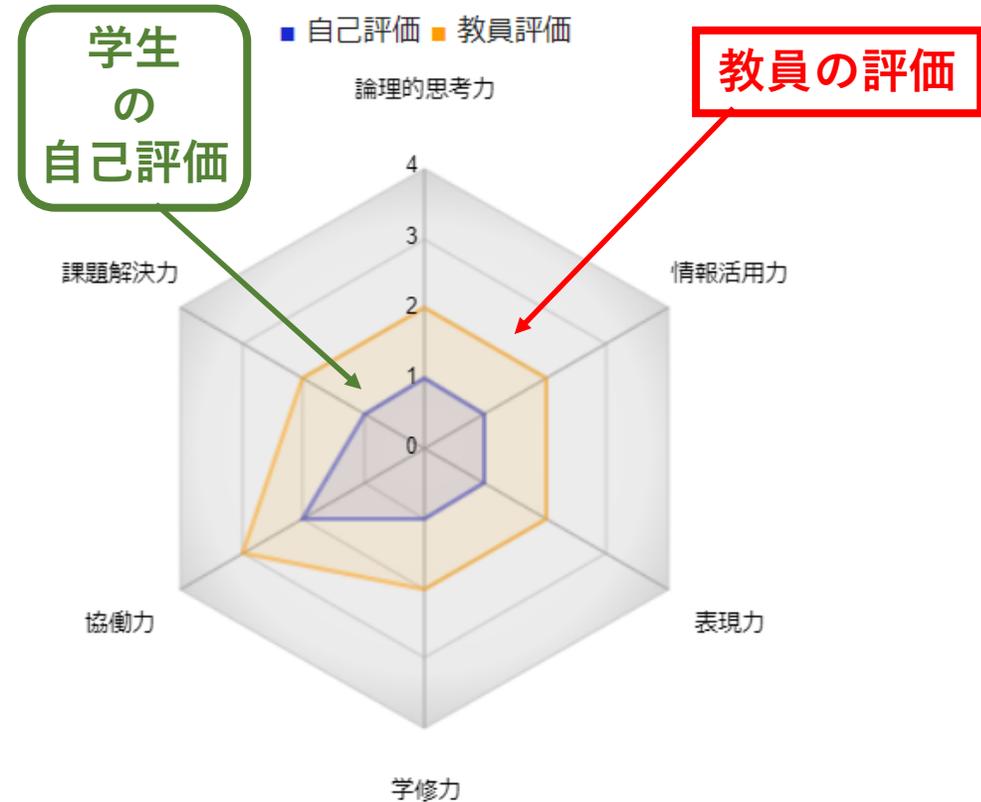
自己評価

教員評価

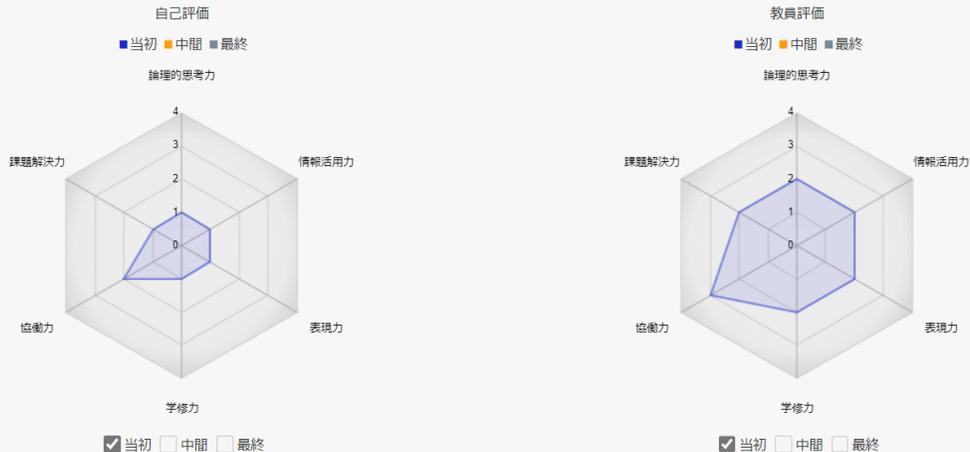
未評価 評価無し もう少し グッド

評価結果のレーダーチャート

表示は2パターンある



自己評価シート入力（教職課程以外）／評価者別レーダーチャート



CAMPUSSQUARE

酒井 一博 ログアウト

パスワード 残り59分

メニュー ランキング 履歴

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 教職履修カルテ
- 履修カルテ(教職課程以外)**
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成

HOME > 履修カルテ(教職課程以外) >

自己評価シート入力 (教職課程以外)

ループリック評価入力 EXCEL出力 キーワード検索

この授業での私の目標 学びのふり返り 課題の自己評価



この授業での私の目標 (2022/05/22 21:31) 👍 1件

私は心理学の理論を学び、算数・数学教育への応用について研究していこうと考えている。心理学の初学者であるので夏ごろまでに心理学の全体像を押さえて研究テーマを決定する。学力差や発達が進度が子供によって異なるので、個別の事情に配慮した授業について考える。言葉に出して伝えることが上手く出来ないの、聞き手が分かるように発表できるようにするのが個人の目標である。また、必要な情報を自らが考えて取得して論文作成を行うこと、教育についての知識や関心を高めることを意識する。

「学生の書き込み」と「教員のコメント」
(往還)

コメント追加

ワードクラウド

教育 卒業 よう
現場 論文 学校
在り方 実践 生徒 支援
指導 授業 提案
方法

▶ 学校教育現場の実態に応じた授業方法や生徒指導・生徒支援の在り方などについて提案できるような卒業論文になればよいと思います。

(酒井 一博 2022/05/23 08:27) 👍 0件
このコメントに対して返信 / 削除



自己評価シート入力（教職課程以外）

閉じる 印刷 印刷 印刷 印刷 印刷 印刷 印刷 印刷 印刷 印刷

- ループリック評価入力
- EXCEL出力
- キーワード検索

- この授業での私の目標
- 学びの振り返り**
- 課題の自己評価

アウトプット インターンシップ
実現 様々 本 経験 時間ごと
自律 の自ら ため 問題 インプット
意識 角度 研 的 卒性 文献
主体 自分 取り組み 勉強 期待
進路 整合 今後 意見
ボランティア 活動
努力

ワードクラウド

単語の頻度により、文字の色が変わる

自己評価シート入力（教職課程以外） / グッド者一覧

No.	日時	氏名	所属	区分
1	2022/08/05 14:48	■■■■■	教育学部学校教育教員養成課程教科理系 数学分野	学生

いいね！ 

▶ 授業日時：2022/08/01 7限

4, 5月は心理学（特に社会心理学）の本を読み、教育に応用できそうな理論を知ることを行なった。まだ、知識は不十分で詳しい理論が分かっていないので学習する必要がある。6, 7月は現代の教育課題を知ることなどで中教審の答申を読んだ。「令和の日本型学校教育」の構築に向けて〈答申〉では、個別最適な学びやICTの活用を進めていくことが明らかになった。現在の学習指導要領の詳細を押さえることに加えて、学習指導要領に準拠して尚且つ令和の日本型学校教育の視点を取り入れた授業や教育の在り方について今後考えていく。

(■■■■■ 2022/08/04 17:59)  1件
[このコメントに対して返信](#)

目指している進路の実現に向けた努力（勉強）と卒研の取り組みの整合性がうまく取れていると思います。今後はインターンシップやボランティア活動など経験を活かし、卒研でのより一層の主体的・自律的な取り組みを期待します。

(酒井 一博 2022/08/05 10:30)  1件
[このコメントに対して返信](#) / [削除](#)

本や文献を自ら探して読み込み、インプットからアウトプットにつなげるために自分の意見を持ちたいです。そのためには、じっくりと時間をかけて粘り強く様々な角度から問題について考えることを意識します。

(■■■■■ 2022/08/08 18:15)  1件
[このコメントに対して返信](#)

学生の氏名

< LMS (C-learning) との連携 >

「課題の自己評価は」はC-Learningのレポートと連携します。

- ① 対象科目について、C-Learningのレポートで提出やコメントがされると、「課題の自己評価」のタブに自動で反映されます。
- ② 対象の学生は、自分が提出した課題に対して、コメントで自己評価を行います。



協働板



レポート



活動履歴

この授業での私の目標 学びのふり回り **課題の自己評価**

団体 活動
学生
イベント 仕事
紹介 自分
チーム

- ラフデザインを提出
ラフデザインについて、ooooooooo.
ラフデザイン.jpeg (学生 太郎1 2021/05/10 11:00)
- コメント1 (佐賀 花子 2021/05/10 11:00)
- コメント1 - コメントに対する本人返信 (学生 太郎1 2021/05/10 11:00)
- コメント2 (佐賀 花子 2021/05/10 11:00)
- チームデザイン



マニュアルより抜粋

学生のコメント

論理的思考力や協働力など複数の観点で目標が設定されていて大学生で身に付けたい能力がはっきり分かるところがいいと思う。大学に入ったばかりの1年生は高校までの学び方ではいけないと感じるのではないか。高校までは教師に教わったことを覚えたり出来るようにしたりすることが中心だが、大学では専門分野を学ぶため、学習者の意欲により学びに深さが出る。学習する人としらない人では大学卒業時には大きな差が出来ているので、ルーブリック評価があることで現状の自分の位置を把握して高い基準を目指して学習することが出来ると思う。

自己評価シート入力 (教職課程以外)



この授業での私の目標

学びのふり返り

課題の自己評価

この授業での私の目標 (2022/07/19 10:55) 2件

- ①代数幾何学における前提となる知識を習得すること。
- ②代数幾何学の要点等を理解し、面白さを感じる。
- ③種々の定理や命題についての証明を通して論理的思考を高めること。



ピアコメント

同僚学生によるコメント例

(研究室所属の) 同僚学生と互いにコメントし合うことが可能

コメント追加

同僚学生からのコメント

卒業 学習 判断 幾何
こと テーマ 学部 自分
可能 意識書

ワードクラウド

- 具体的にどのようなことを進めていくのが非常に興味が湧きます。
[Redacted] 2022/07/20 18:50 1件
- 自分では思いつかなかったテーマなので、発表楽しみにしています。
[Redacted] 2022/08/01 10:49 0件
- 代数幾何学の要点をどこと判断するのが楽しみにしています。
[Redacted] 2022/08/01 21:26 0件
- 取り組んでいる参考書は難易度が高いと思いますが、教育学部生でもこれくらいは出来るという前例になるよう頑張ってください。
[Redacted] 2022/08/02 12:22 0件
- 目標①と③はとても重要ですが、それらに囚われ過ぎると何を学習しているかを見失ってしまう可能性があります。常に最終目標や大まかな道筋を意識して学習を進めるのが望ましいです。目標②が伝わるような卒業論文が書けると良いと思います。
(鈴木 拓 2022/08/02 12:37) 0件
[このコメントに対して返信](#) / [削除](#)

鈴木 拓 ログアウト

パスワード 残り53分

メニュー ランキング 履歴

メニュー

- HOME
- 履修
- 成績
- 休補/補講/教室変更
- 施設管理
- シラバス
- 履修カルテ(教職課程以外)
- TOPページ お知らせはこちら
- 自己評価シート作成
- 自己評価シート入力 (教職課程以外)
- close
- 教材管理

事例 2

共同教育学部専門教育科目「器械運動」の事例 (保健体育分野)

学生18名

確認項目	定義	基準 4	基準 3	基準 2	基準 1
論理的思考力 (安全配慮)	筋道を立てて論理的に物事を考える力。 (器械運動の授業を安全に行うにあたって必要な知識やルールを理解し配慮する力。)	器械運動の授業を行うにあたって、授業内でのルールを守り、また、器具の正しい使い方や安全に技を実施する方法を理解し、自分の技能にあった技に適切に取り組むことができる。また、自ら安全な学習環境作りに配慮し、それを積極的に維持することができる。	器械運動の授業を行うにあたって、授業内でのルールを守り、また、器具の正しい使い方や安全に技を実施する方法を理解し、自分の技能にあった技に適切に取り組むことができる。	器械運動の授業を行うにあたって、授業内でのルールを守り、また、器具の正しい使い方や安全に技を実施する方法を理解することができる。	器械運動の授業を行うにあたって、授業内でのルール、器具の正しい使い方や安全に技を実施する方法を理解することができる。
表現力	感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力。	自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、技について自分なりに分析・評価し、自己の課題について説明することができる。さらに、お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる。	自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことや、事実を正確に理解し伝達することができる。また、お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる。	自身が見たり、体験したりしたことから感じ取ったことを伝達することができる。また、お互いの考えを伝え合うことができる。	お互いの考えを伝え合うことができる。
協働力	チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力。多様な人々との繋がりや協働を生み出す力。	授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組み、授業のルールやマナーを守り、受講者の中での自分の役割を自覚し振舞うことができるとともに、安全に授業が実施できる環境づくりを自ら作る。また、受講生同士の関係構築に積極的に取り組むことができる。	授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに積極的に取り組み、授業のルールやマナーを守り、安全に授業が実施できる環境づくりを自ら作る。また、受講生同士の関係構築に積極的に取り組むことができる。	授業の中で、互いに協力しながら授業の準備や片付けなどに取り組み、授業のルールやマナーを守ることができる。	最低限の授業の準備や片付け、授業のルールやマナーを守ることができる。
課題解決力	多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取り組む力。	器械運動に積極的に取り組むとともに、技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。また、様々な視点から自己の課題を捉え、柔軟に課題を解決していくことができる。	器械運動に積極的に取り組むとともに、技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。	技などにおける自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。	技などにおける自己の課題を発見し、運動の取り組み方を工夫することができる。

**ループリックは「宇大スタンダード」に則した形式
(必ずしも6項目全てである必要はない)**

自己評価シート入力 (教職課程以外) / 担当学生一覧

教員所属	教育学部
教員コード	23620141
教員氏名	松浦 佑希
年度・学期	2022 前期
シート	器械運動

●一括登録する場合、評価種類、入力状態、CSVファイルを選択し、「取込実行」ボタンをクリックしてください。

評価種類 : 指標評価 小項目評価

入力状態 : 一時保存 完了

●フォーマット出力をする場合、評価種類、評価期間を選択し、「フォーマット出力」ボタンをクリックしてください。

評価種類 : 指標評価 小項目評価

評価期間 : 当初 中間 最終

1件目 から 19件目の検索結果を表示しています (全部で 19件あります)

検索結果ページ: << 前へ 1 次へ >>

No.	開講年度	開講区分	時間割コード	開講科目名	学生所属	学籍番号	学生氏名	学年	ルーブリック評価					
									当初		中間		最終	
									教員	学生	教員	学生	教員	学生
1	2022	前期	S010378	器械運動	共同教育学部学校教育教員養成課程教育人間科学系 特別支援教育分野	●	●	3	完	未	保	完	完	完
2	2022	前期	S010378	器械運動	共同教育学部学校教育教員養成課程芸術・生活・健康系 保健体育分野	●	●	3	完	完	保	完	完	完

学生数18名

◎ 共同教育学部専門教育科目「器械運動」において、Campus Square 上で実施したルーブリック評価について

学生のコメント：

- ・自分のレベルを認識することができた。
- ・自分の授業に取り組む前と後で何がどう変化したのか分かりやすかった。
- ・授業を受けて終わりではなく、事前の自己評価と事後の自己評価を見比べ、学びを実感することができた。
- ・自分の気持ちや授業に対する意欲の変化を見ることができてよかった。回を追うごとに技の完成度が高められ、グループでの演技を高めたいという気持ちが増えていったので、それを目に見える形で示すことができてよかった。
- ・事前や途中、終わりそれぞれグラフを視覚化することで自己評価を確認しやすかった。
- ・自分の器械運動を通しての成長が目に見えて分かった。また、先生からの評価ももらえ、見てもらえているということがわかり、モチベーションになった。
- ・自分がどのような姿までいくことができればいいのか具体的に分かるため、これからどうすればいいのか、どのように授業に参加していけばいいのか目標にしやすくなる。また参加できない中でもできることというのはたくさんあると分かったし、その中でもルーブリック評価というのにはできない中でもどう授業に参加すればいいのかを示してくれた。
- ・自己評価と他人からの評価を比較して、客観的に見直すことができた。
- ・授業開始時から終了時にかけてどのように自分が変化していったかを客観的に評価し視覚的に捉えられた。

*** 続き ***

- ・ 段階を踏んでできるという点がいいと思ったが、少し文章が多く、みづらいなと思った。
- ・ 正直、そこまで手が回っていなかったのも、どのように学習と結びついているのか実感がない。
- ・ 正直に言うと、気にしているタイミングが少なく、あってもなくてもどちらでも、という感じだった。
- ・ 4段階評価しかなくて、形式的感が少しあるから（最初より最後の方が良くなるようにするか、みたいな）。
- ・ 段階的に自己評価及び学びの実態の振り返りができたことは良かったが、評価項目の言い回しがもう少し単純なものの方が、自分に当てはめて考えやすかったのではないかと感じた。
- ・ ルーブリック評価の項目の文章が長いのと、どの項目に値するのかあまりよく分からずに付けてしまった。
- ・ 教務ポータル自体をあまり開く機会がないのに加えて、C-learningとLMSで課題に取り組んでいるのに三つ目のものとして行うものがやりづらい。

事例 3

基盤教育科目 リテラシー科目 「Integrated English」
の事例

学生30名

基準4

基準3

基準2

基準1

論理的思考力

情報活用力

表現力

学修力

協働力

課題解決力

Reading (Summarizing & Understanding)
The student can read and understand short, simple passages in the level-appropriate textbook at 60 words a minute and answer basic questions about the content

Very confident.

Reading (Summarizing & Understanding)
The student can read and understand short, simple passages in the level-appropriate textbook at 60 words a minute and answer basic questions about the content.

Confident

Reading (Summarizing & Understanding)
The student can read and understand short, simple passages in the level-appropriate textbook at 60 words a minute and answer basic questions about the content.

Not confident

Reading (Summarizing & Understanding)
The student can read and understand short, simple passages in the level-appropriate textbook at 60 words a minute and answer basic questions about the content.

Not confident at all

Listening(Note-Taking & Understanding)
The student can:
(a) understand basic phrases, short and simple questions, and basic instructions
(b) understand and follow the instructions for an activity.
(c) understand simple classroom announcements.

Very confident.

Listening(Note-Taking & Understanding)
The student can:
(a) understand basic phrases, short and simple questions, and basic instructions
(b) understand and follow the instructions for an activity.
(c) understand simple classroom announcements.

Confident

Listening(Note-Taking & Understanding)
The student can:
(a) understand basic phrases, short and simple questions, and basic instructions
(b) understand and follow the instructions for an activity.
(c) understand simple classroom announcements.

Not confident

Listening(Note-Taking & Understanding)
The student can:
(a) understand basic phrases, short and simple questions, and basic instructions
(b) understand and follow the instructions for an activity.
(c) understand simple classroom announcements.

Not confident at all

Speaking (Presentation)
The student can:
(a) present and speak for one minute on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.
(b) give a response to a question or state an opinion with some relevant details.
Writing
The student can:
(a) write paragraphs on level-appropriate topics of about 100 words or more after intensively covering the topic and vocabulary in class.
(b) make a basic summary of the targeted reading.

Very confident.

Speaking (Presentation)
The student can:
(a) present and speak for one minute on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.
(b) give a response to a question or state an opinion with some relevant details.
Writing
The student can:
(a) write paragraphs on level-appropriate topics of about 100 words or more after intensively covering the topic and vocabulary in class.
(b) make a basic summary of the targeted reading.

Confident

Speaking (Presentation)
The student can:
(a) present and speak for one minute on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.
(b) give a response to a question or state an opinion with some relevant details.
Writing
The student can:
(a) write paragraphs on level-appropriate topics of about 100 words or more after intensively covering the topic and vocabulary in class.
(b) make a basic summary of the targeted reading.

Not confident

Speaking (Presentation)
The student can:
(a) present and speak for one minute on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.
(b) give a response to a question or state an opinion with some relevant details.
Writing
The student can:
(a) write paragraphs on level-appropriate topics of about 100 words or more after intensively covering the topic and vocabulary in class.
(b) make a basic summary of the targeted reading.

Not confident at all

Reading (Extensive)
The student can read extensively with 1800 words per week.

Very confident.

Reading (Extensive)
The student can read extensively with 1800 words per week.

Confident

Reading (Extensive)
The student can read extensively with 1800 words per week.

Not confident

Reading (Extensive)
The student can read extensively with 1800 words per week.

Not confident at all

Speaking (Discussions and Conversations)
The student can:
(a) give basic classroom instructions and perform level-appropriate classroom activities in pairs and groups
(b) ...
The student can present and speak on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.

Very confident.

Speaking (Discussions and Conversations)
The student can:
(a) give basic classroom instructions and perform level-appropriate classroom activities in pairs and groups
The student can present and speak on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.

Confident

Speaking (Discussions and Conversations)
The student can:
(a) give basic classroom instructions and perform level-appropriate classroom activities in pairs and groups
The student can present and speak on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.

Not confident

Speaking (Discussions and Conversations)
The student can:
(a) give basic classroom instructions and perform level-appropriate classroom activities in pairs and groups
The student can present and speak on an level-appropriate topic after adequate preparation time and intensively covering the topic in class.

Not confident at all

Writing
The student can write a basic paragraph about familiar topics with introduction sentence, supporting sentences, and conclusion sentence.

Very confident.

Writing
The student can write a basic paragraph about familiar topics with introduction sentence, supporting sentences, and conclusion sentence.

Confident

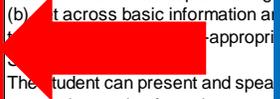
Writing
The student can write a basic paragraph about familiar topics with introduction sentence, supporting sentences, and conclusion sentence.

Not confident

Writing
The student can write a basic paragraph about familiar topics with introduction sentence, supporting sentences, and conclusion sentence.

Not confident at all

ループブックは「宇大スタンダード」に則した形式



担当教員の感想

- ・ ルーブリックをシステムに入れ込む作業が出来さえすれば、入力自体は難しいことではない。
- ・ シラバスにルーブリックを掲載し、通常の成績評価をどう連動させるか、ということが未だ想定外。
- ・ 今回は30名のクラスだが、実際にひとりひとりルーブリックで評価していくのはなかなか難しいと感じる。EPUU専任教員は通常150名ほどを担当するため、かなり困難な作業である。非常勤講師の場合は、300名近くを担当する教員もいるので、非常勤講師の担当クラスは無理かと思われる（そもそも非常勤講師は教務ポータルに入れない）。
- ・ 課題やテストと、ルーブリックとがリンクし、自動的にルーブリック評価ができるようなシステムであればかなり良いと思う。
- ・ このシステムとは別に、個別のタスク（個々の課題）に対するパフォーマンス評価としてのルーブリックも実施したが、こちらは比較的取り組みやすく、EPUUの中でもスタンダードになりつつある。
- ・ 「宇大スタンダード」をベースとするEPUUのルーブリックの作成については、もう一度じっくり時間をかけて検討する必要がある。

学生の様子

- ・ 学生も全く問題なくシステムの操作をしていた。欠席した学生には、マニュアルを見て自分で操作するように指示したが、問題なかった。
- ・ 学生の自己評価は、一般的に「自信がある」と答えることはあまりなく、きちんとできていても「自信がない」と答えるのが通常ではないかと思われる。また、何となく、感覚的にチェックしている感じもある。

担当教員の感想（ループリック評価試行を行ってみて）

・感想ですが、これは容易ではない、と思った。まず宇大スタンダードのそれぞれの6つの「力」のループリックをつけ、そのあと、各項目に「グッド」マークをつけていくので、単純に1人につき10回のクリックが必要であり、さらに、今回は、成績評価の項目とループリックの項目が連動していないため、主観的になってしまい、自分としてはきちんとした評価とは言えないと思った。

今後どうすればよいか、

・成績評価と、宇大スタンダードの「力」を完全に結び付けて、ある程度自動的につけられるようにする。

・学生の自己評価のみ、当初・中間・期末で行う。

などが考えられる。

学生のコメント

・ループリックがあったことでリーディングやリスニングに明確で詳細な目標が設定されていたため、自分の弱点を把握したうえで改善に努めながら英語を学習することが出来たと感じるから。

・基準があるので、自分がどこにいるか分析し能力向上に何が必要か明確になった。

・自分の学習内容が定着しているかどうかを見つめ直すことができるから。

事例 4

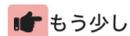
基盤教育科目 教養科目 総合系科目
「アカデミック・スキルズ」
の事例

学生42名

基盤教育科目「アカデミック・スキルズ」のルーブリック（受講者数42名）

宇大スタンダード	説明	4（素晴らしい）	3（良い）	2（もう少し）	1（不十分）
論理的思考力	筋道を立てて論理的に物事を考える力	<ul style="list-style-type: none"> 自らの主張を展開する際に、具体的な根拠を十分に示すことができている。 論理の飛躍が無い説明をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの主張を展開する際に、一部の箇所ですべて具体的な根拠を示すことができている。 一部の説明において論理の飛躍が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの主張を展開する際に、抽象的・主観的な「根拠」のみが示されている。 説明の中で重大な論理的欠陥が数多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの主張を展開する際に、根拠が示されていない（感想文に終始している）。 説明全体を通して論理を追うことができない。
情報活用力	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力	<ul style="list-style-type: none"> 著書と論文をそれぞれ1つ以上含み、複数の情報源を参照している。 先行研究の成果と不十分な点を示すことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 著書か論文のどちらかを1つ以上含み、複数の情報源を参照して考察を展開している。 先行研究の成果と不十分な点が曖昧である。 	<ul style="list-style-type: none"> 著書と論文は参照していないが、それ以外の情報源を複数参照して考察を展開している。 先行研究の成果と不十分な点が示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 著書と論文以外の情報源を1つのみ参照して考察を展開している。 情報源を一切参照していない。
表現力	感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ポスターに「テーマ、リサーチエッセイ、仮説、先行研究の検討、調査方法、考察、結論、参考文献」のすべての項目が十分に記載されている。 十分説得力のある発表ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ポスターに記載の「テーマ、リサーチエッセイ、仮説、先行研究の検討、調査方法、考察、結論、参考文献」のうち、説明が不十分な項目がある。 一部説得力に欠ける発表になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「テーマ、リサーチエッセイ、仮説、先行研究の検討、調査方法、考察、結論、参考文献」のうち、記載されていない項目がある。 多くの箇所において説得力に欠ける発表になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ポスターに記載すべき「テーマ、リサーチエッセイ、仮説、先行研究の検討、調査方法、考察、結論、参考文献」を無視した構成となっている。 発表全体を通して説得力が無い。
学修力	一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする力 変化に対応し、自らを変えようとする力	<ul style="list-style-type: none"> 自ら関心のある社会現象を選び、それについて積極的に調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら関心のある社会現象を選ぶことができているが、積極的に調べることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身がどのような社会現象に関心があるか、十分に考えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会現象に関心を持つことができていない。
課題解決力	多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力 課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取組む力	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げた社会現象が抱える課題について、十分に考え抜かれ、現実的な意見を示すことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げた社会現象が抱える課題について、考え抜かれた意見が示されているものの、現実的とは言えない内容が一部含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げた社会現象が抱える課題について、独自の意見が示されているものの、十分に考え抜いた意見とは言えない。あるいは、現実的な意見とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げた社会現象が抱える課題について、独自の意見が示されていない。あるいは世間で既に言われていることを繰り返すだけの意見しか示されていない。
協働力	チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力 多様な人々との繋がりや協働を生み出す力				

自己評価

 教員評価


担当教員の感想

- ・ 学期途中から試行に参加したため、当初は紙にプリントアウトしたルーブリックを利用し、授業中盤以降に教務ポータルでの自己評価シートを活用した。マニュアルを提示しながら操作の説明をすることで、学生は問題なく自己評価を行うことができていた。
- ・ ルーブリックを利用することの意義や、自己評価を行うことの意義を、1回目の授業において十分に説明することが重要であると感じている。 アカデミック・スキルズでは、「自己評価を通じ自分自身の様々な側面を振り返り、今後の学びにおいてどういうところに力を入れていかなければならないか自分自身でも判断できるようになろう」というメッセージを伝えてきた。
- ・ この授業では、各学生が興味を持っている社会現象を一つ取り上げ、情報収集を行いながら考察を加え、最終的にポスターセッションで論理的な発表をすることを求めている。したがって、これまでも学生の様々なパフォーマンスに対して効果的かつ効率的にフィードバックを行うために、独自にルーブリックを利用してきた。 今後は、自己評価シートを参照しながら、より効率的に学生へのフィードバックができるのではないかと考えている。

学生の様子

- ・ 達成すべき目標を強く意識しながら授業に臨むことができる、という点にメリットを感じている学生が多いと感じた。
- ・ 特に、授業内で発表をするときに、どのような点に注意をして準備を進めればいいのか具体的な指針を得ることができたという声を複数聞くことができた。

検討課題

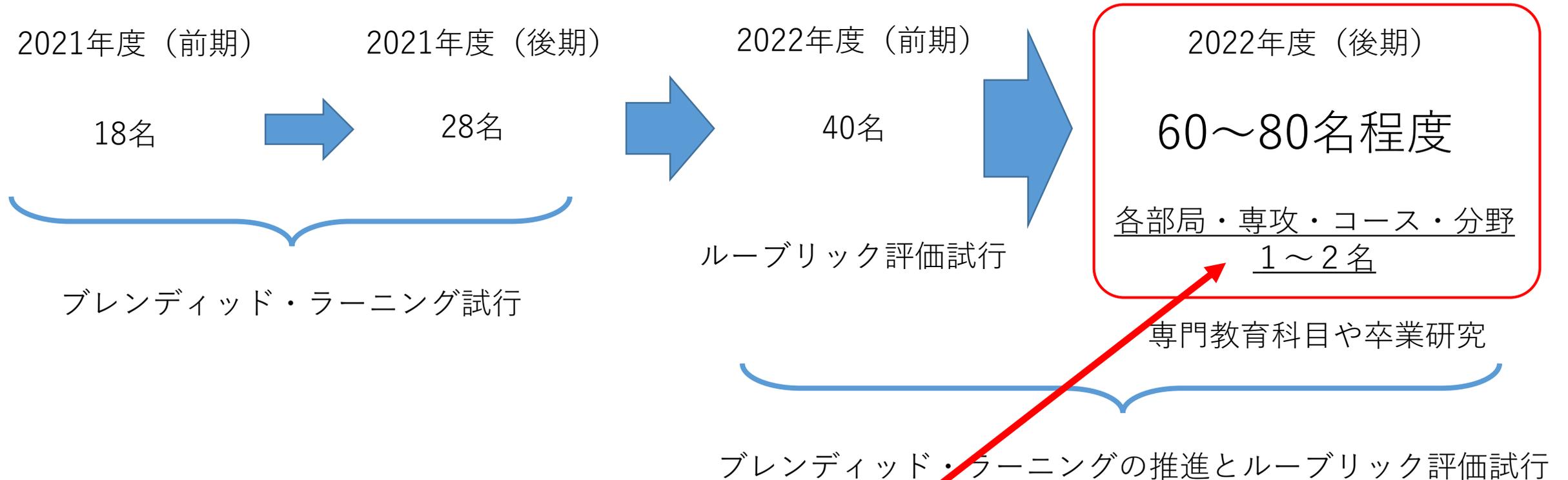
- ・ 授業の履修者（学生）の目標や振り返りの記述，及びそれに対する教員のコメントは，同じ授業の任意の履修者（他の学生）が参照可能である。また，任意の履修者（他の学生）がコメント（返信）することも可能である。この機能については試行を頂いた一部の先生方からは，「他人に見られることに抵抗を感じる学生が一定数いる」というご意見を頂いている。

- ・ 「学生の負担増にも配慮が必要」とのご意見を頂いている。
- ・ 「学生数が多い場合，教員の負担が大きい」とのご意見を頂いている。
- ・ 非常勤講師への対応（現時点では，教務ポータルに入ることができない）。

- ・
- ・
- ・

★2022年度（後期）におけるルーブリック評価試行へのご協力のお願い

試行状況



Plus-DX推進チームから全学教務委員会に対し、ご協力頂ける先生方の選出を依頼

（基盤教育関係科目については別途お願いをさせていただきます）

★基幹科目群の設定と、同科目群においてルーブリック評価運用可能性について検討のお願い

基幹科目群： 「卒業研究」 + 「カリキュラム・ツリーにおいて、卒業研究と直結する、例えば、実習・演習・プロジェクト研究・プロジェクト演習・研究セミナー、特別研究など」

1年次	2年次	3年次	4年次	学修・教育目標
(前期)	(後期)	(前期)	(後期)	
教育概論 教育心理学 教育社会学 教育法 特別支援教育の基礎と実践 教育方法の実践と事例研究	教育概論 教育心理学 教育社会学 教育法 特別支援教育の基礎と実践 教育方法の実践と事例研究	教育概論 教育心理学 教育社会学 教育法 特別支援教育の基礎と実践 教育方法の実践と事例研究	教育概論 教育心理学 教育社会学 教育法 特別支援教育の基礎と実践 教育方法の実践と事例研究	学修目標や教育目標について基礎知識、知識を修得し、継続しての修得を目指すことなどを目指す。
小学校教育 小学校教育 算数 小学校教育 小学校教育	小学校教育 小学校教育 算数 小学校教育 小学校教育	小学校教育 小学校教育 算数 小学校教育 小学校教育	小学校教育 小学校教育 算数 小学校教育 小学校教育	子どもを成長・発達させるための人々の役割について理解を深め、一人ひとりの子どもを成長・発達させることのできるよう、実践に活かせる能力を身に付けていくことを目指す。
各分野専門科目 芸術・文化・健康系・音楽 芸術・文化・健康系・音楽	各分野専門科目 芸術・文化・健康系・音楽 芸術・文化・健康系・音楽	各分野専門科目 芸術・文化・健康系・音楽 芸術・文化・健康系・音楽	各分野専門科目 芸術・文化・健康系・音楽 芸術・文化・健康系・音楽	幅広い専門科目に関する知識を修得し、子どもを成長させるための実践に活かせる能力を身に付けることを目指す。
入学ガイダンス データサイエンス入門 Integrated English IA・IB Advanced English I 人文社会学系 人文社会学系	履修に必要となる学修目標、本学の事柄に理解を深め、幅広い知識を身に付け、実践に活かせる能力を身に付けることを目指す。			

カリキュラム・ツリー

目的：

基幹科目群において新システムを利用したルーブリック評価を推進し、（同じ専攻・コース等に所属する全ての学生に対し）汎用的力量を涵養する機会や、学生が獲得した力量を量的に測定するための機会の確保する。

（注）可能であれば（基幹科目群に限定せず）多くの科目でルーブリック評価を推進し、汎用的力量を涵養する機会や、学生が獲得した力量を量的に測定する機会を確保する。

今後の予定：

可能であれば、令和5年度入学生に対し、標準聴講年次が2年次の基幹科目や3年次の基幹科目での運用開始を目指す。今後、これを見据えた試行の計画・実施を順次お願いする。

令和6年度

令和7年度

Plus-DX推進チームから全学教務委員会に対し、★設定と検討を依頼

ブレンディッド・ラーニングの推進と 多面的評価による自律的学修者の育成 :LMSと連携したe-ポートフォリオの活用を通じて

ブレンディッド・ラーニング（反転授業）

ブレンディッド・ラーニングとは、複数の授業形式を組み合わせた授業形態全般を指し、LMSと対面での学習を組み合わせた授業形態を意味する。

反転授業はブレンディッド・ラーニングの一種である。反転授業では、まず、基本的な知識の習得を事前学習として課す（講義動画やPDFの資料などを提示する）。その後の対面授業では、事前学修における知識の習得を前提とした応用的なテーマや問題に、学生同士で協働して取り組む（グループワークやフィールドワーク、ディスカッションなど）。このことで、学生をより深い理解へと導くことを狙っている。

PLUS-DX推進チーム

チーム長
長谷川 光司（教育DX担当副学長）

教学マネジメント企画室
酒井 一博（共同教育学部）
石井 和也（基盤教育センター）

各学部教務委員長
大森 玲子（地域デザイン科学部）
佐々木 一隆（国際学部）
佐々木 和也（共同教育学部）
高山 善匡（工学部）
大澤 和敏（農学部）

吉田 聡太（大学教育推進機構）
（敬称略）

